大阪新聞

自第十六号
至第四十号

二

1寧8
69
2

69
2

明治五年壬申七月廿三日
西洋千八百七十二年
本日晴寒暖計七十八度

隔日發兌

大阪新聞 第十六號

大阪府布令

此度京都ニ於テ別紙汎告ノ通博覧館取設有之毎月六ケ日開館展列相成候間博識ノ志有ル者ハ為見物上京可致事

但物品差出度モノハ當府ニ申出候ハヽ添書可下渡候事

右之赴管内無洩相達スルモノ也

壬申六月

博覧館汎告

文明ヲ助ントスルハ會ヲ開ク者ノ志智識ヲ研ントスルハ場ニ入ル人ノ願ナリ其智識ヲ研ク丁一時一日ノ蚊ク尽ス所ニ非ス然ルニ開場限アレバ車故相障礙シテ観ルニ意アル

モ臨ムニ路ナシ是太タ憾(カン)ムベキナリ是ニ於テ更ニ博覧館ヲ起シ常ニ開場シテ此遺憾(イカン)無カラシメントテ之ヲ請願シ忝ク允可ヲ得タリ乃チ六月廿日ヨリ始メ一六ノ日ヲ以テ館ヲ閉キ夏ト十ク冬ト新古ノ品類ヲ排列シ日ニ月ニ遠近ノ物産ヲ蒐輯(シウシフ)セントス冀クバ四方ノ君子此意ヲ領シ時々場ニ入テ熟覧シ汲々(キフ〳〵)物ニ即テ講究(コウキウ)シ知ヲ致シ業ヲ修メ功夫ヲ運ラス精窮ニメ発明ヲ成ス萬大ナラバ國家文明ノ進歩益盛ンニメ會主ノ怡悦(ヨロコヒ)モ亦斯館ト俱(トモ)ニ悠久疆(カギ)リ無ラント云

明治五年壬申五月

京都　御用達同社中

総區長

一假館　西本願寺書院　毎月一六ノ日　朝八字ヨリ夕四字閉

運券價二銭

但嬰児ハ無券

物産引立

一出品スル人ハ其名所并来由ヲ記ス可シ會社ヨリ預リ券ヲ渡スベシ賣物ハ其元價ニ入費ヲ加エ賣拂フ故ニ精々引下ゲタル價ヲ記シ出ス可シ

一新規発明ノ品機械等ハ用ヒ方ヲ詳カニ記スベシ

一物品入用ノ節ハ預リ券引換ニ何時ニテモ返ス可シ永久ノ會ユヘニ返却ノ期限ヲ定メズ

○投書

予曾テ聞ク去歳来魯国及支那ノ国境ヨリ家畜傳染(デンセン)ノ病

流行セシト此病根ヲ治療スルニ適宜ノ薬剤ヲ不レ得ト雖ニ去年上海在留ノ亜国医官ヨリ東京大学校御備医官エ報知ノ書ヲ譯シテ豫防ノ策濆布アッテ是ヲ治療スル適度ノ剤ヲ施サント医官方頗ル尽カノ講究ノ由然ルニ作日或ル犬予ガ戸前ニ来テ倒レ前足癖痿シテ頗苦痛ノ体他犬側ニ来リ彼レノ口唇ヲ臭齕シテ頭ヲ左右ニ転シ逃出ス故ニ家僕ニ令シテ病犬ヲ逐放セリ然ルニ其犬今朝ニ至リテ死セリ革工負テ帰ル猶今昨日臭齕セシ犬又病メリ苦痛ノ体ヲ着目スルニ漸々痿深シテ殆ト死ニ至ラントス予察スルニ家畜傳染ノ病ト思フ若シ其病ニ必セハ今朝死セシ犬ヲ刎ギ其皮ヲ以テ鼻緒ヲ拭ヲ製シ或ハ棄シ其死肉ヨリ人体ニ傳布セント恐ル衆人躰ク注意シテ豫ノ防汙スルノ策ナクンバ姑息シテ大ナル害ヲ得ハ万民ノ不幸此上ナシ予死セシ犬體ヲ取斥付所置ヲ區長ニ行テ告問セント欲ス若シ世間ニ其レニ類スル死犬アラバ兼テ公布ノ豫防法ヲ以所置セズンハアラス故ニ予不二敢思察ノ微端ヲ新聞社中ニ投書ス

七月八日　西大組住賤賈　譙松房二郎

○當地無宿ノ小一郎ナルモノ先年口論ノ餘人ニ疵為負候罪ニヨリテ徒刑ニ被為處候処刑業中煮賣屋エ立寄

飲酒醉飽終ニ酌取女ニ密淫ス其趣露現手鎖被入候程ノ事頼者ナルニ一旦前非ヲ悔ヒ大ニ改心致シ仕事按群出精ナスノミナラス刑場ニ於テ脱走人ヲ捕ヘ候事四度ニ及フ又ハ差火ヲ見顕シ候ナドノ功ニヨリ追々減刑ニ相成満刑ノ上刑場小使ニ被取揚毎月五金ノ給ヲ受ル由猶又百足星熊吉ナル者奸淫ノ罪ニヨリ致入刑居候所是モ改心別而心得方宜敷ニ付満刑ノ上同様小使ニ被取揚タリ父ナル藤助殊ニ感悦肩身廣ク人ニ對シテ吹聽スルハ親ノ至情左モアルベシ

評者曰人誰カ過チナカラン過テ改レバ悪人即チ善人也世多ク刑餘ヲ忌ミ嫌フ何ゾ其量ノ狹小ナルヤ刑餘モ亦人ノ蔑視ナ甘シ奮與ノ志アルモノ之ヲシ自棄自暴ノ甚シト云フベシ官今両人ヲ採用アルハ業練ニ熟練シ便用ニ便捷ナルガ為ノミニ非ズ改心反正ヲ勸誘シ嫌忌ノ惑ヲ解給フ御処置ナルベシ

○英国龍動當夏暍計百十五度ニ及ヒ中暑シテ死ルモノ千五百人バカリトゾ且龍動都他呼ヱ轉移ノ噂アリト或人傳写セリ

○當春来浪花兎ヲ飼翫フ大流行シテ時々市ヲ立或競會アリテ名兎ハ頗ル高價ノヨシ

物價日表

堂嶋濱
摂津 廿六日休 廿七日三条十戔
肥後 廿七日三条十戔
筑前 廿七日三条卒戔

水油一石 廿七日廿二夜二ア

開商社商品時價			
酒拾駄	地廻 四十五条 下 四十条 三十条	黒砂糖三嶋	四条 米五戔ヲ 五条 十七戔八
塩百俵	一俵 四十五斤入	綿 金壱両	阪上七百目 盛 京丹七百廿目 阪丹七百六十目
茶百斤	番茶 十二条 卒戔 赤穂 九条	木綿 雲 豫	百反 四十二条 二十二条
丁鶏	大頭 洋七十八枚 上 五十二枚 四十二枚	生糸	百斤 刻京極 三条 廿戔ヨリ 七十戔
	一番 二十戔 二番 二十七戔 羽雛 八十 五戔	純銅百斤	二十 条
晒蠟百斤	地廻十六条 廿戔 五十戔 内登十四条 卒戔	昆布	百石目 三ツ石 八百五十条
		寒天	角 千本 四条ヨリ 六条七十五戔迄

伏テ糞フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ヱ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨッテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ △觀セモノ集會等引札 其他世間ヱ披露事件総テ應其望出版一行ハ三字ニ付 定價五銭宛ニテ 引請可申候

本局 本早通四丁目 書籍會社
撰集所 長堀橋筋二丁目 青湖堂島
取次三府及諸國

○横濱ヨリ急来翰ノ寫

當月廿一日メリケンヨリ入来ノ蒸気船凡飛脚船ノ一倍程有大船同夜十二字頃右船ヨリ出火ス但シ右船メリケンヨリノ荷物不残揚ケホンコンヱ積荷物并ニドル銀六十万ドル余リ焼失致シ船ハソコストン計リ残リ申候此船價百廿万ドルノ請合ナル由実ニ大金一時ニ焼失ニ相成候其節外国人日本南京人多分海ヱトビ入助リ候得共中ニ南京人四人ドル銀ヲ體ニクヽリ付ケ海ヱ飛入右重ミニテ四人トモ死ス外国人大ニ笑フ廿二日朝八字頃ヨリ川蒸気船ニ「ポンプ」ヲ五ツ計乗セ外国人百人計リ乗込右火事船ヱ寄セ発スルニ一時計リニテ鎮火ス思フニ此ポンプ始メヨリ用フレバ皆迄焼失致スマシキニ請合附ニテ候間ヨクレシモノ欤ト存候

運上所輸出入

七月廿二日 輸入

神戸沙糖漬物 四十鏇十三弗

同 廿四日

牛乳 八箱 三十二トゼイン

小間物取交 一箱

ヒコーソーター 三箱 三百貮

紅花 八十斤 六十弗

玉突臺 道具入箱百弗

并手アヲ

西洋傘 一箱 三百六十本

フラレ子ル一箱 三十トゼイン 九百

白砂糖 二百俵 一万九千斤 ○七五

煎豆 二箱 百貮十八弗 七十五セイント下

皆 一箱 九十足 九十弗

同 輸出

廿三日 神戸

○切昆布 百六俵。六〇大楓子 四十 弗

○椎茸 二十箱 五〇挽掛子 五千三百斤

○煎海鼠 四千五百五十斤 三〇切昆布 七千

九百二十斤 。六〇雞鰒 五百八十斤 八

○茯苓 四百二十斤 〇七五〇姜虫 二百

三十斤 唐白朮 三千二百九十斤 〇

金銀花 九斤 〇小塗箱 十二 〇

菓タバコ 七万九千斤 七五〇切昆

布 一万三千斤。六〇丁子 一万四千斤 〇

空油桶 六十 〇貝柱 五千百平斤

明治五年申年 大阪新聞 第十七號 〇

西洋千八百七十二年 明治五年 壬申 七月 廿二日 本日晴 寒暖計六十七度

隔日發兌

大阪新聞 第十七號

〇 作恐口上

昨年来御巡邏様御保護被為在私ニ至迄火盗ノ難ヲ凌安寧ニ職業相営難有仕合ニ奉存候然ル所私親類在方ノ者西瓜手作仕候間右西瓜拾ヲ作恐献上仕度奉願上候御上納相成候ハヽ重々難有仕合奉存候以上

明治五壬申年 北組第十三區堂島裏一丁目

七月 十日 九屋直三郎

御出張所様

出張所ヘ付紙

書面ノ趣本府ヘ申達候所神妙ノ義被聞届候段差図

有之候間其段可相心得事

○赫日炎天ノ下ニ立チ甚凡疾雨ノ中ヲ行ク亦ニ邏卒ホド昼夜ノ苦状ヲ嘗ムルモノハナシ府下幾万ノ人家盗ノ恐レナク火ノ警メナク安然眠ニ就クハ偏ニ此巡邏ノカナリ試ニ巡邏ノ無キ以前ヲ思エ石割踊込ナド幾等ノ恐情ゾヤ幾等ノ戒心ゾヤ然ルニ是迄一人其労ニ酬ヒ其徳ヲ報ズル者ナキノミナラズ却テ各戸取締入費ノ取立アルヲ苦情申立ルモノアリ無謂支ナリ然ルニ此丸ヤ何某此理ヲ知リ其本ヲ忘レズ恩ニ酬ユルノ品ハ軽シト雖モ其志ニ於テハ至重ト云ベシ

○六月廿八日安堂寺町通中橋筋ニテ猫児ヲ懐ニ抱キテ東ヨリ往ク者アリ面ルニ洋犬ヲ牽テ西ヨリ来ル者アリテ町辻ニテ出合シニ彼猫ハ犬ノ姿ヲ見ルヨリ忽チ恐怖シテ懐中ヨリ出ントスルヲ犬ハ猫ヲ目懸テ飛カヽルニ猫驚動シテ飛出ル所ヲ噬伏タリ猫主大ニ怒テ犬ヲ撃殺サントス犬主ハ之ヲ支ヘントスルヨリ竟ニ争闘トナリ又場ニ及ハントス近傍ノ者駈付押宥メテ漸々止ミタリトソ右両人ハ己ガ犬猫ヲ愛スルヨリ喧嘩トナリ若シ人家希ナル処ニテ止ル者無クバ必死傷ニモ及フベシ古語ニモ一朝ノ怨ニ其身ヲ忘ルヽト云リ慎ムベキ事ナリ

〇島ノ内中橋筋ニ市川ト云医師アリ小児按腹針療等ニ名アリ一朝北七八才ノ女小児ヲ玄関ニ寝置キ傍ニ凡呂敷包ヲ添テ小用ニ行ク体ニテ戸口ヨリ出シニ時刻過レ共行方知レズ因テ右包ヲ開キ見レバ塵紙ニ書附アリ此小児當ニ才名ハ市太郎病身ノ生質ナルニ我等當時貧窮ニ迫リ無拠貴宅エ捨置ナリ何卒貴医其心ヲ憐察シ此児養育被下候ハヽ我等家業丹精シ出世ノ上ハ御恩報謝ノ為罷出可申ト書置タリ医師此旨ヲ府廳エ出訴シ近隣ニ托シ養育致シ居ル由

因ニ云大阪府制法ニ棄児嬰胎制禁ナリ若貧窮ニシテ養育能ハサルモノハ申出ツベシ救助遣ハスベシトアリ世ニ棄児スルモノ多クハ躬貧困ニシテ養育能ハサルノ止ムヲ得サルニ出ルヲ以テ此制法ヲ布カレタルモノナルベシ然バ公然其情ヲ訴エ救助ヲ仰ギ可ナランニ其辨ナキハ弟一令ニ違フノ罪アルノミナラズ不慈ノ罪モ亦大ナリトスベシ蓋シ恥テ上訴セサルモノカ或ハ制法ノ旨心得サルカ母ノ心圖リ知リ難シ

又云棄児ハ多分路傍軒下等ニ棄ルモノナルニ児ノ病身ヲ慮リ之ヲ医家ニ托スルハ却テ不慈ノ罪ヲ贖フニ足ルベシ

〇長堀橋筋八幡筋東入所ニ膏藥ヲ鬻(ヒサグ)者ノ女房店ノ若者ト密通シ近来ハ右ノ男松屋町辺ニ住居シ彼婦人ヨリ金北両借受ケ又タ婦人ノ口次ニテ亭主ヨリモ二拾金借用シケルガ其後右男新婦ヲ要(メト)リケレバ婦人嫉(シッ)妬シテ金子催促(サイソク)シケレ共右揉ノ金子故返済(ヘンサイ)セザレバ婦人益瞋(マスマスイカ)リテ亭主ヨリ理解シケレ共更ニ聽入ズ終ニ金子貸借ノ事件ヲ以テ府廳ヱ出訴シケルニ密通ノ始末(シマツ)露顕(ロケン)シ奸夫濳婦トモ入牢ニ相成シ由

〇塩早二丁メ百足屋祐七ニッ井組為替座ノ大金掠取(カスメト)リ逐電(チクテン)セシニ六月中旬横濱ニテ押捕(コウホ)セラレシヨシ

〇中暑豫防法

此書ハ参車藤村君ノ藥舗精々舎ニ撰錄ヲ托(タノ)セラレ民間ニ行ヒ易キヲ旨トシテ取調ベタル豫防法ナリ同君ノ厚志ヨッテ我社ニ彫刻ヲ命セラレ嚮(サキ)ニ市民ヱ三千部ヲ施(ホドコ)シタリ殘暑ヨリ秋冷ヲ催スノ際ニハ別テ可心得条件アレバ諸君我社ニ来リ求メテ病難ヲ未然ニ防ギ身體ノ健康ヲ圖(ハカ)リ候(ソウロ)セテ禄體禁止ノ令アル以前ヲモ了解シ玉ヱカシ

壬申七月

社中敬白

〇六坂區々小学課業表

〇同規則書

右當社ニ於テ発賣被差許候間用ノ方ハ御出可被成候

書籍會社

明治五壬申年八月三日
西洋千八百七十二年九月五日
本日晴寒暖計卒七度

隔日發兌 大阪新聞 第十八號

○布令

近来兎賣買ノ爲ヲ以テ市ヲ立或ハ集會ヲ催シ候モノ有之赴相聞無謂事候斯ル詭弁物ヲ賣買ノ爲無益ノ時間ヲ費シ銘々職業ノ妨ヲナスノミナラス右ハ畢竟奸商ノ計策ニ而一時直段ヲ騰貴シ愚昧ノ小民ヲ惑シ甚敷ニ至リテハ病ヲ避候ナト無謂説ヲ唱ヘ候モノ有之哉ノ赴為用廣益之商業可相營旨ノ布告ニ悖リ不宜所業ニ付市立集會等向後令禁止候事

物價日表

堂嶋濱
摂津 廿九日三条廿一銭 卅日同十九銭
肥後 廿九日三条七三銭 卅日同七十七銭
筑前 廿九日三条六十三銭 卅日同六十七銭

水油 石 廿九日卅三両三朱 卅日卅一両二ア
茶 百斤 廿九日三条六十三銭 卅日同六十七銭
于鰯 鰯鮹 一条二十銭 鯡鮹 羽 八十五銭
晒蠟 百斤 地廻十六条卅銭 下銭 国登十四条卅銭 奪下銭

開商社商品時價

酒 拾駄 幷 地廻四十五条 下四十条 三十条
塩 百俵 一俵 地廻四十条 下三十条
茶 百斤 一頭 洋五十七枚 五十三枚 四十二枚
于鰯 鰯鮹 一条二十七銭 鯡鮹 羽 八十五銭
晒蠟 百斤 地廻十六条卅銭 下銭 国登十四条卅銭 奪下銭

黒砂糖 三嶋 四条 赤五銭 百斤 五条十七銭
綿 金壱両 阪上七百目 卅 京卅七百卅目 卅 阪丹七百五十目 百反
木綿 蚊帳 四十二条 二十二条
純銅 百斤 二十条
生糸
昆布 百斤 三ツ石 八百五十条 百斤 刺京撚 三条廿銭ヨリ七十銭
寒天 角 千本 四条ヨリ六条七十五銭迄

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所又寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨツテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ △潮セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件総テ應其望出版一行廿三字ニ付 定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 本甲通四丁目 書籍會社
撰集所 長堀橋筋二丁目 青湖堂 島
取次 三府及諸國

右之赴市中無洩相達スルモノ也

壬申七月

大阪府

○府下ノ舊習ヲ破リ開化之道ヲ開カニ爲諸事順序ヲ追ヒ改革可致件々多々有之内第一府下ハ海港運輸之便利ヲ以テ年来繁榮ヲ占メ候處如今繫舩之不便ナルヨリ商業モ自ラ衰弊之姿ニ立至候ニ付新港建築ノ儀一般說諭ヲ加エ及勸奬候処漸々奮發稍方向ヲ定メ候者モ有之此機ニ乗シ必民費ヲ以成功遂クヘキヲ目的ニ候得共素ヨリ大事業ニテ入費モ亦大凡二百万圓ニ下ラス然ニ今日府下疲弊ノ折柄一時ニ勸集候儀所詮カ

ニ難及候ニ付目今内外費用御多端之央甚申出兼候得共府下一般ヨリ舊諸藩江用達致シ置候金子之内五拾万金出捨之御詮儀ヲ以テ御下渡被下候欤又ハ右引當ニテ御貸下被下候ハヽ其餘ハ衆カヲ合シ相辨シ可申尤兼テ御布告之通成功之上ハ新港下民江御仕セ被下候得ハ其利益ヲ以夫々返濟モ可仕尚巨細之儀者逐一取調追々可申出候得共大要前文之次第ニ付情實御酌取御許容之程伏而願上候就テハ今度御雇入相成候和蘭陀国水利家一人御差向被下候ハヽ篤ト實地點檢之上諸事決定致シ度候付右両条至急御差圖有之候様願上

候也

壬申六月

大藏省御中

大阪府權知事渡辺昇

右八御聞届相成リタル赴ニテ則和蘭国水理家下阪昨今
水津安治川之両口點檢最中ナリ

乍恐口上

一金壹万二千両

右八今般御開港御入費ノ中ヱ
御差加仕度宜御聞届被成下候

報書
○西洋ノ都府ニ「ポリース」巡邏兵ヲ立ツルハ第一酔狂人并ニ乱妨人等ヲ防キ旅人ノ往還ヲ安全ニシ第二ニ盗賊ヲモ取押ヘテ人民ノ住居ヲ安シ總テ旅人住人ニ安穏ヲ與ヘンコトヲ趣意トセリ依テ「ポリース」ハ通行デスラ道ノ或部分ヲ極メ一列トナリ人民ノ往来ニ障害(サヘギル)タランヲ恐ルヨシ然ルニ當府ニ立タル「ポリース」ハ二列或ハ三列ニ横連シ街ノ中央ヲ通行メ往来人ノ避クルヲ待チ若シ避ケズンバ之ヲ麾迫(オイセマ)シテ通ル程ノ權ナリ則チ予項日賣用アリ

八、難有奉存候以上

東大組第十二區
千申七月十八日 令橋通四丁目
井上市兵衛
同甲
井上重太郎

大阪府
御廳

神妙之至聞届候
追テ可及指圖候事

一金千圓

西大組第六區
鞍下通二丁目五番
上杉信兵衛

一金六千両

一金三万圓　東大組第十三區　北濱二丁目　磯野小左衛門

一金三万兩　西大組第一區　土佐堀通　廣岡久左衛門

一金壹万圓　東大組第十二區　大川畔　長田作兵衛

東大組第十二區　今橋二丁目　中原庄兵衛

以上

右五名モ同様願出ケレハ御軍面ニテ或街ヲ通リシトキ市店ニ見ノ由断ニ彼ノ横列子ヲ強テ壓シテ過グルアリコレ往来人ニ障害ナキニアラス西洋「ボリース」ノ趣意ニ基キ巡邏兵ヲ置レナハ街ノ側ニ一列トナリテ通行スベキヨウアリタシ或西洋人日本ニテ「ボリース」ヲ立シ所以會得シ難シト云シモ予理リトゾ思ヘリ

相成タル由

○當地授産所ニテ貧民ノ製スル赤瓦八日々精巧ニ進ミ鉄道寮堺製造所製ノ次ニ出テ他ニ此製ノ右ニ出ル上品ナシト云

運上所輸出入品　七品目　相場三

神戸輸出
○煎海鼠四百八十斤
○鰯千百斤　一〇五
○切昆布四万四千三百　一六
○葉烟草二万三千五十斤　〇七五
○漬地金八十九捆四千二拾七斤　五百廿三弗五十一戔
○日傘五百本　六十弗
○手遊物六十　三弗
○金細二枚
○金銀又ハ糸一箱
○花生　五

賣物

西道頓堀二丁目　家屋數
間口二拾一間　五尺
奥行　二十間
土藏八ヶ所　但濱地共

右賣拂申度候間望ミノ御方ハ私宅エ御立越可被下候

長尾彦兵エ

明治五壬申年八月廿九日

物價日表

堂嶋濱
摂津
肥後
筑前

休日

開商社商品時價

水油	一石	酒	拾駄	黒砂糖	三嶋 四条
西蠟	百斤	塩	百俵	綿	金壱両 阪上七百目 京阪丹七百卅目
于鰯	鰯箱 鰯箱 羽鰯	茶	百斤	木綿	豫塩 百反 四十二条
				純銅	百斤 二十条
				生糸	二十条
				昆布	百斤 三ツ石 八百五十条
				寒天	角百斤 四条ヨリ六条七十五戔迄

本局
書籍會社
撰集所
長堀橋筋二丁目
青湖堂島

取次三府及諸國

代ラ糞フ四方同好ノ君子何車ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所エ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨツテ出版スル件 △新店開キ △諸品賣買 △觀セモノ集會等引札 其他世間エ披露事件総テ應其望出版一行ヨリ三字ニ付 定價五錢宛ニテ引請可申候

隔日發兌

大阪新聞 第十九號

明治五壬申年八月廿九日

本日晴 寒暖計八十度

布告

無用ノ冗費ヲ省キ有用廣益ヲ圖リ冗化ノ域ニ赴クノ今日ニ當リ當地舊来地藏祭ト称シ金錢ヲ繋キ合セ寺内集會シ飲食ヲ事トスルノ旧習有之右ハ畢竟無益ノ財ヲ費ス而已ナラズ是ガ為有用ノ時間モ費シ無謂事ニ付自今停止候事

右ノ趣管内無洩相達スルモノ也

壬申七月

大阪府

○

西京従来毎年七月初メヨリ七夕頃迫婦女幼童竹竿ニ短冊ヲ付ケ挑灯ヲ持チ「明年ノミ〳〵タラベ棚カラ落チマシテ陰嚢ニツニ割レマシテ膏藥代ガ十六文」ト唱エ毎夜連行スルノ風習ナルニ今年ハ其風俗ヲ見ルヿ甚稀ナル由新聞紙ニモ

○河州交口驛非人番躰當

申十五戈此者平常同所学校戸前ニ立テ生徒句讀ヲ窺聽車一日モ不欠且叱呵ヲ得レドモ敢テ不退教師怪ンテ試ニ改入句讀ヲ示スニ一ヲ挙テ十ヲ知ルノ才アリ因テ入校ヲ免シ教示スルニ益敏ナリ且強記ニシテ日本外史數ケ條其餘悉皆誦ス當時堺縣学校ニ入其名四方ニ傳フ更ニ琢磨ヲ加ヘバ後愈美ヲ揚ント衛説アリ

投書

○自今僧侶肉食妻帶各其意ニ任ベキノ令普ク之レヲ記載セリ何ノ弁ヘモトキ婦女児ニシテ此風俗ヲ脫シタルハ何故ナルヤ他ナシ彼地ハ市中各區ニ小學校ノ設アリテ其區中ノ幼童ハ男女トモ悉ク小學校ニ出ルノ規則ナレハ教育ノ功ニヨッテ全ク風俗ヲ一変シタルモノナルベシ実ニ尊ム可キ事ナラズヤ

世ニ布ク是亦文明進歩天地ノ事物ヲ明ニスルト謂ハザルベケンヤ往時僧侶ノコトキモノハ自ラ之レヲ度外ニ置テ論セス抑天地ノ物タルヤ各其職アリ而テ之カ所ヲ得故ニ之ニ従事シ其勞ヲアラント欲ス然トモ性質羸脆軟懦其勞ニ堪ヘサルモノ自度為僧其弊今日ニ至リテ固ヨリ壮弱ヲ論セズ遊蕩破産ノ徒陸續為僧圓顱縞衣惟虚ヲ以テ心トシ或ハ焼香自ヲ薫淘シ恬然入死自ラ精爽ヲシテ衰耗ナラシムト噫可笑ノ甚哉今 官其弊ヲ芟刈シ世ヲシテ天地ノ事物ヲ明ニシ開化ノ域ニ進メシメント欲ス近聞僧侶路傍ニ偶語シ加之蟻聚蚊屯私

議不已肉食妻帯之者ハ自ラ之レヲ遠ケ至甚則犬豕同視
或言我類ヲシテ地ヲ掃ヒ遺種ナカラシメント欲ス是専
政府ノ術ニ出ルナリ宜乎井蛙海ヲ語ルベカラズ如彼
畢竟愚駭卑陋已レノ管見ニ膠漆シ以テ天地ノ大理ニ
暗シ故ニ堂々タル政府ノ大謨ヲ知ラズ噫憫ムベケンヤ

幸町通二丁目　とく　申三十九才

此女摩擦ノ神法ニテ諸病ヲ療スルニ悉ク治セズト云
フナク甚功験顕明ナルトノ街説頻リニシテ衆人ノ信
仰盛ンナリシカ事妖怪ニ渉ルヲ以終ニ彼とくナル者
府廳ニ呼出サン其次第ヲ訊問アルニ能勢山上ニアル霊
狐我ニ假托シ通力ヲ以不治ノ難病ヲ救療スル趣堂々
トシテ憚色ナク申陳スルニ付然ラハ此白洲ニテ彼霊
狐呼寄スベシ否セザレバ人ヲ誑惑スルノ詐術ナルベシ
ト詰問アルニ女答テ如何ニモ此呼ニテ呼寄申スベシトテ
西ニ向ヒ合掌祈念一心不乱大小ノ官吏ハ如何ナル呼
業ヲナスナラント挙動ヲ窺ヒシニ暫クシテ一喝叫ブト均ニ
ク顔色変リ眼血バシリテ其体尋常ナラズ彼云我ガ代
人ヲシテ呼寄セラルヽハ何用アルヤト問フ官吏此辞ヲ答メ
テ云代人トハ其女ヲ云ナルベシ汝野狐ノ身ヲ以府下ノ
人民ヲ代人ニ使用スルニ其管轄廳ニ願モ致サヌハ如

何成ル心得ナルヤト夫ヨリ責問件々應荅流ルヽ如ク鞭(ベン)撻(タツ)ヲ加(クハ)フレド女更ニ痛ム揉子モナク見ルモノ奇異ノ思ヲナシ半ハ信シ半ハ其擧動ヲ疑(ウタガ)エリ鞭糺數刻ニ及ヒ彼終ニ暇(イトマ)ヲ告ルヤ否女忽チ脳乱シテ斃(タヲ)レリ小吏之(コレ)ヲ鞭撻(ベンタツ)スルニ以前ト変リ大ニ痛声ヲ發シテ氣付ケレド此日ハ餘程疲労(ツカレ)ノ体ナレバ鞫問ヲ止メラレ府曲メト相成翌日尚又鞫問アルニ前日ノ鞭撻ニヤ恐レケン是迄ノ所行ハ総(スベ)テ僞(ツヽ)リニテ實ハ人気ヲ集メン為神憑(カミヨリ)ニ事寄セ諸人ヲ惑(マド)ハシ今更恐入候段白状ニ及ヒタル由評者云凡テ孤狸ノ精人體ニ移リ告ルニ轉禍招福難病

平愈ヲ以テシ且ツ禱料(イノリヨウ)ノ多寡ニ應シ靈驗ノ著明(イチジルシ)キ事ヲ示ス抔悉ク詐術(イツワリジユツ)ニシテコノトキヨ以テ證トスベシ人間ハ萬物ノ長タルニ奚ゾ如是ノ譯アランヤ世ニ之レヲ信スル者早ク惑ヒヲ解テ冥化日進ノ政令ニ帰シ其天稟ノ智ヲ磨キ無明ノ醉ヲ醒サランヤ

運上所輸入　廿六日　神戸行

〇洋紙一箱二半入　十弗　〇歯磨刷毛　三トセイン　四弗　〇石筆　二トセイン　一弗五十セント
〇フリキ切　一トセイン　一弗　〇巻烟艸　キセン　六ツ五弗　〇名帖　二トセイン　一弗五十セント
〇図用紙　三巻　二弗　〇モノグラム一箱　一トセイン　十弗　〇皆墨　一トセイン　一弗
〇豚油　十二鍾　三弗　〇セリ酒一箱　三トセイン　廿弗　〇菓物漬一箱　三トセイン　四弗五十セント
〇縫機械　三十　罫五十弗　〇　同日輸出

豚六疋　二十弗

物價日表

堂嶋濱

摂津	七日 三条廿八銭	開商社商品時價	
肥後	七日 三条七十銭	塩 百俵	地廻 四十五年下 四十条 三十条
筑前	七日 三条六十七銭	茶 百斤	番田十二条 壱銭 亦穂七条
水油 一石	七日 卅一条六十五銭	于鰯 鰯粕 一条二十銭 鯡 二十七銭 鯡羽 八十五銭	人頭 羊五十七八歳 五十二枚 四十二枚
		晒蠟 百斤	地廻十六条 卅銭 五十銭 同壱十四条 卅銭

伏テ望ム四方同好ノ君子何事ニヨラス本局及ヒ撰集所ヘ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨッテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ △潮セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件総テ應其望出版一行ニ三字ニ付 定價五銭宛ニテ引請可申候

黒砂糖 三嶋 四条 卅五銭 百斤 九条 十七銭

綿 金壱両 阪土 百目 京打 七百目 阪丹 七百目 数

木綿 百反 豫 四十二条 雲 二十二条

純銅 百斤 二十条

生糸 百目 三ツ石 八百五十条 昆布 百斤 刻京捻 三条廿銭ヨリ

寒天 一角 千本 四条ヨリ 六条七十五銭迄

本局 本甲通四丁目 書籍會社

撰集所 長堀橋筋二丁目 青湖堂島

取次三府及諸國

大阪新聞 第十九號 附錄

隔日發兌

布令

今般川口運上所ノ儀租税察管轄ニ相成候条為心得相達候事

但外務局ノ儀ハ是迄ノ通當府管轄ニ候事

壬申七月

大阪府

聽聞

東大組第十二區今橋通二丁目 松尾太助

同第四區平野町二丁目 扶内長右門

○去ル廿二日ノ强雨ハ殊ニ江州大降リト見エ琵琶潮銚子口ハ水溢レ多少ノ損害アリシト云其ユヘニヤ翌廿三日

明治五年 西洋千八百七十二年 壬申年 八月九日 本日雨寒暖計六十六度

同弟十六區淡路町二丁目
竹田與左門
同弟十一區釣鐘町二丁目
巽 利左門
同弟十八區南本町一丁目
竹端 又八
同弟十六區淡路町一丁目
岡田小十郎
南大組弟四區西長堀南通二丁目
楠田由兵工
同弟五區塩町二丁目
福田久兵工
東大組弟十八區安土町二丁目
白﨑由兵工

當地川々俄ニ滿水ニテ大小ノ川船筏等流失シ中ニモ木津川碇船凡貳千百余ノ大船纜ヲ解拂ハレ今度架渡成シ松島千代嵜橋ヨリ流レ掛リ水勢激烈ナレバ今ヤ橋トモニ押流レントス橋頭ニ群ヲナシ諸人ハ只拱手傍觀仰天スルノミニテ甚危フカリシ折柄官員ト見ヘシ人通リ掛リ此体ヲ見テ急ニ近傍ノ邏卒ヲ呼寄セ他船ノ水夫ニ令シ見物人ニモ綱杭ヲ牽セ近邊ニ有合セノ諸機械ヲ遣ヒ漸ク流船引止メ辛フシテ橋船トモ無難ニテ損害ヲ免レタリ是全ク通リ掛リシ官員ノ指令ト邏卒ノ働ニヨルモノニテ其功大ナリト云ベシ

同町
奥田藤兵工

其方共儀奉役ノ面々江ハ是迄如何程ノ因ニ有之候共音信禮物差贈候事一切停止ノ儀ハ兼而申渡候市中制法ノ條中ニモ有之候処當六月中紙商社取建ノ儀採用相成候ニ付松尾太助ノ発意ニ従右掛リ官員ノ者ヨリ挨拶トシテ唐紙差贈リ候始末不埒ニ付右品取揚ケ太助ハ笞二十長右ヱ門外九人ノ者ハ各一十敲ノ笞刑可申付処全旧獎ニ泥ミ候一時ノ心得違ニ付太助

○市中各區ノ小学校モ連々建築出来今日迄既ニ五區開校ニ相成タル由開校式ハ十二号ニ記載シタル通リトノ事

八贖罪金一両二分長右エ門外
九人ノ者ハ各三分宛官納申
付候事

右之御処置相成タル由抑冤
化ニ此時節有益ナレバ何事ニ
テモ差許サレザルハナシ奨
アル事ハ百方手ヲ尽スストモ
眩惑シテ許可ヲ得ベキ理ナ
シ彼ノ人々智識之シク思慮
浅短ナル故紙ヲ取ラレテ金
ヲ出スハ藪ヲ叩テ蛇ヲ出ス
ノ譬ニ近シ

〇高瀬橋ノ電信局ヶ既ニ皆造
トナリ電信線モ懸ケ渡サレタレ
ハ定テ近日ヨリ通信ヲ発カル
可シ

〇堂嶋米相場ノ儀何故訳テ
ヨテ両三日休ミノ由

〇難波新地ニテ大相撲十月
十九日ヨリ興行大入ニテ進料
寸金ヲ諍ヒ昼後ヨリハ閉戸打水ナリ

〇奇説

住吉社例歳六月十四日ハ御輿洗ト云祭禮アリテ近郷ヨ
リ群参ス其夜一人ノ人力車一婦人ヲ乗セテ大阪ヨリ帰
ル道々問テ云婦人ノ独行殊ニ遅刻ハ如奈何方迫御婦
リゾト尋ヌルニ婦人云我ハ長町元六丁目薪木屋ナリ吾
夫専ラ愛妾ニ耽リ而モ當時ハ引入同居ス今日ハ餘リ
不快故扱掛ケニ住吉迫行タリト話ウチニ鳶田刑罪場
ノ邊迫来ルニ婦人小用ニユキタシ暫ク待チ呉レト跳ニ
テ車ヲ下リニ早クモ叢ノ中ニ走リ行ケリ車カハ大便
ニヤ逼リツルト独笑シテ稍ク久シク待テ尻不来因テ高声
ニ喚ベドモ終ニ音信ナシ追々深更ニ及ヒ無何寥落シテ
孤狸ニヤ誑サレシト思ヒ早々空車ヲ牽ラ馳帰リシニ彼婦

人木履ヲ車ニ残シアルニゾ翌朝其薪屋ニ尋テ行前夜ノ
始末ヲ語ルニ亭主不審シ妻ハ病氣ニテ七日以前死去
セリ門違ナラムト云ニ車カ残リシ木履ヲ出ン且愛妾ヲ
恨ムノ言ヲ告クルニ亭主愕ヒテ一一符合ニ且ツ木履
モ亡妻ノ履キシ物ニ相違無シト互ニ仰天ン始メテ其
幽霊ナルヲ悟リ亭主ハ車賃相渡シ木履ハ受取シトゾ然
ルニ其夜亭主ノ夢ニ亡妻来リ車ノ賃ヲ謝シ又愛妾ノ
怨ヲ申シトゾ

撰者云右街説専ラナル故其真ヲ得ンヿ欲スルニ其街ニ
薪屋某妾ヲ呼入正妻ハ頃日死去セシ有リヤト報ス怪
談ノ実否ハ不詳ト雖古今女ノ嫉妬ヨリ難ヲ起シ身
ヲ悩スノ例無ニ非ス二女ヲ愛スルノ徒能ク之レヲ可
不慎乎

運上所輸出品 七月廿七日

○木蝋八千斤 一五〇菜二千
八百斤 三九〇塗器一箱大小二百五十品入 四十五弗 ○竹簟二
百枚 ○屑凡二双 四十四圓半戔 ○蘇一万二千斤 八百卅弗五十戔
同輸入品 同日 ○白砂糖 五万斤 七五〇蘇九千五十斤 八百卅弗五十戔
○砂仁 五百卅斤 弐百弗

運上所輸出入ノ儀ハ○輸出入○無税輸出○無税輸入
右ハ部輸出入多分有之所今税済ノ部ノミ出シ餘ハ略之
毎号此例ニナラフ

明治五年壬申八月十日
西洋千八百七十二年九月十日
本日晴 寒暖計七十三度

隔日發兌

大阪新聞

第廿號

物價日表

堂嶋濱
開商社商品時價

摂津	八日三条廿一戔	酒拾駄	綿	金壱両	黒砂糖
肥後	八日三条八十戔	塩百俵	木綿	百反	
筑前	八日三条五十戔	茶百斤	生糸		
水油	八日卅三条卅戔	鶏	純銅	百斤	二十条
蝋	百斤	鵞鳥 羽	昆布	百斤	八百五十条
		鵞鳥 羽	寒天	角	四条ヨリ六条七十五戔迄

本町通四丁目 本町 書籍會社
長堀橋筋二丁目 撰集所 青湖堂島
取次三府及諸國

伏テ貴ブ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局又ハ撰集所ヘ寄セ社中ノ素志ヲ助ケモハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セモノヘシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨツテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ △觀セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件總テ應其望出版一行ニ三字ニ付定價五錢宛ニテ引請可申候

布令

今般小學校建営之儀ハ府下一般ノ人材ヲ教育シ上ハ國家富強ノ一端ヲ助ケ奉リ下ハ一家一身ノ興隆ニ關ル事業ナレバ衆心一致各分限ノカヲ尽シ各画有志ノ單財アルモノハ財ヲ出シカアルモノハカヲ尽シ日夜勉励既ニ奏功ニモ至ラントスサレバ右建築ニ相用ル材木ハ勿論諸工作料手間賃書類筆墨ニ至ル迄心ヲ用ヒ成丈相働下直ニ而用弁イタシテコソ可謂分限ヲ尽ス一端ニ候處近商共一己ノ私利ヲ逞フセムカ為メ或ハ材木ナドノ直段ヲ騰貴シ或

八作料賃銭ヲモ加増イタス由相聞不心得至極以ノ外ノ次第ニ候若右様ノ呼行有之モノハ屹度咎方可申付候条見當リ候モノハ早速可申出事

壬申七月

大阪府

○旧弊ヲ洗除シ日ニ新ニ文明ニ進ムノ秋ナレバ布令アル毎ニ缺ク熟讀シテ旨趣納得スル様アリタキモノナリ然ルニ町ニ依リテハ廻達疎忽ニシテ町便戸毎ニ持廻リ印ヲトリ或ハ門口ヨリ口達シテ済セ廻ルアリ故ニ熟讀スルモノ少レニシテ印ヲ押スハ唯手數ノミトナリ我業体ニ關ハル事柄モ印ヲ押シナガラ不知ニテ打過ルモノアリ是等ハ畢竟人々ノ等閑ニ関ハルト雖モ亦町役ノ不注意ヲ責サルヲ得ズ

右投書

○七月十八日北久太郎町中橋辺ニテ牝牡ノ犬摩交シテ例ノ左右ニ背聳シ居ルニ往来ノ中ヨリ一人帯劍セシ者コレヲ視テ劍ヲ拔テ彼ノ交合ノ所ヲ切リ放テハ牡犬ハ忽チ一叫痛乱シ牝犬ハ断莖ヲ挟ミナガラ逃行ケリトゾ評者云此者士属ノ体ナルヨシ畜獣ト雖モ自己ノ戯ニカヽル所行ハ有間敷ナリ右等ノ為ニ指ス刀ナレバ実ニ無用ノミナラズ大害ヲ生スル事故早々廃刀ノ御達アリタキモノナリ

○勝栗毛ニ云フ彌次ト喜太八ト岐蘇路ヲ通行ノ折久野義助ト云ヘル店ニ憩息シレガ少時アリテ障子ノ奥ニ物音騒敷何事ヤラント伺ヒ見レハ其家主ヲ捕エ五六

人ノ村吏ト見ヘ上ヲ下ヘト動揺メク中ニ一人ノ吏声ヲ揚テ云採此度官ヨリ汝ガ面ノ皮ヲ剥取差出スベキ上意ナリ尋常ニ御請セヨト已ニ首ヲ以テ義助ノ面ヲ刺ントシケル折柄檀寺ノ僧ト見エ息セキ駈付ケ御一同姑ク御待被下何カ齟齬ノ儀モ候ハントテ云ヒ其達シ書ヲ見ルニ假名ニテ「クノキカツラ」ノ皮入用トアリケレバ僧熟思シテ云フ是全ク擲着ノ皮ナラム久野義ガ面ノ皮ニテハ有マシト判シケレバ一同サモアラントテ休ニケル按ニ山中ノ者丁字ヲ知ラサルニヨリ假名ニテ達セシヨリ此誤ヲ生シタリサレバ文明ノ今猶此弊アリ或聽ヨリ村内ノ戸數取調フベキ旨庄屋エ沙汰シケルニセ兵エノ家ハ雨戸幾枚八右エ門ノ門ノ戸ハ幾枚ト綿密ニ記載セ差出シケルトナム是皆文教ノ化未タ山野ニ遍子カラザルニ原ヅケリ頃日聞ク當府下郡村々モ遍ク小学校ヲ建テ學科ヲ分チ蕃莚牧児ニ至ルマテ學文ヲナサシムルノ企アル由此事愈成就スルニ於テハ右等憃愚ノ輩モ俊才ニ轉シ曾テ文翁ノ蜀ヲ開化セシメタル同轍ト云ベシ

○摂州西成郡川口村ニ皇大神宮勧請ノ社アリ左右ノ玉垣ニ奨鉄数株繁茂ス去ル天保二卯八月右奨鉄一株ニ花咲ケリ然

ニ當八月又四株ニ華苓ヲ生ス二株ハ玉ノ形容(カタチ)ニテ二株ハ鈴(ホコ)ノ如シソノ大サ玉成ノ華ハ方圓五尺バカリ鉾成ノ華ハ長三尺計リノ一ロ白クシテ曙色ヲ含ム見物者日々群参セリ且傳布ス舜平富国ノ瑞ナリトゾサモ有ルベシ

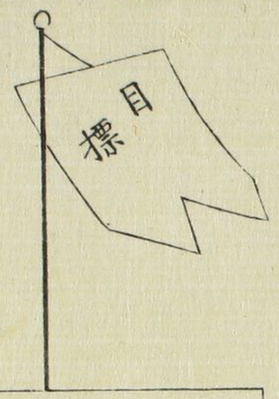
投書

○當府下屋号ヲ癖シ苗字ト相成シ後誰カ今日秘用ノ押切判ヲ改正セシ人ヲ不聞(キカヘ)ハ金銭ノ請取書ニモ苗子誰レト書キ判ハ矢張従前ノ何屋何兵エノ押切判ナルハ甚以不都合ト思フ冀クハ是等改正アリタキモノナリ

御披露

一洋書翻譯物貸本所并日誌新聞紙類

冗化日ニ盛ンナレハ有志ノ人翻譯物ノ書類ハ初ノ入ノ捷經ナレバ貴覧ヲ希候



野店規則

何方様ニテモ本相當ノ敷金申請候本御返レノ節ハ速ニ返進仕候尤證券差上置候

塩早三休橋筋北入　山本　與助　三木屋事

運上所輸出

廿五日

○葉烟艸八千四百五十斤　相場　七五

○呼子　一艘　一百

物價日表

堂嶋濱　開商社商品時價

摂津	九日三条廿七銭 十日三条十八銭	酒拾駄	四十五条 地廻四十条 下三十条	黒砂糖三嶋四条廿五銭 百斤五条十七銭	
肥後	九日三条八十銭 十日三条八十銭	塩百俵	卅四十二条 平壱銭 京摠九条	綿金壱両	次ノ百目無数 京丹七百卅目 阪丹七百六十目
筑前	九日三条卒壱銭 十日同ノ	茶百斤	人頭五十七八枚 同五十二枚 四十二枚	水綿豫芸 百斤	四十二条 二十二条
水油	九日卅一条四銭 十日同 五銭	鰯百斤	一条二十銭 二条二十七銭 八十五銭	紙銀百斤	二十条
晒蝋百斤	地廻十六条卅壱銭 五十四条四十壱銭	鰯鯖ノ羽數		生糸	
				寒天百斤	四条ヨリ 六条七十五銭迄
				昆布百斤	百石 三石 京持三条廿七銭ヨリ
					八百五十条

本局　書籍會社　本甲通四丁目
撰集所　長堀橋筋二丁目　青湖堂島

取次三府及諸國

明治五年壬申十一月廿五日　大阪新聞第二十一號　隔日發兌

大阪新聞　第二十一號

明治五年壬申年八月九日　西洋千八百七十二年十月廿五日　本日晴寒暖計八十度

○布令

人民實印ノ儀ハ諸準證據ニ相成大切ノ品ニ候処妄ニ他人ニ相預ケ候者有之ニ付問々奸詐ノ訴訟差起リ以ノ外ノ事ニ候以来實印相預候儀固被禁候条萬一心得違ノ者有之候節ハ預リ人共屹度可及所置候事

壬申七月十日　大政官

右之通被仰出候間管内無洩相達ルモノ也

壬申七月　大阪府

○投書

予十六歳ノ時始テ劇キ淋疾ニ罹ル爾後尿道狹窄シ（ママ）

伏テ此義ヲ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ニ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○茎ニヨッテ出版スル件

△諸品賣買△新店開キ

△觀セモノ集會等引札　其他世間ヲ披露ノ事件総テ應其望出版一行ニ廿三字ニ付　定價五銭宛ニテ引請可申候

復々快利ニ得サル事殆ト三十年其際甚敷難困ヲ覚ズ
故更ニ薬治ヲ加フル事ナシ五年前丁卯五月漸ク(カスカ)スル
ノ日鬱地ニ小便閉止(ツマリ)涓滴(シヅク)ヲ洩サス日午ヨリ夜ニ至リ
小腹緊満痛楚堪可ラス於此温浴加参(テ)的児(テガ)ヲ施シ終ニ
危急ヲ免ルヽヲ得シ氏狭窄尚甚シク更ニ愁肩ヲ開クノ
日ヨリ今茲辛未五月復々閉止ス百方術ヲ竭セ共狭窄
益加リ居恒窘迫努張尿意休時ナシ便所ニ往返スル事
日ニ数十回起坐ニハ涓滴ヲ眠臥ニハ滲漏ス頗苦懣(クルシミ)(モダエ)(カリ)ヤ
九月上浣豚児(ブタノコ)澄大阪医学校ニ徴サレ和蘭頑学
ヱルメレンス教師ニ就テ教ヲ受ク教師学術精致特ニ
尿道病患ヲ療スル其妙ヲ得タリト病院ニ在テ尿道狭
窄ヲ開ク事百人ニ及ヒ一人モ治セザルヲ見ズ澄其巧
技ヲ目撃シ喜ンデ書ヲ飛シ余ヲ召ク余乃チ至ッテ治

ヲ請フ時十二月中院寒威凜烈寒暖計降氷三十度〇(以下後文次号ニ出ス)

撰集者云後文治療妙談ニ及フ今紙丁数ノ定アレバ次号ニ出ス

福井縣医員半井保誌大阪寓居

紀州和歌山本町四丁目
堀端佐兵エ妻
てい 申年十七

此者去ル廿六日夜道頓堀筋汐見橋ヨリ投身センスル折柄
巡邏卒北村佐一林孝道通リ掛リ此体ヲ見テ忽チ引止
メ屯所ヱ連レ帰リ子細ヲ尋問スルニてい儀兼々和州
志貴山詣沙門天信仰ニテ一度参詣致シ度旨夫佐兵エ
ニ頼ムト雖モ聞入ザルヨリ当月廿四日親族エ罷越(マカリコス)趣ニ
申偽リ潜(ヒソカ)ニ国許立出テ金二両二分ヲ路用トシ念願ノ

如ク参詣ヲ仕遂ケ帰路ニ赴キ金子入用ノ事アリテ嚢中ヲ探リ見ルニ如何シタケン二両程ノ残金悉ク紛失ナシテ見エザレハ進退十方ニ暮レ帰国モ相成ズ故心ノ侭ニ廿六日當地エ立越所持ノ帯一筋売拂ハントスレバ出所不分明ニ付請人モノケレバ買呉レズ夜ニ入リタレド止宿モ相成ラズ夫是漂泊ノ中両頬リニ降リ出シ幣ク軒下ニ徙(ウツ)シ前後ヲ考エ見レバ愈(イヨ)致シ方ナク水死セント心ヲ決シ汝見橋ニ絶(タエ)リ身ヲ投セントスル折柄召捕ハレタル赴申出々ル由

評者云て曰此毘沙門如何ナル霊顕利生ノ功徳ア

レハ如此(カク)夫佐兵エノ意ニ背キ遥(ハルカ)ニ参詣スルヤ果シテ毘沙門ニ霊顕アラバ何故我ヲ信スルてふノ災難ヲ救ハザル諺(コトワザ)ニ仏頼(ホトケタノ)ンデ地獄ニ陥(オチ)ルト却テ命ヲ害ハントスルノ苦脳ヲ招ク愚昧ノ甚敷モノト云ハンカ

開港之事件(ことがら)献金

一金一万圓　東大組第十四區平野町二丁目
　石崎喜兵衛

一金二万圓　同第九區内平野町二丁目
　殿村平左エ門

一金二万圓　同第十三區北濱四丁目
　平瀬亀之助

右頭書前同様

壬申七月

六月取調之寫
寄留人

一貳万八千四百二十三人
　内男一万九千百二十四人
　女九千三百九十九人

〇、城州伏水ニテ今度大花火ノ催シアリ八月六日星華迄国ニ耀ケリ

〇京町堀上通五丁目ニ奥籠ヲ鬻ク孤孀アリ七月廿六日夜籠ヲ調エニ来リシ男アリ二分幣ヲ出シテ一分二朱ノ籠ヲ買求ムルニ寡婦ハ其過金ヲ返サント手函ヲ冦シニ函中貯金アル様子ヲ見テ彼男不意ニ金ヲ我ニ貸可シト云捨テ奪ハントスルニ寡婦ハ怕リシ高声ニ賊ト叫ノヲ手拭ニテ咽ヲシノ且ツ口エ手ヲ覆フニ孀モ懸命ノ場ナレバ指ヲ噬切リ振放シ逃ントスルヲ有合フ庖丁ニテ四ケ所切リ付ケシニ婦ハ斃レナガラ賊也ト連声ニ呼ニソ賊ハ其侭逃行シニ折フシ邏卒通リ掛リ捕縛シケルトゾ此者堀江住奥庄ト云ル者成ルヨシ

運上所輸出品

〇炮仲五万千六百斤　七五
〇手遊一箱小箱二百廿四入　四弗五十七下

同輸入品

〇豆油二百樽　貳万斤　千五百弗
〇活板（レノ木附ソク品トモ）六箱　千五十八弗
〇千字形機械　十三箱　千七百九弗
鉄延板　壱ツ

〇當新聞紙第十四号ニ天満信保丁加賀屋彌助郵便ノ書状ヲ失ヒ其罪驛寮局中ニテ三十日入窄餘苦刑ニ所置相成タル赴記載セシニ右局中入窄且ツ所置ハ全ク筆耕ノ誤リニテ校正阪府廳裁ニ有之間令ニ記シテ其罪ヲ謝書ス

月給表

日曜日　八月　六日　十三日　廿日　廿七日
　　九月　四日　十一日　十八日　廿五日

物價日表

堂嶋濱

米	十日 三条十九銭	十一日 同卅四銭	酒	拾駄	卅四条
肥後	十日 三条八十銭	十一日 同 九十五銭	塩	百俵	卅四条
筑前	十日 三条五十五銭	十一日 同八十五銭	茶	百斤	
鰯	十日 卅条九十五銭	十一日 同ト	油	百斤	同ト

伏テ糺ス四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所エ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ノ載セヲスベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨツテ出版スル件 イ諸品賣買ノ新店開キ ロ観セモノ集會等引札 其他世間エ披露事件総テ應其望出版一行ニ三字ニ付 定價五銭宛ニテ引請可申候

開商社商品時價

黒砂糖	三嶋	四条	木綿	金壱両	廿五反
	百斤	五条十七銭		百目	廿五反
綿	金壱両	廿五反	木綿	豫生	百反
	百目	廿五反		四十二条	
純銅	百斤	二十条			
生糸	百斤	二百十条			
昆布	百目	八百五十条			
	三ツ石				
	百斤	三条十七銭			
	剣京掛				
寒天	角	四条ヨリ			
	千本	六条七十五銭迄			

本局 書籍會社 撰集所 長堀橋筋二丁目 貴湖堂島

取次 三府及諸國

明治五年壬申年 大阪新聞第廿一号

西洋千八百七十二年 明治五年 壬申 八月 廿五日 本日晴 寒暖計八十度

隔日發兌

大阪新聞 第廿一號

○布令

従来香具師ト唱エ来候名目自今被廢止候事

但銘々商賣ノ儀ハ可為勝手事

壬申七月八日

大政官

右之通被 仰出候間管内無洩相達ルモノ也

壬申七月

大阪府

投書

第廿一号淋疾治療之条後文

○教師余カ僑居ニ来リ診シ一田測泡子ヲ送入シ其狭窄ヲ推測シテ曰明日来テ治スヘシ余教師ノ詰太ダ容易ナルヲ以テ尚未タ信セス翌日第一字約ノ如ク来リ

更ニ一種ノ測泡子ヲ送リ之ニ沿テ截開器ヲ入レ其狹窄ヲ開截シ捷手（ハヤテ）ニ抜去テ再ヒ巨大ノ護謨製（ゴムセイ）加答兒（カタール）ヲ挿ミ置キ尿ヲ利セント欲セハ加答兒ノ拴（セン）ヲ抜キ之ヲ漏シ翌朝ニ至テ全ク抜去冝シク安卧靜養ス可シト懇諭シテ去ル此ヨリシテ通尿快利（ベンリ）逓（ヅヽ）ニ北大ナリ鳴呼教師如何ノ人ナルヤ三十六年来ノ疵痾之レヲ治スルニ一分字間ヲ出デス予享年六十真成別乾坤ニ再生シ暮期ノ餘楽ヲ得セシム寔ニ手舞足蹈ヲ知ラザルナリ嘗テ聞ク此截開術距今八年前法國（フランス）ノ外科医メソ子ウセ氏ノ創テ発明スル所ニシテ我邦ニ傳エ痾患ヲ救助スルモノハ教師エルメレンス噶矢タリ其休徳赫々不朽ニ傳エテ滅ス可ケンヤ予乃チ洪恩ヲ受ルモノ焉（イヅク）獨秘スヘケンヤ便チ其梗概（アラマシ）ヲ記シ新聞紙ニ付シ四方ニ廣告ス此症ヲ患フ者ハ速ニ浪華ニ至リ此靈術ヲ得テ痛苦ヲ免レン事ヲ庶幾フ盖シ同病相憐ノ意ニ出ルト云

明治四辛未十二月福井縣医員半井保誌大阪寓居

此挙ヤ舊冬ノ事跡ニ係ル今ニシテ漸ク布告スルハ記者ノ真意ニ戻ルト雖モ奈セン偶當局ノ事故アリテ遅延茲ニ及ベリ看客嫌疑ラ容レザル事ヲ冀フト云

○投書

臭氣ハ人ノ健康ヲ害スレハ腐敗（クサリ）物并ニ豚羊ノ如キ臭氣甚シキ獣類飼置ス道路ニ糞尿スヘカラスト先達テ公諭アツテ以来市街清潔トナル是偏ニ官府保護ノ庇蔭（カゲ）ニシテ衆庶ノ大幸福ト云ヘシ然ルニ西大組鞠場（ウマバ）邊ハ松前

産物肥シ問屋多ク皆腐敗物ヲ以業トセリ彼(カ)近傍ヲ往
来スレバ街上ノ穢物積テ如山臭気鼻ヲ貫ク餘臭ノ近隣
ニ及ブモノモ亦不鮮(スクナカラズ)實ニ人ノ健康ヲ害スル知ルベカラズス
官今路傍ノ腐敗物等ノ小ナルヲ制シテ此大ナルハ捨テ
問ハザルハ如何(イカン)彼等モ亦官命ナキニ安ンジ我業体ノ為
ニ人ヲ損害スルヲ知ラヌ顔ニテ打過ルハ甚心得違ナリ
伏テ願クハ肥シ物塩臭類ハ人家稠密ノ場呼ヲ避ケテ
取扱フヨウ有タキトノ噂

〇東十區嶋町二丁目誠本きゝ八入札公撰ニ因リ女ナ
ガラ伍人組長ニ用ヒラレタル由女トイヘドモ一ア(ヘ)ノ主人

ニシテ同組内ニ此上ニ立ツベキ人ナキ時ハ伍長タルハ差支
ナキ理ナレドトモ従来ハ兎角家格等ニ抱(カヽ)リ人材トイヘド
モ借家人ハ必ス町役組長ナドニ用ヒザルノ旧習ナリシ
モ世態日ヲ逐テ文明ニ進ミ此度ノ如キ撰挙アル一美事
ト云ハンカ併シ此婦人世ニ秀デタルモノニハ非ラザル由諺(コトワザ)云
無烏境ノ蝙蝠ナルベシトノ噂ナレド琢車ニ付爰ニ記ス

〇投書

近頃妄(ミダ)リニ名灸ト唱エ師傳モ受ズシテ灸點ヲ施シ而テ
謝金ヲ貪(ムサボ)ル者府下多クアリ是ガ為メ却テ病気ヲ引起シ
或ハ熱発ニ及ヒ甚シキハ天然ノ壽ヲ縮ム是等ノ治療

ハ假初ニモ人命ニ關係スル事ナレバ病院ヨリ實檢免許シ鑑札ヲ與エテ支嚴重ニ有タキ者ナリ是等閙ニナシ置ク可キニアラズ尤浪華ニ古ク仕來ル長門屋四花六ツ各日原高津疫ノ灸無量寺ナドハ功能多シ近年新規ニ名灸ト唱候ニ無法ノ者多シ恐ルベキ事也

御披露 曚酒澄シ藥

○夫レ酒ニ曇濁ヲ生シ又復日未然ニ火気ヲ入レテ豫メ防グ事コレ酒造家定方ナリ然レトモ其製本造法或ハ其土地気候ニヨリテ火気法モ定リ無シ日限法ノ如クシテモ順不順気ニテ加減前後シ火気醒テ後再ビ曇リヲ生ス其トキ直シ灰ヲ用ヒテ澄ス法アレドモ酒味變リ重クシテ濁気ノコリ其性元ニ復ラス其餘百法清方アレトモ炎暑ノ節ニ至リテハ其法方亦悉ク空シ是レ酒家平素ヨク知ル処ナリ然ルニ今予カ此澄シ藥ハ如何ナル大暑ノセウト雖モ酒味少シモ變セス且ツ濃薄芳気其本性ヲ損スルナク實ニ至妙ナル事藥灰ノ類ニアラズ且此某幾年経ルトモ効能更ニ變ル事ナシ此度世ニ弘メンタメノ製之冀ハクハ四方ノ酒業家コレヲ用ヒテ諸ノ不淨ヲ攘ヒ復始再新、妙ヲ得玉ハヽ幸甚ト謹白

分量曇酒一石ニ付藥二合ノ割則チ酒ニ火気ヲ入レ桶ノ盞ヲセムト欲スルトキ藥ヲ入レ置クベシ火気サメルニ就キ濁澱ハ桶ソコニ沈ミ酒色清々トシテ舛量減スルコト少クシテ德用無類ナリ

酒澄藥開業所
大阪勘助嶋舩津町
松島千代壽橋ヲ五丁南
官浪新七

物價日表

堂鴫濱

摂津	十三斤	三条	北七表
肥後	十三斤	同	卒二表
筑前	十三斤	同	八十二表
水油	石	十三日	此一条空表

開商社商品時價

酒	拾駄	此廻	四十表	此廻	四十五表
塩	百俵	此廻	三十表	此廻	四十表
茶	百斤				
鰯	鯡	此廻	二十七表	此廻	五十七八枚
羽鯡		此廻	十五表	此廻	四十二枚
蠟	百斤	此廻	十六番	此廻	二番

綿 此廻 四番 此五表 此廻 四番 此五表 此廻 四番 此五表 此廻 四番 此五表

本綿	百斤	此廻	四番	此廻	四番
繰綿		此廻	四番	此廻	四番
純銅	百斤	此廻	二十二番	此廻	二十二番
生糸		此廻	二十二番	此廻	二十二番
昆布	百斤	此廻	三百五十番	此廻	三百五十番
寒天	斤	此廻	四番	此廻	三番

砂糖 此廻 四番 此五表 此廻 四番 此五表 此廻 四番 此五表 此廻 四番 此五表

白目	百斤	此廻	四番	此廻	四番
唐丹	百斤	此廻	七百卅目	此廻	七百卅目
阪丹	百斤	此廻	七百六十目	此廻	七百六十目

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局又ヒ撰集所ヱ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セモノベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○茲ニヨツテ出版スル件 △諸品賣買 △觀セモノ集會等引札 其他世間ヱ披露事件総テ應其望出版一行ホ三字ニ付 定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 書籍會社
大坂堀橋筋二丁目
撰集所 青湖堂 島
取次 二府及諸國

明治五年 大阪新聞 第二十三號

隔日發兌

大阪新聞 第二十三號

明治五年 大阪新聞 第二十三號

○布令

人ノ禍福吉凶天命無常ト雖モ凡其身平生行ヒノ善悪ニ由ラザルハナシ然ルニ世ノ淺智昧識ノ者兎角覗覦覦ノ心ヲ生シ動モスレハ賣ト其他星運人相家相地相劍相鏡相墨色識文等怪異ノ説ニ惑ヒ祈禱星祭方除等ヲ以吉凶ヲ変轉更換相成ル事ト思ヒ疑阻逡巡、際折角勉強ヲ關キ職業ヲ妨ケラル、モノアリ實ニ蒙昧ノ甚敷可歎事ナラスヤ抑百物ノ理ヲ辨ヘ自立ノ権ヲ守リ生活、業ヲ勉ム是ヲ人ノ職分トス天理ニ遵ヒ人ノ人

明治五年壬申年八月九日 大阪行用暦 本日曇 寒暖計七十度

タル道ヲ踐ミ自己ノ生業ヲ勵ムニ於テ何レヲカ毫モ
疑惑スル事アラン試ニ思惟セヨ夫意相賣ト咒咀等ニ
テ吉凶禍福ヲ知リ或ハ是ヲ憂轉スル事ヲ得バ豈一人
トシテ災難ニ罹ルモノアランヤ右等ハ畢竟人心ノ惑
ハス奇異妖怪ノ所業ニ付而後総テ禁止セシムル条早
ク愚昧ノ惑ヲ解キ文明ノ域ニ進ミ各心志ヲ正敷シ職
業勉勵可致事

附二世相男女相性黄帝ノ四相弘法ノ四目錄星運ノ
占等都而婦女児童ノ惑トナルベキ事ヲ載タル書類
賣買不致様可心得事

右ノ趣管内無洩相達ルモノ也

壬申七月

大阪府

聽聞

東成郡天王寺村令道甲小橋屋家名相續事件裁許案

東成郡天王寺村北立甲
和泉屋卯八妻
以登

其方義小橋屋七齊助妻タリシ節出生ノ女子以来ヲ以
令般小橋屋家名相續ノ義及出訴候得共元々其方并助
死後旧恩ヲ忘レ終ニ卯八ニ嫁シ漸ク破リ候身ヲ以
旧家ノ事ヲ彼是申立ル段甚以無謂事ニ候加之四郎兵
衛既ニ當主ニ定ル上ハ之ヲ退ル等ノ願意全我子血縁
ヲ以我身ヲ利スルノ手段理不盡ノ至此度尤方ヲモ可
申付處正ニ敷以来ハ齊助ノ實子ニテ亡靈ノ本意ニモ
可有之ニ付右願ニ拘ラス所役人共和順之取扱ニ固リ
以来ヲ心橋屋ニ引取ラセ四郎兵衛ヘ相娶スベキ熟議
相整候条向後妄リニ親子ノ間柄ヲ申立小橋屋家事並

以末身上ニ付何事ニテモ決テ相携リ申間敷事

東成郡天王寺村今道甲
小橋屋四郎兵衛養母
タ美

其方義今般齊助妾以登ヨリ以末ヲ以小橋屋家名相續為致度訴出候得共齊助死後彼等ト不通證書取替セ有之候ヘトモ以末ハ正敷齊助ノ落子(ゲッシ)カラ廉ヲ以テ且申拒(コバ)ハトイヘトモ以末ハ正敷齊助ノ落子カラニシテ此義理千萬ノ證書有之トモ絶チ隔テ難キ筋ニ付今般所役人トモ和順ノ取扱ニ因リ以末ヨリ引取養育成長ノ上當主四郎兵衛妻ト可致熟議相整候上以登義ハ不負不將ノ者ニ付其方家事并ニ以末身上ニ携ワラセ申間敷候条只管(ヒタスラ)両人ヘ慈愛(ジアイ)ヲ加ヘ家事向勉勵イタシ候様教諭可致候事

東成郡天王寺村今道甲
小橋屋
四郎兵衛
同七齊助嬢
以末

其方共儀今般所役人共和順ノ取扱ニヨリ親トモ引連(ツレ)ノ事夫ヽ相片付キ両人小橋屋ヲ相續夫婦ノ契約相整候上ハ睦敷養母妥美ニ孝道ヲ盡シ家内相親ミ職業不怠様可相勤候事

世ニ不通證書ト云事アリ親子兄弟ノ間隔絶(ヘダタリ)スルモノ少シトセズ實ニ倫理ノ至重ナル事ナレバ能ク此御裁許書ヲ熟(ヨク)見シ自ラ悟リ度モノナリ

○塩商社　基本金　七千五百圓　頭取　护山梅之助
○楮作會社　同　三千三百圓　社長　近藤楮助
第一臘商社　同　一万七千圓　頭取　岡田徳左門

○第一綿商社　基本金　一万五千圓

頭取　鴻池善右エ門
同　大眉五兵衛
同　島田八郎左門
同　高木五兵衛
同　澁谷庄三郎
同　秋馬新三郎
同　渋谷正十郎
同　蓑内九藏
同　扇與兵衛
同　近藤芳太郎
同　三上仁助
同　冨村三郎吉

○第二膸商社　一万圓

頭取　尾寄惣兵衛

○第一紙商社　同　一万千圓

頭取　杖山長左門
同　竹田與左門

右ノ各社内外美事良法ヲ採擇シ規則確立既ニ府廳ノ允准ヲ得テ開社セリト云願クハ是迫ノ弊風ヲ改メ至直至正ノ商法ヲ行ヒ前途永續ヲ旨トセハ日ニ盛大ニ趣ク疑ヒナカルベシ

○西京西陣ノ職人五名此度織物傳習ノ為佛國エ航海スル由我日本ノ織物同所ヲ以テ最第一トス然ルニ猶亦彼國精巧ノ業ヲ習ヒ得テ他日帰郷ノ上ハ之ヲ西陣一般ニ擴メ各國向ノ織物場トシ無類ノ大國益ヲ起スナル可シ

運上所輸出二日○切昆布九千二百斤。六○蚫蠟千九十五斤○杜冊皮千六百斤。三七五○鮑千三百斤。三○鮑千四百二十斤。三○鱶鰭百五十七斤。八○煎海鼠二十六百六十斤。三百三十二弗七十二セント○呉茱萸九百八十四斤。三百七十七弗十二セント○同日輸入○白砂糖八千五百斤。七五○傘千本。百二十弗

明治五年四月 大阪新聞第四號 一

明治五年四月 大阪新聞第四號 一

物價日表

堂鳩濱

開商社商品時價

摂津 酉日三条廿七戔 酒拾駄 四二五本 四十本 三十本

肥後 酉日三条仝戔 塩百俵 卅四十三条廿七戔 亦穂 九条

筑前 酉日同五十七戔 茶百斤 鶯粕 二十七戔 菜種 二十五戔 鰯粕 百斤 四十六戔 四十二枚 五十七八枚 頭 五十二枚

水油石 酉廿一条廿五戔 晒蠟 百斤 四十六戔 四十二枚 五十七八枚 頭 五十二枚

黒砂糖三嶋 四条廿五戔 百斤 五条 十七戔

綿 毎壱両 阪丹とも百目 壱斤と百卅目 数阪丹とも百六十目

木綿 百反 豫堂 四十二条 二十一条

純銅 百斤 二十条

生糸

昆布 百石目 八百五十条 三ツ石 百斤 刎京極 三条廿七戔ヨリ

寒天 角千本 四条ヨリ 六条七十五戔迄

本局 書籍會社 本町通四丁目

撰集所 長堀橋筋二丁目 貴湖堂島

取次三府及諸國

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所マテ寄ヒ社中ノ素志ヲ助ケヨハンコヲ但シ投書ハ必ラス住所姓名ノ載セヨ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨツテ出版スル件 ハ諸品賣買ハ新店開キ觀セモノ集會等引札 其他世間ヲ披露事件總テ應其望出版一行ニ三字ニ付 定價五銭宛ニテ引請可申候

明治五年四月 大阪新聞第四號 二

明治五年四月 大阪新聞第四號 二

色紋柄種々奇巧ヲ盡ス既ニ洋服ニ作リタルモアリ極メテ見車ナリ且流行ノ縞羅紗ナトヨリハ安直ナルヨシ洋服ニ限リ世人免角洋品ヲ用ユ遺憾ナラズヤ本邦ニカヽル名品ノ出来初メシ上ハ專ラ是ヲ以服ニ作リタキモノナリ阪府知参事公ニモ此織モノヲ命セラレシ由神戸在留ノ洋人ハ最早頻ニ致一覧當節直段取極最中ト云邦内ハ勿論海外マデモ浪華織ノ行ハレシハ企望スル處也サレ共當地ノ俗トシテ速ニ利ヲ專ラニスルヲ旨トスル風ナレハ何卒此度ハ少シノ規模ヲ大ニシ安價ニテ賣出シ數万反ノ利ヲ集メテ大成スル様

右集議所ニ開港社中笠井新兵エ芝川又右エ門岡太兵エ其外ニ有餘銘日々集會シ見込アル人ノ衆論ヲ聞テ專ラ開港ノ事ニ尽カストニフ新軍紙第八号ニ載タル「諸人ノ心ヽヲ云々ノ歌ハ知事公直筆ニテ右兵港社中エ下サレシ歌ナリトゾ

南本町二丁目難波橋筋東入
開港集議所

○新聞紙十六号ニ披露アル浪華織ヲ一見シタルニ実向冬向共博多ノ織方ヲ以洋服ニ製シタル良絹ナリ深

ニアリタキモノナリ又中ノ島開商社ニヲイテシヤツプヲ製シ始メタリ洋品ニ見マカイ候程ニ能ク出来タリ是モ知参事公注文アリシ由迚来股々諸物品ノ製作巧ヲ競ヒ奇ヲ逞フスト云ヘドモ一時ノ戯物ニシテ用ニ適セザルモ亦多シ願ハ帽ヤ服ノ如ク必用ノ品ニ思ヲ寃メ心ヲ盡シ日用ノ物ヲ海外ニ仰カヌ様ニ相成度モノニテ是ソ富國ノ一端ヲ奉助ノ基トモ云ベシ此方ノ君子御一見ノ上澤山御注文有リタキコトヲ其職人ニ替リテ之ヲ希フ

○南第八區三津寺町小學校建営ノ為メ豫メ地所ヲ擇ミ一陋巷ナル革門繩樞ノ徒ヲ轉居セシメ其宅跡ヲ用ムトテト居ノ手當等遣ハセシニ尚蹰躇シテアリシカ去月九日大風雨ノ朝屋瓦礫々ト鳴出シタルニツキ家人皆驚キ避テ屋外ニ出ル時連棟一齊ニ卵ヲ壓ス如ク潰頽タリト全体此小學校ヲ建ル趣意ハ府下人々ノ知識ヲ開キ活計ノ種ヲ與ヘムトノ良工夫ナルコト彼是ト陰ニ相議シ又ハ其建築ノ機會ヲ見テ杙木ヲ騰價セシムル等ノ風聞アリ故ニ造物之ヲ誡メ一朝ノ変ニ文明ノ礎ヲ朽ヘタリ天高ニ居テ低ニ聽クト畏ルヘク慎ムヘキ事ナラズヤ

〇島下郡茨木冨田両村ノ某寺ヨリ説教ヲ誹謗スル不法ノ族無之様村方ヨリ申諭アリ度旨府廳エ伺出シニ右等誹謗スルモノ無之様説教スルコソ説教者ノ任タルベシ誹謗ノ有無ハ説教ノ巧拙ニ依ル云々御付紙相成リタル由高僧方自家口吻ノ巧拙ヲ問ハス人ノ誹謗ヲ禦ントスルハ醜婦ノ明鏡ニ向ヒ其美ナラン事ヲ求ルガ如シ可笑々々

右投書ニ因テ記載ス

〇會社ノ世ニ益アル訳ハカヲ惜セ心ヲ一ニシテ事ヲ盛大ニシ物價ヲ平均ナラシメ買フ者モ便宜ヲ得賣ル者モ福利ヲ享ル美事良法タリ故ニ府下日ヲ逐テ各種ノ會社開ケタル中ニ書林會社アリ頭取ハ石田和助副頭取ハ松田正助ナルガ此度府下各區ニ小學ヲ開校スルニ付毎區ノ學校ヘ數種ノ書籍ヲ差出度旨ヲ願出ケレハ神妙ナリトテ聞届ニ相成リタル由

運上所輸出品三日

〇漆器六箱數四百八十二
〇七十八弗〇日傘十本。二弗五十セント
〇雞雞百十五斤。三〇切昆布二
一万六千斤。三〇切昆布二
万八千八百斤。六〇干海老
十六百斤。八〇杜丹皮二千百斤
〇豚五疋。

輸入　同日

〇蘇九千六百斤。晋公十弗〇紅花二百三十斤。八十六弗〇小麦氣
四梱。千弗〇白砂糖二万八千六百斤。七五〇木香千九百斤。
二三五〇蘭山洛藥紅花十百二十七斤。二百三十弗

〇草一梱百六十斤。二

物價日表

堂嶋濱

摂津	十七日 三条十三銭	
	十八日 同十五銭	
肥後	十七日 同七十七銭	
	十八日 同八十銭	
筑前	十七日 同六十七銭	
	十八日 同七十銭	
水油	十七日 卅二条	
	十八日 卅一条五銭	

開商社商品時價

酒拾駄	四斗五升入	三十条
塩百俵	四斗入	三十条
米百斤		二十一銭
鶏	一番	二十一銭
鶏	二番	十五銭
鶏	三番	十銭
鶏	四番	七銭
鶏	五番	五銭
鶏	六番	三銭
鶏	七番	二銭
鶏	八番	一銭
鶏	九番	五厘
鶏	十番	三厘
鶏	十一番	二厘
鶏	十二番	一厘
黒砂糖三噸	四条	五条
綿	壱斤両	改七十七匁
木綿	百反	四十二条
蝋	百斤	二十条
生糸		
昆布	百斤	八百五十条
寒天	百斤	七十五銭

伏テ望ム四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局又ヒ撰集所エ寄ヒ社中ノ素志ヲ助ケモハシヨヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セヘシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○挙ニヨッテ出版スル件

〈諸品賣買〉新店開キ

〈勸セモノ集會寺引社 其他世間ヲ拔露事件總テ應其望出版一行ニ付 定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 書籍會社 長堀橋筋二丁目 撰集所 青洲堂 島取次ニ府及諸國

隔日發兌

大阪新聞 第二十四號 附録

明治五年壬申年八月廿二日 西洋千八百七十二年九月廿二日 本日晴寒暖計七十度

○布令

金穀取引ノ儀ニ付出入訴出候節相手方申分無之候得共手許不如意ニ而一時返濟難致段申出且願人ヘモ相断置候中新家普請イタシ或ハ酒宴遊興相催シ候等ノ者有之哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候元来人ノ恩借ヲ受ケ却テ人ニ迷惑ヲ掛候身分ヲ以テ猥リニ榮燿ケ間敷振舞有之ハ全官府ヲ輕ンシ同輩ヲ欺クノ訳ニテ不埒ノ至ニ付向後右不心得ノ者於有之ハ嚴重可及沙汰候事

右ノ趣管内無洩相達ルモノ也

壬申八月

大阪府

〇當春御靈ニテ傾城石川深トイフ戯題ノ芝居アリ尾上卯三郎五右衛門相勤メ中村仲之助ハチヤリ松ヨイヲ勤ム兼而評判ノ両人故一入大入リナリ北渡邊甲西守新助カ兒守女ふきトシハ二十計リニテ仁躗ノ質ニテモ無之由芝居見物ニ罷コシ両人ヲ見初メ憨情ノ切ナルヨリ部屋へ立入リ親シク語リアフ車數度ニ及ヒ終ニ両人ト寐會ヲ遂ケ米テハ氣太クモ主家ノ金五十両餘反物數品ヲモ盗取両人ヱ遣スコト其身ハ隠ストイヘトモ天ニロナシ人ヲ以テイワシムル習ニテ巷説高ケレハ此頃三人共被捕府廳ニ於テ御吟味アルヨシ

〇投書

余平日多病出行稀トリ偶神戸ヱ赴キシニ川蒸気舩ヨリ上陸スルノ砌一丁計リノ間大阪川崎造幣寮ト同シ鋲柵ヲ以テ圍メリ怪ンテ之ヲ人ニ問ヘバ答テ云此鋲柵ハ前大阪知事後藤氏ノ外国ヱ注文セル品ナリシガ如何ノ故カ此処ニアリト余阪人ナレバ是語ヲ聞振腕ニ堪ス造幣寮ハ我地ニアレバ轄ク論セズ神戸何ダル地ナレハ我三大ノ鋲柵ヲ奪エルヤ必竟阪人ノ因循ヨリ起レルナレバ一日モ早ク開明ニ進歩シ今日ノ恥辱ヲ雪キ後藤氏ヲシテ嫁衣裳ノ謗ヲ受ケサラシメンコトヲ大阪人ニ祈望ス

○八月十日河州柏原村農家井戸ヨリ龍天登セリ三尺
昇降イタシ四度メニ昇天致セシ由　右報知
○北大組第六區天神筋町宿屋渡世塩見浅二郎宅ニ此
程京都ヨリ客人来リ止宿セシニ河豚ヲ好ミシユヱ當
月十七日夕刻割烹(ニタキ)イタシ同宿ノ者四人亭主モ相伴(シャウバン)ニ
テ盛ンニ食シケルニ其夜六ツ半時頃(ニハカ)ヨリ五人トモ
ニ腹痛脳乱終ニ京都ノ客一人先ニ戸主ト両人即死セ
リ外三人ハ稍(ヨウヤ)ク命ダケハ助リ瀕生(ヒンセイ)中ノヨシナリ全躰河
豚(フグ)ノ毒アルハ衆人ノ知ル処ニシテ可恐ノ魚ナレバ主
人ハ別シテ渡世(トセイガラ)柄ト云ヒ入念致ス可キニ客人ノ所望

トテ其魚毒ノ有無ヲモ計ラズ容易ニ調味シ其身ノミ
ナラズ客人迄モ非命ノ死ヲナサシムル實ニ歎カハシキ事
ラズヤ諺(コトワザ)ニ云フ人命ハ地球ヨリモ重シト大切ノ命ヲ
失フ事輕(チリ)芥ノ如クスルハ戦場ナレバ世ノ誉トモナル
ベキニ河豚(フグ)ト打死シテ人ノ笑ヒ物トナルハ浅間シキ
事ナリ依テコヽニ誌シ食物ヲ吟味セズシテ生命ヲ輕ン
ズル人ノ誡トス
○當地東十四區西高津法祐寺ハ浄土宗ノ寺ナリシカ
今度區中小學校ニ用ヒムトテ佛堂ヲ四面ヨリ煉化石
ノ摸様ニ塗リ立テ玻瓈ヲ嵌メ青漆ヲ塗リ一層美麗ナ

ル洋製ノ學校トナル由我聞ク佛ハ大慈悲ヲ以テ十方ノ衆生ヲ濟度シ諸悪ヲ解脱シ功徳ヲ脩セシムル本願ナレハ蓮坐ノ場所モカク學校トナリ人オノ生シ各善男子善女人トナルハ定メテ微笑歓喜アルハ知ルヘキナリ且釈尊モ六年ノ勤苦達摩ハ九年ノ面壁皆勉強シテコソ法ヲ天下ニ布ケリ今時ノ童子モ学校ニ於テ一心不乱ニ勤勉シテ英才トナル上ハ未来ハヨロカ今生ニテ榮耀ヲ極ノ得七宝ノ器前ニ列ナリ百味ノ飲食常ニ滿盈セン何ソ極樂世界ヲ羨ヤム事アランヤ

○追報

當新年紙才北号ニ記載セシ西成郡川口村太神宮ノ社内ノ蕪鉄ニ生セシ玉ト鉾ノ姿此頃社中ノ人寫生シ来レリ肉ナ頭ヒ麦ニ出シ且ツ図ヲ顕ス実ニ珍ラシキモノニテ日々見物群集セリ四十餘年前此ノ如ク玉鉾出来其年豊作ニテ郡民萬歳ヲ唱ヱタル事アリ依之今年モ豊年也トテ民ノ歓ヒ一ガナラズ又或説ニ其年天保山ヲ築ケリサレバ今年ハ港ノ為来ル吉兆也ト專ラ風説セリ

物價日表

堂嶋濱

摂津　肥後　筑前

水油 一石

開商社商品時價

酒	拾駄	四十五糸	黒砂糖	三嶋	四糸
		四十糸		百斤	五糸
塩	百俵	十二糸	綿	壱両	十七糸
		七糸	木綿	壱反	四十二糸
茶	百斤	五十七糸	蚕豌豆	百斤	二十二糸
		四十二糸	純銀	百斤	二十糸
干鰯	鯡	二十一銭	生糸		
	鯡	二十七銭	昆布	百斤	八百五十糸
	打鯡	十五銭	寒天	百斤	三糸廿七銭
晒蠟	百斤	四糸			六糸七十五銭

代テ糺ス四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ヘ寄セ社中ノ素志ヲ助ケモハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セモフベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨッテ出版スル件 △諸品賣買 △新店開キ △觀セモノ集會等引札 其他世間ヘ披露事件総テ應其望出版一行廿三字ニ付定價五銭宛ニテ引請可申候

本局　書籍會社

撰集所　長堀橋筋二丁目　賣湖堂島

取次　三府及諸國

明治五壬申年八月廿六日　西洋千八百七十二年九月廿四日

隔日發兌

大阪新聞

第廿五號

本日晴　寒暖計卒五度

○布令

養蚕ハ御國第一ノ物産民間至要ノ業ニテ婦女子ノ手ニテモ成シ易ク其利益不少実ニ家ヲ興シ國ヲ富スノ良産ニ候處是迄手馴ザルヨリ自然其制ヲ誤リ損失ヲ釀ス者有之哉モ難圖左候テハ往々養蚕興隆ノ妨ニモ相成歎ケ敷事ニ付此度當府ニ養蚕教授掛ノ官員ヲ置専ラ世話イタサセ候ニ付右養方ヲ始桑苗培養方傳習イタシ度者ハ無遠慮可申出候事

右ノ趣管内無洩相達ルモノ也

壬申八月

大坂府

〇廳聞

北大組第十六區中島通一丁目
扇屋輪藏借宅ニ寄留
豊後日田郡隈畚 紙屋重造
申四十歳

其方儀借財相嵩手元不如意ニ相成候迚措幣(ママ)(ツカ)贋造(ガンゾウ)ヲ企
當二月中一兩札并ニ民部省二歩札ニ薄紙ヲ當テ文字
并摸様等寫取板木ニ張付(ハリツケ)彫刻(ホリコミ)致候得共見(ミ)苦敷候ニ付
他ニテ真鍮(シンチウ)ノ延金買調吉野紙ヲ以右金札ヲ寫取阿膠(アキラカ)
ニテ延金ニ張付彫刻致候處可也ニ出来上リ候ニ付處
々名前不存紙屋ニテセンクロ(ママ)ト唱候白紙百五十枚計
買調金札寸法ニ断裁(キリ)リ尚又壌石(ママ)ニテ珠礪(シュト)ノ小印ヲ取
扱一両札三十六両ト二歩札六十三両摺立右ノ内ヲ以
泊茶屋ニケ處ニヲイテ遊興代ニ渡シ試候處差戻候ニ
付両處共正札ト引換遣拂不致候得共右始末不届至
付斬罪申付候事

〇從来ノ織多(ママ)ノ稱ヲ廢シ更ニ平民同様ニ被仰付候段
古未未聞ノ御仁恤ナリ爰ニ元織多ノ一村ヤリ若者共
市中ノ洗湯ニ朝夕立寄ルニ付世ノ人嫌忌(キライ)シ自ラ其洗
湯不榮ニ及フ由ソノ村方ニ聞エ其區中ニ教導ノ師アリ
〃或日若者共ヲ集メテ云今日到来ノ酒肴アリ各ヽエ
振舞ヘシト持出スヲ見レバ小児ノ糞尿(クソ)ヲトル「ヲカワ」
ト云ヘル器ノ古キヲ洗ヒ清メ其器ニ肴ヲ盛リ又病者

ノ尿ヲ取ル「シユビン」ヲ同ク洗ヒテ酒ヲ納レタリ若者共各々目ヲ視合セ顔ヲ皺メ苦々敷キ面色ナルニゾ教師イザト勧ムレ共一座荅ナシ其時教師戒儀ヲ正シテ云各々朝夕市中ノ浴湯ニ参ラルヽ由然ルニ湯主今ハ同民ナル故断ルニ術ナク又他ノ客之レヲ見テ柔ラズト聞ク抑此度ノ御仁慈ハ我等ノ身ニ執リ前代未聞後代後タ有間ジキ賜也然ラハ益々身ヲ謙退シ従来ノ汚名ヲ雪ガン為メ市中ノ衆ヨリモ先進シテ習學勉勵レ適レ開化ノ魁トモ成ル可キノ志シコソ本意ナレ各々猜意相違セリ今此器モ原トハ汚穢ノ品ナレ共今如是洗浄シタレバ各々ノ身モ同様タリ併シナガラ是迄ノ汚器ナルヲ知レバ嫌忌モ無理ナラズ故ニ各々此器ノ理リヲ知リテ世ノ嫌忌ヲ避ク可シ後年ハ自然ノ交リモ重ル可シ幾學勉強ノ功ニ依テハ彼方ヨリ交リヲ求ム可シト敷勧ニ説諭致シケンバ若者一統感伏シ此頃専ラ勉學致ン居ルトゾ此教師初メニ戯レヲ以テ導キ終リニ禮教ヲ以訓諭スルハ智戈能ク教導者ノ撰ニ地タリト尊サアリトゾ

○ ○投書

九條國津橋邊ニ粉川ト云ヘル琵琶法師有リ日頃心學

道語ニ志シ厚ク又四書ノ講席ヘ出テ聞覚エ抔シケル
ニ方今ノ御政令ニ帰シ市中制法抔ヲ諳(ソラン)シ忠孝ノ道哥
ニ糸竹ノ節ヲ付ケ女童ニ教エ居ルトゾ聲(コワ)者ナガラモ
殊勝(シュウ)ナル志シナリ或人狂哥ヲ讀ミ送レリーゾ

三味線ノ心づくしは棹(さを)のため　引(ひく)ぞ教のため

〇廣告

先般来當社ニ於テ外國人雇(ヤト)入西洋帽子(シャッポ)製造法ヲ傳習
イタシ頗ル美麗ニ手際能舶来(ハクライ)同様ノ品相整候形チハ
御好次第ニ仕立價ハ極メテ下直ニ差出候間四方
開化ノ諸君子御入用ノ御方ハ多少ニ不レ抱御注文アツ
テ彼我製造ノ工拙御試ミ可被下候右ニ付毛附ノ兎皮
多分入用有之一枚ニ付大小平均五銭ナレハ幾万枚ナ
リ共引請可申間若取集メ差送リ度御方ハ御引合被下
度候

大阪中ノ島
開商社
製造局

運上所輸出四日

〇三俣三百十斤　〇二十二弗
樹皮百三斤

〇葉煙艸一万七千二百斤

輸入同日

〇木綿糸三十斤。五〇鏈機械千。品百五弗〇木綿ヨリ糸十五斤。七五〇毛氈四十八疋。十弗〇帽子抵二十四。八弗七ト七五、セント〇鳴呼鈴二。一弗〇寝間二巻。四十弗〇洋紙六百十六包。三百弗

〇三

物價日表

堂嶋濱　開商社商品時價

摂津	廿三日三条廿六戔	酒	拾駄	鄕下	四十五条	黒砂糖	四条廿五戔ヨリ
	四日同廿三戔			地廻	四十条		五条十七戔
肥後	廿三日同七十九戔	塩	百俵	三十条		綿	毎壱両
	四日同七十四戔			冊目十二条玉変		阪上	六百目毎
筑前	廿三日同六十九戔	茶	百斤	亦穂	廿五条	京丹	七百冊目数
	四日同			大頭	廿七八歩	阪丹	七百六十目
水油	廿三日廿二条	鶏	鶏猪	五十七歩		木綿	百反
石	四日同	羽	鶏	四十二三枚		豫盆	四十二条
	五戔晒蠟百斤		八十五戔	地廻十六条冊数五十冊			二十二条
				国登十四条冊数		紙銕	百斤二十条
						生弁	
						瓦弁	百斤三百石
							八百五十条
						寒天	百斤
							四条廿日
							八条七十五戔迄

本日一通四丁目

本局　書籍會社　長堀橋筋二丁目

撰集所　青湖堂　島取次三府及諸國

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局又ヒ撰集所又寄セ社中ノ素志ヲ助ケモハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セヤフベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨツテ出版スル件々諸品賣買ノ周旋ヲ引請可申候

○潮セモノ集會等ノ事其他世間ニ披露事件總テ應其望出版一行廿三字ニ付定價五錢宛ニテ引請可申候

明治五年壬申年八月九日　西洋千八百七十二年八月廿七日　本日雨寒暖計六十三度

隔日發兌

大阪新聞　第弐六號

○布令

當府管下摂津國島下郡第三區鮎川村高ノ儀是迄島上島下二郡へ跨居不都合ニ付今度島上郡ニ有之高四百四十七石五斗一升八合島下郡へ高入申付候条此旨可相心得候事

右ノ趣管内無洩相達モノ也

壬申八月　大阪府

○従吉備州投書

去ル中元前小田縣下備後福山近村ヨリ後雨ヲ得タル

ヲ喜ビ村内ノ者打寄草酌（サカモリ）ヲ催セシ席ニテ甲ナル者乙ニ向ヒ取替金ノ催促ヲナス丙之ヲ聞キ令日ハ互ニ好雨ヲ賀スル也金談ノ事ハ別ニ序アルベシ先ヽ飲マレヨト云テ盃ヲサス甲怒テ曰我乙ト事ヲ議ス丙ガ知ル所ニアラズ我可飲ミ可言シテ飲ミ可言シテ言フ何ゾ時日ヲ論セン丙曰実ニ然リ然レドモ衆人ノ歓ヲ妨ケンヨリ共ニ樂ムニ如ンヤ甲マスヽ怒テ不止丙ヒソカニ席ヲ逃レ去ル甲之ヲ追テ丙ガ家ニ至ル丙急ニ押入レニ隠レ潜ミタリシヲ其母モ知ラザリシガ甲突入シ来リ丙ヲ出セト云母不在ト答フ甲奮テ曰我今丙カ跡ヲ追来レリ汝イカデ隠ス事ヲ得ンヤト打伏セテ之ヲ撃ツ丙コノ光景（アリサマ）ヲ見テ躍（オド）リ出魚刀（ホウチヤウ）ヲ取テ急ニ甲カ腰ヲサス甲即チ斃（タヲ）ル丙徐（シヅカ）ニ曰嗚呼命ナリ母ノ被撃ルヲ見ルニ忍ヒズ此ノ不慮ノ罪ヲ犯セリ自若トシテ衆人ニ謝ス既ニシテ戸長副（ソヘ）寺丙ヲ押シ篭メ置廳ニ訴フ甲カ母変ヲ聞キ来テ丙ニ謂テ曰吾児（キヨウジ）暴子（ホウシ）カ手ニ死ス固ヨリ其宜也不然ハ早晩（ハヤカレオソカレ）必刑ニ處セラルヘシ吾ト子カ坐ナガラ縛（ハク）ニ就クヲ見ルニ忍ヒス請フ速ニ脱シタマヘ吾決シテ子ヲ仇トセス吾カ児豈悲シカラザランヤ因テ又子ガ母ノ子ヲ思フ事ヲ察スト云テ涙（ナミダ）ヲ替（ヌグ）ヒタリ丙ス

テ二官ニ囚セラルヽノ後猶其助命ヲ歎願シテ休マストヽ云噫這件イカヽ御裁許相成ル可キニヤ

〇當地東十二區今橋二丁目小学校ハ三層ノ歐製ニ造リ壯麗ヲ極メムト十木ノ功日ニ盛ムナリシカ其屋敷ニ久シク住メル老狸アリテ其巢窟ヲ失ハンコトヲ憂ヒ夜ゝ役夫ノ眠ヲ驚ヒ屡々怪異ノ事アリシニ頃日或人其事実ヲ取調ヘ即坐ニ左ノ詩ヲ認メ其場所ニ掲ケ置タリト其詩ニ云

狸字分未真里犬　寄蹤城市作嫌注
豆畦芋圃月明處　鼓腹只應歌太平

偖其夜ヨリ部怪ノ事ハ掻消ス如ク無クナリテ皆々安堵ノ思ヒヲ為シタル由按ニ此学校取建ノ儀ハ治國ノ根基教化ノ本源ナル趣意ヲ獣類タモ之ヲ感戴シ跡ヲ山野ニ避シナリ因テ重子テ思フ世ノ文明ニ開クルニ隨ヒ毛物マテ如此文字ノ意味ヲ解セシハ彼ノ新聞雑誌ニ云ヘル犬ノ書ヲ讀ミ猴ノ居宅ヲ造ルト同シコトニテ全ク造物ヨリ人ノ懶惰ヲ誡ムル所ナラム人ハ万物ノ長トモ云ヒ靈妙ノ知ヲ稟クヽル者ナレハ徒ニ酒饅飯嚢トナリテヲサヽ禽獣ニ劣ラヌ様ニ有度者也

因ニ云北七區東堀川學ニ渋渡世ノ某一人学校ニ来

ノ地面ニ居ナガラ區戸長ヨリ再三再四轉居ヲ諭セシニ彼是トイナミ時日ヲ送リ建捗ヲ妨ケシハ開化世界ノ人ニ似ス彼狸ニモ愧タル頑夫ナリト云ベシ

右投書

東京大坂從後午後一字
郵便差立時刻表

大阪　午後二字發　名古屋　夕七字
伏水　夕六字　靜岡　午後三字
西京　夕八字　横濱　午後十字半
大津　夜十一字　東京　午後一字着

當八月朔日ヨリ東京大坂ノ間從前夕七字便差立ノ分別ニ毎日午後一字出發三十六時限リノ至急郵便ヲ被開上ニ記ルス表面各地ノ書狀ノミヲ逓送致シ既ニ御發行相成リ右ノ時間ヲ待ズシテ両地へ到着スル由

運上所輸出七日

○牡丹皮二千九百十斤。三七五　○龍胆草二千百十斤。百二十六弗六十セント

○黄蓮七百斤。百十二弗　○蜜蠟三百七十五斤。二五　○干魃七十五斤。二〇　○寒天八百斤。三五　○午遊壱箱。二弗五十セント　○大楓子四千二百斤。六十三弗　○豚三疋。十弗

當八月八日摂州勝間新実綿入札一本二付（但二百廿目入）二百廿四匁半ノ五両一歩二朱ニテ落札其後雨天續キ買人ハ多ク五両二歩二朱ニ至ル又其後日和ツヾキニテ當時五両二朱ニ下落

ヤ実ニ人民ノ幸福ト云ベシ坊間徃々郵便ヲ嗤誚スルモノアリト為メニ記シテ是ヲ醒ス

明治五年壬申八月廿八日
西洋千八百七十二年九月三十日
本日ノ寒暖計卒三度

隔日發兌

大阪新聞 第廿七號

○布令

目安箱ノ儀ハ諸人ノ申出タキ事アリテモ取次モノナク又ハ取次ヲ經テハ申出カタキ事等ヲ上ニ通センタメ設ケ置ク旨ハ兼テ掲示セシムル通ナリ然ルニ中ニハ所役人ノ奥印ヲ請ケ表向府廳へ申出差支ヘントキ事柄ヲモ右箱へ投訴致スモノ不少心得違ノ事ニ候萬一所役人奥印致シ可然事柄ヲ拒テ致サヽルヨリ已ハヲ得ズ投訴ニ及モノハ其旨書中ニ認ムベシ若シ其儀ナク

物價日表

堂鴫濱
摂津 廿七日 三素十二セン
肥後 同日 同六十三セン
筑前 同日 同五十七セン

水油 石 同日 卅一糸九十七晒蠟 百斤 地廻り 糸二十七銭 国産十四糸 問屋 糸八十 五銭

開商社商品時價

酒 拾駄 灘地廻 四千五糸 下 四十糸 三十糸
塩 百俵 播州十二糸 赤穂 九糸
茶 百斤 大頭 五十七八銭 中 四十二三銭

綿 壱梱 大阪十七百目 無数 京丹七百目 阪丹七百六十目 糸五十七銭
木綿 壱疋 豫 四十二糸 二十一糸
紙銭 百斤 二十糸
生糸 百斤 八百五十糸 寒天 角 四糸ヨリ 六糸七十五銭迄
黒砂糖 三嶋 四糸 仏五銭 百斤 五糸十七銭

伏テ糞フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所エ寄セ社中ノ素志ヲ助ケモハシコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セヨフベシ無根ノ説ヲ恐レ故ナリ

一〇望ニヨツテ出版スル件 △諸品賣買 今 新店開キ 御覧セモノ集會等引札 其他世間エ披露事件 総テ應其望出版一行ニ三字ニ付 定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 書籍會社 長堀橋筋二丁目
撰集所 青湖堂島

取次 三府及諸國

猥ニ投ケ入ル、ニ於テハ仮令姓名相記シ候共一切採リ揚ス悉ク焼捨候条此旨可相心得事

右ノ趣管内無洩相達ルモノ也

壬申八月

大坂府

○聽聞

無宿
和州ノ
松五郎

其方義西高津新地九丁目近江屋幸吉方止宿中同人女房キヌト密通致シ候段相顕仲人立入一旦私和致シ再奸通ニヲヨヒ其後キヌヨリ又候本夫幸吉ヱ相知レ候テハ申訳無之義ニ付以後隔絶可致旨申聞薄情ニ仕向候義ヲ遺恨ニ存候迚夫アルキスト奸通イタシ候而已ナラス出刃庖丁ヲ以テキヌヲ及誅殺候段重々不届ニ付斬罪申付候事

○茲歳ノ変大坂鎮台営常備兵二千五百餘人ノ内脚氣病ニ罹ルモノ殆ント四百人六月中死者十数人ナリ医官相議シ風土ニ因ル病ハ住所ヲ轉ルニ非サレハ良効ヲ得ルコト能ハズトテ其重症ナル者三十餘人同國有馬郡有馬村ニ移シ假病院ヲ設ケ法律ヲ立テ其病ノ軽重ニ應シ日ニ一回三回ノ浴泉ヲ施シ傍ラ内服藥ヲ用ヒレシニ其痲痺癱瘓シタル者モ七八乃至九十回浴シ杖ニ憑テ能ク歩行シ水腫痲痺ノ脚氣ハ五六回ニテ全愈

セシモアリ兎テ効驗(シルシ)ヲ見ザルモノナシトソ有馬温泉ノ脚氣ノ病ヲ治スルト謂フコトハ古ヘヨリ語傳ヘテ養療スルモアリケレドモ如此多衆ノ人ヲ精密(セイミツ)確実(タシカ)ニ試シコトヲ聞カズ今迄游浴スル者ハ浴法度数等ヲ醫師ニ問ハズ只管(タヾ)己ノ了見ニテ時刻浴法ハモトヨリ数灸(キウ)クサヘ浴セハ良(ヨキ)法コト、思ヒ誤レルヨリ却テ其過失多クテ遂ニハ罪ヲ温泉ニ皈スルコト勘(カン)ナカラス故ニ此地ニ浴セン人ハ土地ノ能ク物シレル者ニ尋問シテ浴スヘシ是唯脚氣病ニ限ラス諸病ニ於テ同シコトナリ彼地ハ是迄唯游覧避暑ノ地トナリテ遂ニ泉浴ノ効驗ヲ悦フモノナク二三十年ノ衰ハイフハカリナシ然ルニ昨年創メテ鎮臺ノ兵士ヲ試浴セラレ又今年モ之ヲ驗セラレ其効驗ノ神妙至微ナルヲ世上ニ弘ムルハ又此地ノ幸福ノミナラス大下ノ疲癃(ヒリウ)ノ大祥是ニ過ス殊ニ此頃ハ神戸游覧ニ来ル西洋人ハ必ス足ヲ此地ニ枉ケ浴泉シテ其良泉タルヲ賞譽(ホメ)セリ大坂醫學校ノ教師「エルメレンス」モ盒中休暇ノ際游浴シ此泉桟温度相適當セルハ世界稀ナル良浴ナリト云エリ此頃游浴ノ面客ハ男女共二拾二人ナリカ、ル靈場(たまば)ナガラ土俗ノ風儀未タ開ケス思フニ四方ノ險路ヲ開キ諸品ノ運

輸ヲ便ニシテ民ヲシテ生活ニ容易ナラシメハ自ラ行
義モ良善トナリ無類ノ福地ニ轉スベシ

○投書

當府下ハ川筋多クシテ用辨ナス事他ニ勝レリ然ルニ
其弁用ヲナス川ニ臨ンテ釣ヲ垂ル、者往々アリ仍テ
能ク其休ヲ見聞スルニ行ク水ノ心ヲモ不覺唯一二尾
ノ魚ニ氣ヲ奪レ不知々々産業ノ隙ヲ費ス是ヲ此ニ見
積リ十橋間毎ニ一人宛ト見テ二百三十餘橋ノ間ニ二
十四人ハアルナリ一人一字間ヲ費シテモ二十四字間
ナリ則一日ノ日ヲ以テ二日ノ日ヲ費ス夫年内実地積
立レハ何百日ヲ費スベシ一字間ノ隙ヲモ争テ惜ム時

勿ニカヽル無益ハ止メタキ事ナリトゾ

大阪府癘院癈院表

未年合表

S 百九十六人
PH 十一壹人
C 百五十二人
合 三百九十九人
三百廿二人
其内
痊 三百。九人
死 十
三十八人
合三百五十七人
○残分(申年へ越ス病者
S 百。五人
PH 五人
C 百。二人

未年合表

S 三百。三人
PH 八十七人
C 四十五人
合四百四人
外二未年残リ病者三百三十四人
其内
痊 五百。八人
死 八十一人
○五十一人
残分(即現在病者
S 百。九人
PH 四人
C 九十九人
合三百。一人
但シ内未年残分五十人トナル

申年合表

S 四百九十九人
PH 十九人
C 三百八十人
合千百廿九人
其内
痊 八百十七人
死 十八人
○五十一人
合九百廿四人
現在病者ハ上段ニ記スカ如シ

遊女之員数

日々月々増減アリ員数ハ確定シ難ケレ共府下諸遊里ヲ混シ平均
九

明治四未年冬十月十一日ヨリ創業

S ハ軟シヤンケル PH ハ硬シヤンケル C ハ全身
癩毒ノ諸症 ○ハ種々故アリ親元ヘ差戻ス等之号ナリ

明治五壬申年秋七月晦日記惣計二千百六十五人

大阪新聞 第廿八號

隔日發兌

○布令

糞尿中ノ紙ヲ絞取渡世トスルモノ有之困窮ノ餘リカヽル賤業ヲナストハ乍申陋習ノ甚シキ人トシテ有間敷事ニ候加之川水ヲ以之ヲ洗ヒ不潔ヲ流シ候段不宜事ニ付向後右等ノ業事堅差留候間早々他業ヲ可營轉候事

右之趣市郡無洩相達ルモノ也

壬申七月

大阪府

○堂嶋阿波孫ト云ヘル米問屋ノ妻申ス拾弐男子一人設當五弐ヨソ共後故アッテ實家ノ老母並ニ舎弟拾九弐ナル者ヲ呼取食客

物價日表

堂嶋濱

摂津	廿八日	三斗十六セン	酒 拾駄
肥後	同日	同六十五セン	塩 百俵
筑前	同日	同六十セン	茶 百斤
水油	同日	廿斗八十セン	蝋 百斤

開商社商品時價

黒砂糖	百斤	四拾五弐	四拾弐
綿	壱百斤	大坂上七百目	京丹七百目
綿	百斤	四十二弐	
絹綿	百斤	二十弐	
生糸			
昆布	百斤	八百五十弐	
寒天	千斤	四弐ヨリ七十弐ヨリ	

本局 書籍會社
長堀橋筋二丁目
撰集所 青湖堂 島取次三府及諸國

隔日發兌 定價五錢 京ニテ引請可申候

ト成シ置シニ舎弟十九者八日頃米濱ヱ立入刹ヲ競ヒシガ七月下旬ニ
千八百両餘ノ損分ヲ醸シ一統苦心ニ及ブ其姉ナルモノハ殊更寢食ヲ
安ンセズ折柄八月朔日ノ事ナリシカ終日幼児ヲ抱キ泣濡児顔ニ浸シ
居ルニ傍ノ者ハ何ノ意モ不審シニ不圖家出致シケルニゾ家内大ニ愕キ
シニ一通ノ遺文アリ則チ開キ見ルニ舎弟恩義ノ良人ニカヘル大難ヲカ
ケシハ其罪我一身ニ帰セリ今更為ヘキ方策モナノ因テ身ヲ水底ニ投ス
可シトノ事因テ愈騒動シ八方ヱ分脚シテ尋レドモ足跡知レズ然ルニ堺ノ
波ノ溺死ノ女骸アリトテ彼地ヨリ報知アリ急ギ至リ見ルニ阿波孫ノ妻ニ
相違ナカリシ由嗚呼コノ若冠一時米價ノ機ヲ誤リカヘル大恩ヲ招キ克ニ
其餘殃ヲシテ恩姉ニ及シ徒ラニ黄泉ニ趣ムカシム實ニ可憫又可不慎哉

○

頃日驅梅院ノ車ニツキ前ニモ記スガ如ク種々ノ風評アレドモ此車今日ニ鑑タルニ非ス昔シ支那ニハ后妃

トナルベキ女モ皆幽処ノ撿査ヲ受ケレ車アリ漢ノ雜車秘辛ト云書ニ建和元年呉姁詔ヲ受テ采氏ノ女瑩ノ容止ヲ視ル時日光照窗堂面如朝霞和艶雪射不能正視目波澄鮮眉嫵連卷朱口皓齒位置均適姁乞緩帶堂面発頬閉目轉面内向姁緩捧着ニ日光芳気噴襲肌理膩潔拊不留手規前方後築脂剡玉脅乳薇発臍容半寸許珠私処墳起為展両股陰溝渥丹火齊々吐云々ケ揉ナル貴人ニテモ右ノ始末ナリ況テ浮花浪蕊ノ身何ソ此等ノ車ヲ愧ルヿ車アラムヤ且身体髪膚ハ皆父母ヨリ受ケタル嗇ナレバ其幽隠キ奥迄モ猶毀傷セレメザルトノ行届タル深キ御

世話ナレバ心得違ヲ諭(サトス)レ努々(ユメユメ)軽忽(カロシカ)ニ思フベカラズ宍賢

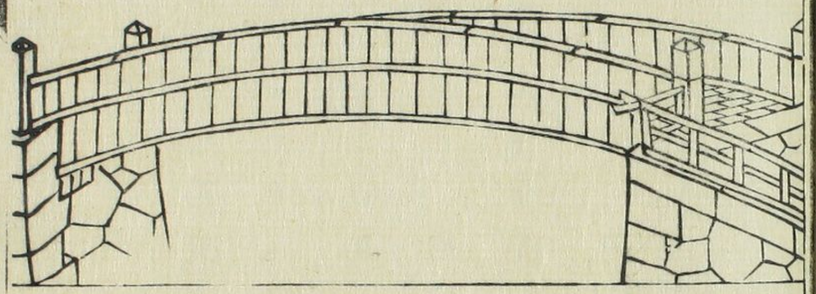
松島鄭開春如海　媚上摟罵下山人記

驅梅院聳妓似山
無限仁風吹不断
檢香遥到玉門関

○投書

東京ニテハ人力車ニ何大區某何十何番ト一車毎ニ區名番号ヲ車箱ニ記レ西洋数字ヲ以テ同ジク記シタリ是レ車ヲ雇フニモ便リヨク又万一遺失品アル時ニモ尋子安々車力輩無法ノ貨ヲ貪ボルノ弊ナク彼我人民ノ為メ大ニ辦利ナレバ當府下ニモ此法ヲ施行アラン事ヲ希望ス

西横堀川
木綿屋橋ノ圖



○木綿屋橋ハ以前阪府土木権少属松田喜太郎ト云人在職中ノユ夫ニテ一柱ヲ用ヒス十三間ノ河ヲ懸渡シ材木モ餘分不費(ツイヤサズ)尤簡便ナル製作也欄干(ランカン)ヲ板ニテ鎖掩護ス此カヲ以テ大ニ堅固ヲ得ルトイフ外面ヲペンキニテ塗立遠眺甚美麗ナリ過客ノ半身ヲ欄頭ニ露(アラハ)ス恰モ画図ノ如シ此人営繕ノ事ニ付新発明多シ此頃病ニ係リ職ヲ辞セシ由可惜シ〳〵

〇従吉備州投書

備中窪屋郡帯江村法輪寺ノ菜師加来ハ毎年七月十五日法會ナリケレバ當日ハ昼夜參詣ノ人群集セリ今年モ例ノ通七月十五日四方ヨリ群參セリ然ルニ隣村ノ悪少年ドモ多人数相謀リ徒来ノ途中ニ涼床ヲ並ベ行人ノ妨ゲヲナシ若キ婦人ノ通行ヲ見懸ケテ打寄亙ニ姦淫ヲナセシ由然ルニ姦淫ニ遭シ婦人共ハ人ノ妻或ハ處女ナレバ他日陽ニ許判セラレナバ家声ニモ抱ルヲ恥テ深ク秘シ居ルトゾ嗚呼本人ハ勿論其親族ノ遺恨想ヒヤルベシカヽル悪徒一旦無難ニ過ルトイヘドモ天何ゾ之ヲ免サン ヤ早晩擒ニ就クヘシ必ズ厳刑ニ處セラルベシ

御被露

西浦谷義春譯

新藥方選

洋

全一冊　此篇ハ泰西近今名家藥方書ニ々醫家處ニ携テ指針便寶ノ書ナリ

發行　心齋橋唐物町南　森本太助

運上所輸出五日

〇寒天四千斤。二五〇葉煙艸八斤。七五〇阿仙藥一万千五百斤。二百八十七弗五十セント〇杜冲皮千四百五十斤。三七五〇岩茸九百斤。三七五〇呉茱萸三百斤。五十四弗〇半紙千九百斤。百八十弗五十セント同日輸入〇麻一万千七百斤。二百十九弗

隔日發兌

大阪新聞　第廿九號

○

千八百七十二年第九月廿八日　兵庫新聞　抜譯

數日前日本蒸氣舩ペルリン号内海通行ノ時岩石ニ打千上ケ船底ニ長サ八尺幅四寸計リノ穴ヲ開ケシガ此時朝第八字頃ナリ四分字間忽チ水ヲ以テ舩中ニ満チ幸ヒニ近所ニ洲アルニ因リ蒸気舩ハ陸ニ着シ乗客尽ク無難ニ上陸セリ荷物ハ多少破損セシト雖モ若シ此時近所ニ洲ナキトキハ百廿人ノ生命ヲ失フハ必然ナ

物價日表

堂嶋濱

摂津　二日　二糸九十五セン　酒　拾駄

肥後　二日　三糸四十五セン　塩　百俵

筑前　二日　同四十セン　茶　百斤

水油　二日　廿二糸卅セン

丁鷄　二日　廿糸卅セン　鴈　百斤

開商社商品時價

黒砂糖　三嶋　四糸　廿五糸ニ　五糸ニ付七銭

綿　白壱両　攝上下　百目廿五糸ニ　百目廿糸ニ付七銭

木綿　百反　攝　四十二糸ニ付二十二糸

絹布　百斤　二十糸

生糸　百斤　三ツ石　八百五十糸　長尺弁百斤　京都三糸廿銭ヨリ

寒天　角千本　四糸ヨリ　八糸七十五銭迄

伏テ糞フ四方同好ノ君子何事ニ本局及ヒ撰集所ヨリ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハンコヲ但シ投書ニハ必ラス住所姓名ヲ載セ玉フベシ無根ノ説ヲ恐ル故ナリ

○望ニヨツテ出版ハ件　諸品売買ハ勿論　集會等ノ事　其他世間ニ拡ル事件総テ報道ス

出版一行ニ三字ニ付　定價五銭　東京ニテ引請ル所　攝河泉

本局　本平通四丁目　書籍會社

撰集所　長堀橋筋二丁目　貴湖堂島

取次　三府及諸國

リ○我等聞ク此時船長ハ瞰リ且舵ヲ持スル人ハ船ノ
方向モ知ラザル由コレ迫日本人而已ニ蒸気船ヲ委任
シ此ノ如キ過失幾度ゾヤ是船破損ヲ修理シ大阪ヱ再
ヒ通行ノ場合ニ至ルハ必ラズ三日間ニテハ六ツカシカル
ベシ是レヨリ以前風ト二日本政府ヨリ日本蒸気船ノ
船長水主等ヱ厳令モ有ルベキ筈ナリ此ノ如キハ開化
国ノ恥辱ト謂フ可シ
○八月廿六日夕西大組第二十區幸町通三丁目道頓堀
川筋ヱ溺死人流レ来レリ頭髪刺落シタル四十計リノ男
面体ハ腐敗シテ不相分木綿藍嶋單物着シアルヨシ

○西大組第六區鞆下通一丁目高山慶藏父卯兵ヱナル
モノ八月廿五日暮過鞆中通一丁目新中橋筋北ヱ入ル
呼ニテ手拭ヲカムリタル男現シ出テ卯兵ヱガ脇持ノ挑
灯打落シ何カ声ヲ掛ケ又物ニテ横腹突ヨマリ卯兵ヱ
驚愕ノ侭逃帰リ早速医療相頼ミ其始末届出タル由盗
賊ノ呼為欲意趣遺恨ヲ受候心當リ更ニ無之趣卯兵ヱ
申居ルヨシ　投書
○文明開化ノ今日ニ尚御國恩ノ尊キヲ悟ラズ　朝令
ヲ遵奉セズ自分〳〵ノ宗門ヲ崇尚シ宗祖ノ年忌ヲ歎
祭シ或ハ何講中ナド稱シ其僧侶又ハ出宅帳等ヲ送迎

レ老若男女幟ヲ携(タヅサ)エ鉦(カネ)ヲ叩キ愚(グ)ニ踊リ痴(タハ)ニ舞ヒ業ヲ
休レ日ヲ曠フスルモノ多シ山陽頼先生ノ詩ニ

終歳妻児占(シム)飽温(ニ)ヲ　有(レ)時友侶共(ニ)杯(ヲ)擕(ル)

隣閭結(ブ)社(ヲ)知(ル)何意(ノ)　未(レ)報君恩報(ニ)仏恩(ヲ)

トアリ是ハ一向宗ノ報恩講ナドヲ謂フナルベシ缺ク味
テベシ凡ソ人此國ニ住ントナガラ政府ヲ他人ノ親ノ如
クニ心得佛法僧ヲ我實母ノ如クニ論(ツヅ)ヒ祭ルハ歎クベ
シ市在戸長ノ輩ヨリ懇(ネンゴロ)ニ説諭スベシ吁嗟(アヽ)其ヲ長モ鉦ヲ
叩テ六字ヲ称ヘ拆ヲ撃テ七字ヲ唱フル者哉

○東成郡第一區天王寺村堀口林藏才寅吉ナルモノ先
頃ヨリ病気ノ所八月廿四日ヨリ乱心体ニ相成同廿五日
家内ノ笛主ヲ伺(ウカヾ)ヒ自分帯ヲ以テ裏口板扉ニ縊首(クビクヽリ)ナシ
居タルヲ近隣ノモノ見付取下ケ介抱(カイホウ)致シ絶命ニハ不
及由

○邏卒両人夜中玉造安堂寺町辺ヲ巡邏セシニ大道ニ
火ノ玉ノ如キ物アリ両人見テ語リ合ヒ一棒ヲアテント
馳行テ是ヲ打ニ恰(アタカ)モ空ヲ打ガ如ク前(ヘン)ニ有カトスレバ忽然(コツゼン)
トシテ後(ウシロ)ニアリ心ヲ鎮メテ是ヲ見レバ民屋ノ破レ戸ノフシ
穴ヨリ火ノモレ出ルニテ有ケリ両人悶(アキ)レテ其穴ヲ窺(ノゾカ)エバ
花落チテ猶餘香アルニ三九計(バカ)リノ婦人白雪ノ肌(ハダ)ヲアラハ

ヒ燈ヲ取テ蚊ヲ焼ケリ両人思ハズ一笑スレバ婦人声ニ驚キ頻リニ賊有リト呼ブニ邏卒モ愕キ詮スベナク急ニ退キシトゾ

投書

○先般府下戸毎ニ大神宮御札守御渡シニ相成タリ夫々家内安全商賣繁栄ノタメ御世話被下シハ實以有難キ事ナリ右御守料トシテ戸々ヨリ多少ノ金子御取立ニ相成レリ是左モ有ルベキ事ナリ然ルニ右御守料家ニヨリテ直ノ高低アリ譬ヘバ甲ノ家ハ二朱乙ノ家ハ壱朱丁ノ家ハ二百文ノ如ク戸毎ニ不同アリ同シ御札守故代料ノ儀ハ家ノ大小或ハ商賣ノ繁不繁ニ係ラズ府下中一様ニテ然ルベク思ワレリ斯ノ不同ノ代料御取立相成シハ如何ノ故哉案更ニ解セズ希クバ諸君子ノ高評ヲ待ツ断々記スモノハ高橋通行ノ風来子

右余見聞ノ侭ヲ記ルセリ貴社ノ助カヲ以テ諸大人ノ高説ヲ聞カヒモハンコヲ

○千八百七十二年第九月二十一日大阪新聞抜譯

君留地ノ後路旧来荒蕪ノ地面ヲ此度地上ゲノタメト見エテ過キシ十四五日間人足数百人ヲ以テ川浚ノ土砂ヲ川岸ヨリ此地ニ運送シ甚タ勉強セリ我等願クハ君留地南部ヨリ此地ヲ通シテ「ホンテン」地名迄通路ヲ作リ

「ホンテンニコリ天保山辺殆ンド真直ノ通行ヲナサシメ度モノナリ勿論其ニ付キ玉汀子場近傍ノ家一二軒取拂相成トテモ諸人ノ望ムトコロナリ日本政府ニテ此後此地面ヲ日本人ノ家ヲ建ツルヲ許サズ追々居留地ヲ廣メ外国人ニ賦與有タキ事ナリ

○　答投書

漢字モ横文字ニ廃シ三十字許リ別ニ文字ヲ定メタキトノ説ヲ記載シタル無名ノ投書アレドモ其論言ヒ易クシテ行ヒ難ク無益ニ付記載不致候請フ国家ノ為確論アラバ今一層精密ニ記載シ顕名ニテ投書アラバ早速上梓イタスベク候

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ総テ世ニ益アル事ニテ自然勧善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ挙テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ見無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ関ハル事件ハ一切上梓致サス候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スヘシ統テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ関係致サズ候

社中敬白

隔日發兌

大阪新聞

第卅號

○布告

是迄河豚ノ毒ニ中リ非命ノ死ヲイタシ候モノ不少現在去ル十七日夕天満町筏篦屋塩見浅治郎宅ニテ河豚ヲ食シ五人一同其毒ニ中リ内二人即死候趣届出候右ハ平常摂生ノ道ヲ慎マス儕ノ食物ヨリ重大ノ生命ヲ失ヒ候伐全ク其身ノ過チニ由ルトイヘトモ暗昧ノ致ス所聡然ノ至ニ候就而ハ向後食用ハ勿論河豚賣買令ニ厳禁候事

右之趣管内無洩相達モノ也

壬申　八月

大阪府

物價表

米　堂嶋濱
摂津
肥後
筑前

休日

定商社
水油一石

開商社商品時價

酒　拾駄　銘　四十五両　地廻リ四十　両
塩　百俵　冊田十二条五歩　アコニ十条　大頭洋五十六枚　頭上四十八枚　三十九枚
茶　百斤　鰯　鯡メ箱　一条二十　歩　于鰯　鯡メ箱　同二十五歩　羽鯡　九十五　歩
晒鰯　百斤　地廻十六両二ア　登十五両二朱
黒砂糖　三鵜　百斤　四両二ア
綿　金壱両　阪上　未ダ　京丹　七百五十目
木綿　夏雲　州　四十二条　三十四条
純銅　百斤　廿六両一ア
生糸
昆布　百目　三石　百斤　列京極　八百条　三条五十歩
寒天　角　千本　四条ヨリ　六条

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所工寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ但シ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迄ニテ出板後ハ焼棄可申候　○望ニヨツテ出板スル件　△諸品賣買△新店開キ　△觀セモノ集會等引札　其他世間工披露事件総テ應其望出版一行廿三字二付定價五銭宛ニテ引請可申候

本局　本町四丁目　書籍會社
撰集所　長堀并池濱東　青湖堂
取次　大阪　所々
西京　村上勘兵衛
東京　日本橋川瀬石丁角　村上尚店

〇投書

今夫レ街上ノ謡歌尽ク淫風ノミ呼謂鄭衛ノ風ナリ或ハ之ヲ士タル者公然トシテ大声ニ唱過ク或ハ未ダ東西ヲ知ラザル無智ノ童児ニ歌ワシメ不正ヲシテ先入タラシム実以御國体ヲ汚(ケガ)シ児童ヲシテ不正猥風ニ導カシム去リトテ官ヨリ街歌マデノ取捨ハ成ラザルベシ其士タル者或ハ其親タル者ノ深ク平日此邊ニ重ネ注意スベキナリ且ツ童女等ノ絃歌ノ師タル者ニハ布告其歌辞ノ淫係ルノ類一切禁止及浄瑠璃本ノ類鄭衛ノ風ハ尽ク焼棄テ其根ヲ絶スヘシ

〇西成郡弐区九條村鍛冶職林周八ト云フモノ八月廿四日夜妻ナル者買物ニ至リシ留主ニ不圖(フト)家出致シ帰ラザルニ付打驚キ八方尋求メシニ尻無川土手下ニ溺死致シ居タル由此人先頃ヨリ痒症病ナル由全ク病乱ナリシ説

〇

嶋ノ内三津寺筋一丁目ニ金物商買田邊椎兵エト云フ壮健朴実ノ老人アリ毎日拂暁(アカツキ)ニ起キ出テ鉄槌ト火計(タヅサ)ノモノヲ携ヘ近辺ノ路上ヲ徘徊シ土地ノ高低ヲ平均シ小石ノ梭起(カドメ)スルヲ取除(トリノゾ)ク事凡一時間ナリ其後帰宅職業ヲ営ムヨシ奇特トイフベシ世ニハ塵芥ヲ道路ニ抛(ナゲ)棄(ステ)テ人ノ難儀ヲ不顧(カヘリビル)モノアリ老人ノ風ヲ見(ミ)テ恥(ハヂ)ザルベケンヤ

○千八百七十二年第九月十日兵庫新聞抜譯

當港市中ニ於テ盗賊ノ患全ク除(ノゾ)カレズ就中海岸邊ハ甚シキ由ナリ一昨夜或人ノ宅ニ賊アリ窓口ヨリ登リ入リテ時計一ツ「ブランケット」ニツ其他品物ヲ取リ出シ将ニ窓口ヨリ出去ラントセシ処ニ其音(ヒギ)ニテ家内ノ人目ヲ覚シケレトモ賊已ニ去リテ及ブ事ナシ唯今ニ至リ尚ホ彼賊ノ召捕エラレタルヲ聞カズ哈嗚日本ノ番卒ハ偶々(グウ〳〵)盗賊ノ竊(ヌス)ミタル品物ヲ其主ニ返セシ事アレドモ此ノ如キハ徒(イタヅ)ラニ番卒ヲ設ケタルノミニテ更ニ其益ナシト謂ベシ

左ニ本ル條中来今ノ紀已ノ追報

○八月十日中國筋航海ノ蒸気船讃州小豆嶋ノ沖ニテ圖(ハカ)ラズモ荒磯ニフレ船底ヲ破リ忽チ潮船中ニ込入リ数百人ノ乗合既(スデ)ニ溺(ヲボ)レ死セントセシトキ乗衆ノ中ニ大阪天満堀川綿問屋渋谷正十郎手代利助ト云ヘル者手早ク衣類ヲ脱(ヌギ)棄(ステ)正金千両余リ腹ニ巻付海中ヱ飛込游(オヨ)キ渡リテ一ツノ孤嶋ニ上リケルニ其嶋ハ唯一軒ノ人家ノミニテ無勢ナレドモ急キ小船ヲ漕(コギ)出サセ多クノ人ヲ乗スル内追々近辺ヨリ援(タスケ)船出テ悉ク乗合ヲ助ケ其嶋ヱ至リケル然ルニ多人数ニ與(アタ)フル食物モナケレバ右利助金子ヲ出(ダ)シ嶋人ニ頼ミ近辺ノ嶋ニテ求メ各ニ食サセケルニ

皆々九死ニ一生ヲ得シト悦ヒ利助ヲ再生ノ恩人ナリト謝シケルトゾ其中ニ大阪技藝者尾上多見蔵當春来九州エ至リ居シニ帰路四五人連ニテ此楽合ナリトソ右利助ヨク急難ノ場ニテ働キ遁レナリト人々稱譽セリ

〇投書

貴社新聞紙第廿九号ニ凡来子ト記シ皇大神宮大麻代料御取立ノ不同ヲ難シ諸君子ノ高評ヲ待ツ云々ノ投書ヲ記載セラルヽヲ見ル此投書何等ノ主意ニテ難シ々ルヤ此ニ生々意気生々物知リト云フハ此投書シタルモノヽ如キヲ云フナル可シ既ニ大阪府第二百四十四号ノ布令ニ伊勢皇大神宮大麻海内一般ノ人民エ拝受致サスベキトノ御主意ニ付テ令般頒布ニ及ヒ候処右ハ別段奉賽ノ御達ハ無之候得共銘々空敷拝受イタシ候モ如何シキ義ニ付大概五銭ヲ上等ノ目途トシ以下各志次第献納可致尤窮民ハ其儀ニ不及云々アリ此布令ヲ以モ大麻ハ代料ニテ買ヒ求ムル譯ニテナク志次第献納スル御初穂タル事明瞭タリサスレバ多少不同ハ勿論人々ノ志ニ任セラルヽモノナレバ尤モ左モアルベシ如此顕然明瞭タル理ヲ了解セスシテ妄ニ之ヲ難スルハ畢竟愚昧ノ然ラシムル処ニテ慥然至極ニ付諸人ニ代リ新聞紙ニ出シテ投書人ニ説キ開カスルモノナリ

右投書ノ終記載ス

巻投書

外國人部屋付ト唱フルモノ往々奸物計リノ由兼テ風聞兼知致セシ処兵庫縣下松尾屋炎之助或人ヲ欺キ云々ト記載シタル投書アレドモ事實分明ナラズ候ニ付其侭焼捨申候請フ世人ノ為廣告アリタクバ判然明瞭タル證ヲ挙ゲ再ヒ投書アラバ速ニ記載イタスベシ

運上所輸入

十九日

〇牛皮卅五捆六千七百斤 二

〇紅土九百斤 廿二斤 〇空炮十挺 百九十二斤 〇アツレト酒石製八箱千六百八斤 〇タラシテールバルサン一箱 百トセン其余小マモノ品々 二百五十斤

廿二日 輸出

〇切昆布二万四千五百斤 。六

〇鉛 三万六百十九斤 。九

〇小形スリ器 二百五十 十斤

兌港御手傳金

一金壱万圓 鰹谷東ノ丁 畳屋町 住友吉左エ門 一金百五十圓 瀬戸清次郎

一同 百五十圓 新町五丁目 今井勢兵衛 一同百 圓 サツマ稻裏町 間宮小兵衛

兌店御披露

一新製英語煎餅

右ハ画と横文字を両面ニ寫シ傍訓を加へ単語を習ふの一助ニもなん彼一字を誌記すれバ一枚を食む児童教育の風味をも四方開化の諸君子ニ御高評を願ひ奉る

壮濱二丁目 松本

今橋三丁目 箸尾敬白

精製所

物價日表

米 堂嶋濱
摂津
肥後
筑前
休日

開商社	商品時價		
酒	拾駄	銘 四十五両 地廻り四十両	
塩	百俵	兵田十二条五十銭 アコ二十条	
茶	百斤	大頭 五十六枚 上 四十八枚 三十九枚	
干鰯	鰯〆粕 一条二十銭 鯡〆粕 同 二十五銭 鯡羽 九十五銭		
晒鰯	百斤	地廻 十六両二分 登 十五両一条	
黒砂糖	三嶋 百斤	四両二分	
綿	金壱両	阪上 未ダ 京丹 七百五十目	
木綿	百反 雲州	四十二条 三十四条	
純銅	百斤	北両一分	
生糸			
昆布	百目 三ツ石 百斤 則京極	八百条 三条五十銭	
寒天	角 千本	四条ヨリ 六条	

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集呼工寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ但シ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迄ニテ出板後ハ煩累可申候 ○堂ニヨツテ出板スル件々ハ諸品賣買ハ新店開キ ○觀セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件総テ應其望出版一行廿三字二付定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 本平四丁目 書籍會社
撰集所 長濱井池濵東 青湖堂
取次 大阪 所々
西京 村上勘兵衛
東京 日本橋川瀬石丁角 村上治右衛門店

大阪新聞 第壹號

明治五年壬申年九月十四日 西洋千八百七十二年

本日ハ寒暖計六十度

隔日發兌

布令

熊而被仰出モ有之候処間々乱酔放歌市街ヲ横行動モスレハ抜刀獣畜ヲ斬殺スルホ狂悖ノ呼業有之ヨシ以ノ外ノ事ニ候向後厳重取締申付候間心得違無之様可致事

右之趣為心得管内無洩相達モノ也

壬申八月

大阪府

○従備前報告

賊新助八備中元新見藩卒藤本宇平ト云者ノ子也或ハ偽テ美濃大垣ト云処々ニテ脱獄シタル有名ノ曲者也曽テ故倉敷縣ノ徒場ヲ脱シ昨年大阪府ニ捕ハレタリシヲ當申

四月倉敷縣ヨリ捕亡ヲ遣ハシ他ノ賊ト共ニ之ヲ受取船中ニ警固シテ備前牛窓ノ沖間ニ至リシ時夜中風浪ノ騒キニ紛レ桎梏ヲ脫シ竊ニ船中ノ砲刀ヲ奪ヒ左手ニ六連砲ヲ持右手ニ刀ヲ抜キ捕亡石川英太郎折フシ巢板ヲハグリ荷物ヲ捜シ居タリシヲ急ニ飛カヽリ撃タントスル幸ニシテ砲ハ不発カヲ以テ右ノ腕四五寸許切ツケ其怯海中ニ没シ遁カ向フニテ頭ヲ出シ二十余丁ノ海上游ムカ如クニ去ンリ其後蹤跡ヲ知ラザリシカ去ル七月下旬故倉敷縣官員西村某讃州多度津ニ旅宿シ街上游歩ノ次彼ノ賊ヲ茶店ニ見當リシカハ早速同所邏卒ノ也所ニ報告シ賊ハ既ニ海辺ヨリ納涼ニ出タリシヲ偶強ノ卒六人ニテ急ニ打倒シ之ヲ縛セリ此時モ六連砲一挺短刀一口ヲ持タリ賊モ久我此頃便毒ヲ病テスンバ爭カ縛セラレント今香川縣ノ獄ニアルベシ○西村生人ニ語テ云吾廃官ノ身ニテイラザル罪作リト咲フ者アルベシサレドモカヽル巨賊ヲ見遁シテ害ヲ衆人ニ遺スニ忍ヒストゾ西村倉敷ニ在ルノ日正直分潔ヲ以テ称セラレタリト云

○或人上寺町ノ禅寺ヲ墓参セシニ寺内ニ廿七八ノ女赤子ヲ養育シ居タル故寺僕ニ尋子シニ和尚ノ妾ト答フ僧侶ヲ妻帯差許サレシハ稍ク二三ケ月前ナルニ早

速繼(ツイ)嗣ノ実行ヲ揚ルハ奇ナリ此和尚開化ノ形勢ヲ前知スル智識トモイウベシ去ナガラ何ノ顔面(カンバセ)ヲ以従前守律ノ清僧ニ對スルヤ

〇

千八百七十二年第九月二十九日大阪新聞抜譯

大阪ニテ川中ニ死体アリ見ルハ甚少ナレドモ過キシ日曜日木津川ニテ死体アリ二人共足ヲ怒(ヌ)子一人ハ男ノ体ト見エタルガ是レ情死セシモノカ又一ツハ小児ノ體ヲ竹ニ縛シ流レタリ実ニ残刻ノ仕習可恐

〇

去十五日井池筋南ノ方ヨリ商家ノ店(デッチ)ト覚シキ者二人乗馬ニテ道修町西ヨリ入借馬店ヨリ帰ラントスルニ其辻ニ一人有テ其来ル馬ヲ避(サケ)シニ騎人(ノリテ)其避シ人ノ方ニ向ヒ無刹ニ通リシカバ誤テ右脚ヲ馬蹄ニテ傷(キズ)ケリ故ニ其人早々借馬店ヨリ行キシニ其馬主ナル者言ニハ私方ヨリ唯今御謝(アヤマ)ニ罷出ントセシナリト云テ薬価ヲ出シ是ナリト御付可被下トテ色々詫セシ故其人モ其侭事済セシナリ乗馬ハ已ニ差詐サレタレバ騎ルハヨシト雖モ未熟ニシテ謾(コヒ)ニ徃来スルヨリ這(コノ)疎忽ヲ生セリ生(ナマ)テ兵法ハ怪(アヤ)我(ガ)ノモトナレバ人々自ラ可慎コトナリ

投書

〇兵庫楠社近傍ノ新街ノ名ニ**楠通**リト称スルハ其姓ニ據レル義ニテ可ナレド多門通ト称スルハ公ノ幼名多門丸ニ據レルナルベシ然レドモ多門ハ多聞天ノ事即毘沙門ノ義是佛家天部ノ説ナリ一新以来神仏混交名義改正ノ際ニハ不相應ノ名称哉ト彼地徘徊彷徨シテ思ヒ出ルマヽニ記ス

廣告

令般　官許ヲ得諸国産紙入札呼ヲ取寄キ候ハ従来ノ弊風ヲ改メ至直至正ノ商法ヲ以テ諸州産紙入船ノ節直撰三府下及ビ諸縣下ヱ迅速ニ通達致シ荷數ノ多寡ヲ不拘紙商家數人招キ集メ入札致シ可申旦諸掛リ物ホハ従前ノ仕来リヲ更ニ洗シ聊カ手數料申請荷主方船方ノ糸利ヲ専一トシテ唯々産紙商法盛大ヲ旨トスルノ冥業所ニ御座候間四方産紙販扱ノ衆多少ニ不限荷物御差向ケ可被下且入札仕方ノ儀ハ更ニ新案ヲ以従来ノ仕法ヲ轉ジ左ノ通相立候

入札仕法左ノ通

一入札ノ仕方ハ紙商人數銘南組北組ト相定置扱當日ノ賣紙ヲ成ルタケ少數ニ割リ譬ヱバ二百九在ルノ時ハコレヲ拾ヲニ分ケテ一口二拾九ト相定メ番号ヲ附ケ一番ヨリ拾番迄ニ致シ置キ一口宛入札イタシ落札ヲ定ム

但シ売札ノ上ニ高札ハ何某トノミ座中ニ鳴声シ其直
段ハ外入札人ニハ知ラサス如是ニ番三番ト順々入札
売捌ノ上ニ何番ハ売捌何番ハ売止ホノ駆引ハ荷
主勝手タルベキ事

右ノ通仕法ヲ定メ猶金子取引為替金利安ニテ用辨等其
外諸規則書ハ入札呼ニテ御一覧被下候テ各々商事有益
ノ會得ヲ希上候

諸國産紙賣捌所 北濱五丁目

頭取城 多三郎

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勸善懲悪ノ
旨趣ニ適フモノハ擧テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或
ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ見無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ
關ハル事件ハ一切上梓致サヽル入候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ
記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明
ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スヘシ統テ投書ニ付一議論
相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

社中敬白

物價表

米	堂嶋濱	開商社	黒砂糖	鷄	四両二ア
摂津	土日二糸九十七セン	酒拾駄	銘 四十五両	阪ヒ	未ダ
肥後	同 三糸四十八セン	塩 百俵	地廻り四十 両	京舟	七日五日
筑前	同同 四十三セン	茶 百斤	赤田十三糸五十七	綿 金壱両	二糸
水油	同 一糸九十七セン	鰯	入頭五十六枚	京舟	七日五日
西	同	鯡	頭四十八枚	木綿	夏雲
鯣	百斤	鯡〆粕	三十九枚	州	四十二糸
地廻	十六両二ア	同 一糸二十七	純銅 百斤		二十四糸
壱	十五両二糸	羽鯡 九十五	生糸	北両一ア	
		昆布 百斤	八百糸		
		名目三ツ名	三糸五十七		
		刈京極			
		寒天 角 千本	四糸ヨリ六糸		

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ニ寄セ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ但シ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迚ニテ出板後ハ焼棄可申候 ○堂ニヨツテ出板スル件々ハ諸品賣買ノ新店開キ出版一行サ三字ニ付定價五銭宛ニテ引請可申候 ○觀セモノ集會等引札 其他世間ニ披露車件総テ應其筆

本局 本町四丁目 書籍會社
撰集所 長堀川池濱東 青湖堂
取次 大阪 呼々 村上勘兵衛
東京 日本橋川瀬石丁角 村上出店

隔日發兌

大阪新聞 第卅二號

明治五年壬申九月廿五日 西洋千八百七十二年第九月四日 兵庫新聞抜譯

本日晴 寒暖計六十度

○千八百七十二年第九月四日兵庫新聞抜譯

夫レ苟シクモ英國ノ裁判人トシテ撰挙ニ逢ヒ政聽ニ立ツ者已レガ情愛ニ溺レ公平ヲ以テ決断セザルハ英國人ノ是上モナキ不運ニシテ當今ノ世ニ於テ有ル間敷事ナリ然レ共人間ノ情常ニ同シカラス英國ノ威権日ヲ逐テ地球上ニ行ワタリ時トシテ英國之名誉ヲ汚スヲ厭ワス摸様ニヨリ彼ノ賤劣ノ官吏ヲ誤テ撰挙シ終ニ國辱ヲ招ク事無キアタハズ人生並ビ住ム間如此ノ

失措ホド憫然タルモノナレ人民各已ノ生活ヲ支ベキ國法ヲ尊奉シ及ヒ政府ヲ保護スル情態ノ生ズル所以ハ他ニアラズ唯謹慎ニシテ偏愛ナキ故ニ依レル而已故ニ公明正大ノ政ナキ時ハ自然ニ尊恭モ衰ヘテ其ノ不正ノ官吏ニ對シ民下ノ怨望少ナカラズ是ノ説ハ既ニ先覽ノ書中ニモ見ヘ一般國民ヲ御スルニ是ニ注意セザルヘカラス而シテ假令其ノ處置ニ依リ已レ一人患ヲ逃レ得ル者ト雖トモ平常安穩幸福ヲ得ル基礎ノ破壊スルニ當テハ共ニ心力ヲ盡シ救ハザルベカラズ○

後文英国領事官ノ裁判ヲ論スル事件次号ニ出ス

○

神戸港ハ日用物價并家賃等ノ貴キ事遥ニ東京横濱ノ上ニ在リテ當時日本國中第一等ナリ故ニ貿易寂寥トナレハ漸々閉店空家多シ唯山海ノ美景ト空氣ノ暢清ニシテ人身ニ適スルハ両京阪横濱箱館諸港ヨリ良キト雖トモ外國人モ之ヲ賞賛セリトゾ

○投書

去ル廿一日江戸堀犬齋橋ノ下ニ死セル赤兒ヲ檢スルニ是前夜ノ所作ナルベシ裸體ニメ所謂ル戒名ナルモノヲ付置キ流レヌヤフニシテ有リシガ折節遲卒是ヲ見テ捨査スルニ全ク墮胎セシモノ、由茲ノ文明

開閙(カイトウ)ノ世ニ是ノ如キ不明ノ事ヲ成ス豈歎(ナゲ)セサルヘケンヤ近頃聞箱舘ニハ育児會社ノ美挙(ビキョ)アル由希クハ當府下モ是ノ如ノ挙アリタキ者也

○従吉備州報告

備中下道郡岡田近邊南ノ方ニアタリテ弥高山ト言フ山アリ元岡田藩ノ士此山ヲ開拓シテ帰農(キノウ)セント相謀リシニ肥(コヤシ)ニ乏(トボ)シキヲ煩(ワヅラ)イシガ一人策ヲ出シテ曰此山ニ新ニ四國八十八ケ所ノ札所ヲ移シ参詣人ノ尿(バリ)屎(クソ)ヲ取テ肥ニ充(アテ)タランニハ如何ト因テ此山ニ札所ヲ造営セシカ不日ニ参詣ノ人織(オル)カ如クニ群集ヲナシケルユヘ所々ニ茶店或ハ宿屋ナトヲ設ケ今ハ一小村落ヲナシ肥ハ勿論日用ノ雑物何一ツモ不自由ナク剰(アマ)サヘ遠近ノ別品ナトヲ坐右ニ引付寂莫ノ地ヲ繁栄トナシ嶮峭ノ山ヲ良田トナシタル由真ノ山師ト言フハ此山ヲ開キシ人ヲイフナルベシ

○投書

天満祭ノ夜難波ノ人某浪花橋ヲ渡ル時旅客ト見ヘタル四十餘齢ノ男衣服等頗ル上等ノ形容(カタチ)ヲナシ銀鎖(クサリ)附ノ提物ヲ腰ニ附ケ徃来雑沓(ザットウ)ニ苦脳(クノウ)シ先行スルアリ然ルニ半ニシテ其提物ヲ落シ顧(カヘリミ)テ是ヲ知ルト雖トモ

敢テ拾ヒ取ル氣色モナク急キ橋ノ北詰ニ去レリ難波ノ人某其体ヲ見テ落主ニ告ケ知ラスト雖モ終ニ群集ニ隔テラレ其人ヲ見失ヒタリ其儘橋北ニ進ムニ再ヒ落主ニ遇フ依テ其故ヲ問フニ落主答曰其提物ハ長崎ニ於テ卅五圓ニテ買ヒ求メタル愛玩ノ品ナリ然レ共橋上大ニ雜沓群行レ自然橋崩レ水中ニ溺没スルヲ恐レ拾ヒ取ルニ遑アラス急キ橋ヲ過キタリ吾命ハ卅五圓ノ寶ニカヘガタシ今幸ニシテ無異ニ逃渡ルコトヲ得タルハ落物ヲ拾ヒ得タル人ヨリ高運ナリトスヒレ由右ノ人ハ大量トスガ小量トスガ新聞紙看官ニ評ヲ乞

○

千八百七十二年第九月二十九日外国人出抜大阪新聞抜譯

當地外國人新規ノ墓所アルヒノニッ有リ一ハ外國人ノ馬ヲ葬リシモノナル由其側ラニ「ノーブル」氏ノ墓アリ其他ニ「キリスト」宗ノ人ノ墓アルヲ聞カスノーブル氏ノ墓所ニハ唯粗鹵ナル碑アリ原キ木板ヲ黒ク塗リ白字ニテ

ゼームス、ノーブル氏千八百七十二年第八月十八日卒　トアリ我等ヲ以テ此ヲ見ルニ相當ノ石ヲ建テ之ニ不幸ノ失金ノ為ヒシ小録ヲ刻シタキモノ也其ノ入費ハ我等ニテモ出金スルトモ敢テ厭ハザルニ恐クハ他人此墓所ヲ見ルモ

ノ心ヲ驚駭ニ堪ヘス嗚呼悶然ト謂フヘシ

布告

サゼント氏原著

英學捷解　一名リードル獨學

此書ハ米刺堅（アメリカ）サゼント氏著フイルストリードルノ和解ニシテ彼國ノ生徒ヲ教導スル最精密信切ノ文ナル事ハ普ク諸貴君ノ識リ給フ所ニシテ英文字ノ上ニハ彼音ヲ附シ字下ニハ我日本ノ譯ヲ掲（カカ）ヘ又ノ綜反ニ至テハ又ト又トノ間ニ一二ヲ以反リヲ附テ獨リートルヲ学（マナ）ノ便トナリ其便（ベン）用成事ハ閧（ヒラ）シテ識給ヘ且原書ノマヽ銅版ニ彫刻シタレハ頗細密也洋学有志ノ諸君座右不可欠有益ノ書也

發行　心斎橋唐物町　森本太助

廣告

投書ハ奇車新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勸善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ擧テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ且無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ關ハル事件ハ一切上梓致サヽル候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スヘシ統テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

社中敬白

物價表

米 堂嶋濱 摂津 十五番 二条九十七

酒 拾駄 銘 四十五両 地廻 四十 両 肥後 同日 三番五十七 塩 百俵 兵田十三番五十七 アコ二十番 入頭 五十六枚 四十八枚 三十九枚 筑前 同日 同四十五七 茶 百斤 宇治 鰯 一番二十七 同 二十五七 鰯〆粕 同 九十五 七 羽鯡 水油不 同 廿三番廿五七 鯨 百斤 地廻 十六両二ア 登 十五両二朱

黒砂糖 三嶋 百斤 四両二ア 綿 金壱両 改上 未ダ 京丹 七百五十目 木綿 雲州 百反 四十二番 二十四番 純銅 百斤 北両一ア 生糸 昆布 百右目 三ツ石 八百番 同 百斤 四京極 三番五十七 寒天 角 千本 四番ヨリ 六番

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所エ寄ヒ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ偏ニ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迄ニテ出板後ハ焼棄可申候 ○望ニヨツテ出板スル件ハ諸品賣買ハ新店開キ ハ觀セモノ集會等引札 其他世間エ披露事件總テ應其望出版一行廿三字二付定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 本号四丁目 書籍會社 撰集所 長堀井池濱東 青湖堂 取次 大阪 呼々 京 村上勘兵衛 東京 日本橋川瀬石丁角 村上治右衛門店

明治五年 西洋千八百七十二年 壬申 九月 廿六日
本日ハレ 寒暖計 六十度

隔日發兌

大阪新聞 第卅三號

○ 兵庫新軍板譯英領事裁判一件前号出版ノ後文此ニ過キシ月曜日英國領事官之裁決セシ事アリ其一条ハ數年来英國政廳ニテ給料ヲ貪ボリタル裁判人ノ議決中最モ驚駭ニ堪タルモノト謂フベシ「エー、チー、コーズン」氏ハ過日暫時大坂ニ滞留シ其人温和禮譲ノ性質ニテ彼ノ地ニテ諸人ト交ヲ結ビ此度横濱ニ趣カン為メ米國飛脚船ニユーヨルク」ニ乗ラント欲シ當地ニ来レリ彼ノ船ハ明日午後第五字ニ出港スルト聞キ既

ニ旅装ヲ調理シ朋友ト同伴シ日本船ニテ蒸氣船ニ趣カントス其時暴風ニテ波濤荒ラク通船モ直ニ進ム事ヲ得ズ是ニ依リ船人（何レモ日本人ハ船ヲ行ルニ甚タ困難ニシテ蒸氣船ニ近ヅク事克ワズ既ニ三四間ニシテ達センストスル処ロ他ノ衆込人ノ有ル猟船ト見ヘシモノ後ヨリ来テ「コーズン」氏ノ船ヲ捕ヘシユヘ「コーズン」氏自己ノ船甚タ危キヲ見テ他ノ船ヲ離サントス欲スレ共船人固ク持セシニヨリ「コーズン」氏一尺八寸四方ノ窓ヲ以テ彼ノ船人ヲ打事再タビ漸ク彼ノ船人ハ手ヲ離ナシ「コーズン」氏速ニ蒸氣船ニ乗替ヘントスル時彼ノ猟船ヨリ大聲ニテ呼ンデ汝ヂガ打チシ船人ハ何人ノ召使ナルヤ知レル乎ト云ヘドモ傍ラノ人「コーズン」氏ニ彼ノ船ハ英國領事官ノ所持ナリト告ケリ扨其ノ領事ノ船速ニ海岸ニ漕キ戻シタリシガ其ヨリ出港セントス欲スル蒸氣船ハ差留メラレ「コーズン」氏ハ召捕ラレ明朝第十字「コーズン」氏及ビ其朋友共英國領事役所ヘ吟味ノ為メ出頭スヘシトノ命令ナリ勿論其翌日ニ到リ出頭セシガ其形状ノ醜態実ニ英国ノ武器ヲ堂々ト具ヘタル廳堂ヲ汚ガス斗リナリ最早裁判ヲ始ムレハ各前日有タル事ヲ具サニ陳述セルニ更ニ誣言ヲ吐クモ

ノナシ此時領事官タルガ「ワル」氏裁判ヲ為シテ去ク
是ノ事件ハ日本ノ船人ヲ攻撃セシ者トシテ論スベシ
トテ断然ト月曜日ノ朝「コーズン」氏ヲ四十八字間ノ入
牢ヲ命ゼシ処ヘ其時出頭シタル人此ノ裁判ノ厳刻ニ
過キルニ因リ其坐ニテ大聲ヲ以テ不平ヲ鳴ラシ罵レ
リ「ガワル」氏直チニ廳堂ノ戸ヲ閉シメ出頭シタル人
ノ名ヲ記サシメ已レノ過チヲ藏サン為ヤ出シ
テ以後罵言ヲ出セシ人ハ公事訴訟ノ外再此館内
江入ルベカズト命セリトゾ

答投書

八軒家邊ノ旅亭ニ奉公スル年齢三十七八歳計ノ男
他人ノ難儀ヲ見テハ我身ニ引請何事ニ不限一度頼マ
ルヽ時ハ是非其意ヲ遂シ遣ハス去々ヲ記載セシ投書
アレトモ事蹟不分明ニ付記載致サズ候猶其行跡ト姓
名ヲ詳カニ記シ投書アラバ早速上梓スベシ

○

松島ノ天神社前ニテ火消夫戲レ階子ニ上リ佛即西
人ノ輕業ノ真似ヲシケルニソノ業甚ダ巧ミニシテ見
物人モ感賞セリ中ニ一書生アリテ評シテ曰西洋諸
器械製造物品等ヲ見テ如此真似スルヲ得ハ一身ノ

利圖リ知ルベカラス階子昇リノ如キハ一度誤ッテ墮ルトキハ忽チ身ヲ害フヘシ諺ニ云獵師毒蛇ニ足ヲ噬レ其毒ヲ除カン為カヲ脫テ肉ヲ割キ出血スルヲ猿見テ奇異ナリト思ヒ獵師ノ隙ヲ窺ヒ刀ヲ盜ンテ我足ニ傷ケ身ヲ害フタルノ類カ真似モ真似ニ依ッテ利害アリ階子昇リノ真似ノ如キハ所謂猿業ナルベシト云

〇

飲ミ水ノ悪シキハ人ノ健康ヲ害スル事不安ニヨリ此頃府廳ニテ大坂中ノ水ヲ集メ川水ハ勿論呑料ニナル程ノ井水等皆々取寄アリ造幣寮ヨリ分析家ヲ雇フレ區長戶長ヲモ呼出サレ衆人ノ眼前ニテ試驗アルニ何レモ色々ノ悪氣ヲ含メリ其内昔ヨリ名水ト言傳ヘシ花ノ井産湯黄金等ノ水并ニ天王寺邊ノ水ハ宜シキト言フ川水モ處ニヨリ宜シキ由ナレ共中ハ宜シカラズ兩後ニ暫時宜シケレ共數日兩降ラ子バ又悪クナリ且不潔ノモノ混流シ人ノ大小便ノ雜ジル計リモ恐ロシキ事ナレハ近々天王寺又ハ守口櫻ノ宮邊ヨリ市中ノ飲水ヲ引クト言フ御詮儀アルヨシ此事速ニ成就セバ一時ノ入費ハ莫大ナル共幾万人ノ健康ヲ護ル美支ナレハ早々御取掛リニナリタキモノナリ

○攝州西成郡第五區大和田村傳次郎妻八月七日一産ニ女子三人ヲ誕生セルニ付阪府知事殿ヨリ其養育方難澁ニモ有ルヘシト救助トシテ米三俵被下タル由叙々冥加ナル事ナラスヤサレハ子孫アリテコソ我家ノ繁栄モアルヘキニ世ニ墮胎棄兒ノ悪風アリテ我ナカラ我仍(ナホ)腹ヲ断ツハ悪ムヘキ鬼心ナラスヤ彼恩恵ヲ受ケシ母子ニ比スレハ雲泥ト云モ猶オロカナリ

日曜日　九月　四日　十一日　十八日　二十五日
　　十月　三日　十日　十七日　二十四日

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勸善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ擧テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ且無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ關ハル事件ハ一切上梓致サヽル候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明ニ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スヘシ統テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

杜中敬白

物價表

物	價	日			
米	堂嶋濱	開商社	酒	拾駄	銘 四十五両 地廻り四十両
	摂津 十六日 二条九十四歩			肥後 同日 三条五十壱歩	
	肥後 同日 三条五十壱歩		塩	百俵	飛田十二条九歩 アコ二十条
	筑前 同日 同四十七壱				大頭五十六枚 小頭四十八枚 三十九枚
茶	百斤	元商社	鰯	干鰯	一条二十歩
水油	石 同日 三十三条六十五歩			鰯〆粕	同 一十五歩
				鰯〆粕	九十五歩
晒鯣	百斤	地廻り十六両二歩			
	登	十五両二朱			

黒砂糖	百斤	嶋	四両二歩		
綿	金壱両	阪上	未ダ		
		京丹	七百五十目		
木綿	百反	雲州	四十二条		
			二十四条		
純銅	百斤		九両一歩		
生糸					
昆布	百斤	八百条			
	三ツ石	三条五十歩			
	百斤				
	四条掠				
寒天	角	四条ヨリ			
	千本	六条			

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所エ寄ヒ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ但シ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迫ニテ出板後ハ焼棄可申候　○望ニヨツテ出板スル件　△諸品賣買△新店開キ　△觀セモノ集會等引札　其他世間エ披露事件総テ應其望出版一行廿三字ニ付定價五銭宛ニテ引請可申候

本局	本町二丁目	書籍會社	
撰集所	長堀并池濱東	青湖堂	
取次	大阪	村上勘兵衛	心々
	京都	村上出店	吳橋川瀬石丁角
	東京		日本橋通一丁目

明治五壬申年　大阪新聞第三十四號

明治五年　壬申　九月十九日　本日ハレ　寒暖計七十三度

隔日發兌

大阪新聞

第三十四號

○布令

人々有用ノ職業ニ就キ自由ノ権ヲ以テ世ヲ渡ル八日新ノ今日緊要ノ事ニ候処従來男藝者ト唱ヘ遊廓其他料理屋ホニ於テ酔人治郎ノ為ニ髪ヲ拂テ媚ヲ進メ恬然自ラ甘シ一生ヲ過ルモノアリ可レ愧ノ至有間鋪事ニ候向後一切令二禁止一候条其業躰ノモノハ速ニ他業ニ相轉シ銘々其カニ食シ今日之風化ニ不背様可二心掛一候事

右之趣市中無洩相達ルモノ也

壬申八月

大阪府

○備中高梁ニ寄留セル高村禾守ハ元ヨリノ知己ナリ
近頃皇學ヲ唱ヘテ業トスル由今度亀山穗外上阪シ
余ヲ訪フテ談話頗意ナケレハ舊情止ミカタク或日
同伴シテ近邊ヲ遊歩スソガ中ニ生玉ノ宮ニ詣ルニ社
地昔日ニ替リ坊舍悉ク取拂ヒニ相成リ將タ官幣大
社ノ建札ヲ見テ禾守頻リニ大悦シ此神ハ生國國魂ノ
神社申モテロカナリシガ久シク佛家ニ繫サレ玉ヒシ
ニ時アリテ斯一洗シ神慮ヲ涼シメ奉ルハイカニモ愉
快ノ至リ也シカルニ北面ノ石階ヲ真言阪ト舊名ノ存
スルハ未タ臭氣ノ殘ル心地スレハ眞言ノ字ヲ
ハブキ真阪ト訓ニ改メタランニハ弥清ラカナラントト
此一ト言ヲ実ニモトト思フ依直チニ書記シ貴社ニ投ス

○

鴫池其他富家ノ妻娘共當春ヨリ按摩所ニテ紡織ノ修
業ナセシニ追々練熟シ其紡ミ糸ハ最前　御巡幸ノ節
恐多モ　天覧ニ入リシヨリ弥奮発昨今ニ至リテハ一
同次第ニ熟達シ鴫池娘手織ノ木綿縞一反ヲ知事公ニ
献セシ処如事公ヨリ世界國尽一部ヲ給リシ由実ニ是
迄飽食暖衣ノ遊樂ヲ極メシモノモトノ勧誘ニ随ヒ時
勢ヲ悟リ身ノ錦繍ヲ去リ手ニ棉花ヲ摘ムノ奇特ノ

至リトモフベシ然ルニ間〻旧習ニ泥ミ漫ニ晨夕ノ烟
ヲ立兼ル小前ノモノ共子供ヲバ歌舞遊戯ニ生長セ
シム憐ムベキコトニアラズヤ

○画ニ書タ桃帋紙ヲヤメニシテ生ヲ見タガル馬鹿ナ役人
右ノ狂歌去ル六月五日當地新町廓内越後町會議所
前ノ布告掲示場ニ張出シタルハ娼妓癈毒検査ヲ謗レル
ナラン畢竟人民保護ノ主意ヲ辨ヘヌ頑民ノ習コソ浅マシ
ケレト京都新聞紙第卅八号ニ記載セリ思フニ是ハ先
頃春画并ニ淫行ノ偶像画像類ヲ鬻キヌハ猥ブベカラ
ズトノ布令アリシヲ謗レル意ナラン嗚呼此張紙スルモ
ノハ愚カ癡カ将タ狂乱カ官此制止アルハ風俗ヲ宜シ
キニ誘導セラルヽノ主意ナルハ婦女子モ解知スベシ
然ルヲ却テ是ヲ利ロラシク誹謗シ我思昧ナルニノ新聞紙
ニ挙ケラレ世ニ恥ヲ流ス誠ニ笑フニ堪エタリ此投書
ヲ見テ郵ニテモ幸ニ廉恥心ヲ起サハ早ク高麗橋上
ノ燈柱ニ依リ特鼻褌ヲ以縊死スベシ

右投書ノ仍記載ス

○北大組第弐區川崎町苫商横山徳兵衛方へ九月
朔日夜半頃下家ヨリ燬尾燭ヲ燃シ廿六七才位トモ思
敷男面体ヲ包ミ紺縞ノ衣類ヲ着シ抜刀ニテ上リ

来リ引續同年輩ノ男花色ノ衣服ヲ著シ同ジク抜刀致シ一同坐敷江打上リ徳兵衛ニ向ヒ金子可差出旨ヲ申聞ストイヘドモ金子ハ無之トテ銅貨皮ヽ差出ト雖モ不聞入衣類差出候様申聞ケ箪笥ヨリ衣類取出シ數十品持去リタリトブ

○投書

新聞紙ノ功タルヤ人民ヲシテ開化ニ趣カセ新聞許諾ヲアラワシ勧善懲悪ヲシメシ深ク室中ニ居シテ廣ク海内外ノ事件ヲ知ルニハ実ニ新聞紙ニシクヘカラス然ルトイヘドモ當府下ニテ未ダ新聞紙ヲ見ル者少ク且數日是ヲ求ルニハ歩價ナリト雖モ無用ノ費ト思ヒ是ヲ恐ルヽ者ナキニシモ非ズ願クハ是ヲ一町内毎ノ戸長ニ命メ布令同様ニ廻達シタラバ府下一般ニ行ワレ人民早ク開化ニ趣カントト愚考ス

府下東大組十九區

清水店

○

去ル五日一朱金札ノ贋製一枚ニ左ノ和歌ヲ添エ投書セシ人アリ和歌ノ意此贋札ノ為人ノ害ニ遇ハン事ヲ慮リタル奇特ノ良心ニ見エタレハ斯ニ記シテ世人ノ誡トス但贋札ハ和歌ト倶ニ府廳エ差出シタリ

せきとめて世よハなるさ〳〵やくも名ゟたゝ野ゝ玉川の水

御披露蒙酒澄〳〵藥

○夫れ酒よ曇濁を生〳〵又夏日未然に火気を入れて
豫め防く事これ酒造家定方なり然れとも其製本
造法或ハ其土地気候ニよりて火気法も定り無一日
限法の如くにても順不順気ニて加減前後〳〵火気醒
て後再ひ曇りを生ぜ其ときを直〳〵汲を用ひて澄を
法ゆれども酒味變り重く〳〵て濁気のこり其旨元ニ復
らず其餘百法清方ゆれとも炎暑の節ゟ至りても其
方亦悉く空〳〵是れ酒家平素よく知る処なり然る
に今予々此澄〳〵藥ハ如何なる大暑のせりと雖も酒
味ゆ〳〵も変せす且つ濃薄芳気其本性を損ずるな
く実ニ至妙なる事藥灰の類ニあらず且此某幾年経
るとも効能更に変る事なく〳〵此度世に弘めんさめ製
之薫ハ凡そ四方の酒業家これを用ひし諸の不浄を
攘ひ復始再新の妙を得玉ふ幸甚〳〵謹言

一分量曇酒一石ニ付藥二合の割則ち酒ゟ火氣を入ゟ捕
の蓋をせむと欲するとき藥を入ゟ置べし〳〵火気さる
就き濁穢を捕そこゟ沈ミ酒色清〳〵として外量減す
こと少く〳〵て徳用無類なり

大阪勘助嶋舩津町
松島千代菩橋ヨリ五丁南

酒澄藥開業所　官浪新七

目標

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所エ寄ヒ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ俱ニ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迄ニテ出板後ハ焼棄可申候　〇望ニヨツテ出板スル件ハ諸品賣買ノ新店開キ〇観セノ集會等引札　其他世間エ披露事件総テ應其望出版一行廿三字ニ付定價五銭宛ニテ引請可申候

物價日表

米　堂嶋濱
摂津
肥後
筑前

休日

開商社	商品時價		
酒	拾駄　銘柄　四十五両　地廻リ四十両	黒砂糖	三鳴百斤　四両二ア
塩	百俵　冊田十三条十七枝リコ二十条　入頭五十六枚上頭四十八枚三十九枚	木綿	百反　泉州　三十四条
茶	百斤　鶸ノ箱一条二十一枝　干鰯雛メ箱同二十五枝羽鯡九十五枝	純銅	百斤　北両一ア
晒鯣	百斤　地廻十六両二ア登十五両二条	生糸	百目三石　八百条
		昆布	百斤別荷極　三条五十枝
		寒天	角千本　四条ヨリ六条

本局　本平四丁目　書籍會社
撰集所　長堀并池濱東　青湖堂
取次　大阪　所々　村上勘兵衛
東京　日本橋川瀬石丁角　村上出店

明治五年申五月第廿四号　大阪新聞　〇一

隔日發兌

大阪新聞

第卅五號

明治五壬申年九月廿一日　西洋千八百七十二年十月廿九日　本日ハレ寒暖計六十二度

英人某ノ話

私國元ニ居リマストキ日本ニハ盗業ノ学校ガアリマスト申事ヲ聞マシテ誠ニ不思議ニ思ヒヲリマシタ世界ノ國〻ニ学校ノ種類ハ數多アリマスケレト皆盗業ナトノ悪事セヌヨフ身ヲ立家ヲ修ムルニ基カスモノハアリマセヌノニ扨〻日本ニハ稀異ノ教ヘガアルモノカナト合点カユキマセナンダガ初テ長崎ニ参リマシテソノ事ヲ尋子マシテモソノ様ナ学校ハ

ナイト申マス故夫テハ全ク傳聞ノ誤リカトゾンジ居リマス中ホ神戸ニ参リマシテ或日友人ニ此事ヲ話シマシタニ友人ノ申マスニハ日本ノ士官ニ話ヲキクニ日本ノ獄屋ハ種々ノ囚人入込ニテ大概一室毎ニ牢頭ト申モノガアッテ其牢頭ハ犯罪ニ長シタル老練ノ者ヲ撰テ一室ノ取締ヲ申付アルトノ事ヲ聞キマシテ初メテ発明イタシマシタ成程学校ト申ハ獄屋ノ間違ナラント俄カ右囚人雑居イタサセマシテハ仮令過誤ニテ罪ヲ犯シタモノモ一度入牢スレハ種々悪業ガ修熟イタシ再犯ハ餘程手際ナ盗ミナトイタシマスニ相違ハ御座リマセヌト思ヒマスサスレハ学校ノ名コソナケレ其実ハ学校モ同一理ト存シマス

右投書

○水尾筋ヲ表シ舟行ニ便ナラシメン為先頃天神橋以東川筋ニ「ペン」塗ノ桶數百ヲ浮メラレ大ニ通路ヲ雑シタルモ追々流失シテ今ハ一ッノ桶モ見エス再ヒ取リ替ユル事ナケレハ提灯消エテ方向ヲ失ヒタルニ異ナラス一時便利ノアリシ為却テ昔日ノ不便ヨリ猶一層ノ不勝手ト相成リタル趣舟頭トモノ話スヲ聞ケリ

右投書

○東京ヨリ報知

玉乃司法權大判事ヲ刺傷セシ者ハ上総國市原郡八幡村ノ農新四郎ノ忰服部喜平次當五十一歳玉乃氏ヲ狙ハシ為東京大川端町五衛門借家寓居イタシ三ヶ年前民部省ヘ訴訟ノ事アリシ呼玉乃氏非分ノ裁判ヒト遺恨骨髄ニ徹シ其動止ヲ伺ケルニ日ヽ玉乃ハ司法省ヘ出仕神田橋ヲ往復スル事ヲ探知シ去ル十日ハ字頃同橋上ニ待掛ケタルニ玉乃氏ハ人力車ニ乗リ走馳セルヲ喜平次橋上ニ行違直ニ短刀ヲ抜放チ車後ヨリ首ヲ咽ヲ狙刺通サントスルニ轉動シテ誤テ左ノ肩先ヲ衝キ通ス玉乃氏疵ヲ受候哉否ヤ直ニ車ヨリ飛下タリ曲者待ト声ヲ掛追駈ルト雖深手ナレハ苦痛全身ニ響キ充分走ル能ハズコノ騒動ニ巡邏ノ第一大區四小區ホリ之ヲ捕押シ司法省ヘ指出シ糺問ノ呼前条非分ノ裁判ヲ遺恨ニ在シ國ノ為奸吏ヲ誅スルト答ヘタル由惜ムラクハ一刀ヲ誤リ死ヲ免レタルハ遺恨ニヲモヒ候也此上ハ如何様ノ罪科ニ處ラルヽトモ悔ナシト自若トシテ答ヘタリトゾ

○

廣告

孔嘉社規則序

吾伊賀ノ國タル四方山ヲ以テ是ヲ圍ミ所謂靈淵（レイシヽ）ノ氣鬱（ウツ）シテ洩レサルノ美アリ然レトモ患フル所モ亦此ニアリテ地勢通達ノ便火ケレハ其俗亦隨ツテ固陋ノ弊アリ今ヤ文明維新ノ盛時ニ當リ猶ソノ故俗ニ安シ固陋ヲ甘ンスルハ獨リ　聖代ノ隆化ニ嚮フヲ不知ノミナラス時務ニ昧クシテ事業モマタ成ルヘカラス此弊ナカラン事ヲ欲セハ則チ遠近時事ノ新記載ヲ覽テ其見聞ヲ博（ヒロ）ムルニ如クハ無シ故ニ今同志相謀リ新タニ一社ヲ結ビ上ハ　太政官ノ諸誌ヨリ下ハ都鄙ノ新聞紙ニ至ルマテ普子（アマネ）ク購（コウ）求シテ是ヲ覽ン事ヲ約ス昔シ呂蒙書ヲ讀ミ才識大井ニ進ミシカハ魯肅（ロシュク）是ヲ称シテ復タ呉下ノ阿蒙ニ非ストヽヘリ今吾同社ノ人モ亦是ノ義盟ノ舉ニ由リテ奇書異編ヲ讀ム事ヲ得ハ庶幾クハ復タ舊時ノ伊人ニ非ラルヘシ況ヤ其國モトヨリ靈淑ノ氣ノ磅礴スル所ニシテ俊異ノ士ヲ出ス可キ者ナルヲヤ請フ互ニ刮目シテ是ヲ待ニ若夫社中購書ノ要ハタヽ、新ナルヲ貴ヘハ是ヲ詩ノ其ノ新（ナラハ）孔嘉（ヨミ）トヽニ取リ斯ニ吾社ヲ呼テ孔嘉社ト曰フ蓋シ惟ミ書ノ新ナルヲ嘉（ヨミ）スルノミニアラス必スヤ德（トクリキ）カソ

レ相與ニ是ヲ勉メン

孔嘉社

壬申　五月

○去ル七日八日ノ両日雨降ツヽキテ九日朝ヨリ快晴ニ相成シニ上ミ筋殊ニ大降ト見ユ午十二字頃頻ニ暴張シ許多ノ杙木抔流レ来レリ其中雑器物モ流レタレハ川上ニテハ人家流失セシモ圖リ難シト風聞セリ又難波橋東横堀川農人橋ニ小舩壱艘流レ掛リイツレモ覆没セリトゝ當春来ノ大水ナレトモ幸ニ田地流失等ハナシト云リ

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勸善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ撰テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ且無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ關ハル事件ハ一切上梓致サヽル候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スヘシ統テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

社中敬白

物價日表

米	堂嶋濱	開商社	商品時價	黒砂糖	三嶋 百斤	四両一ア	
摂津	十九日三条廿三						
肥後	同日 同五十四セン	塩	百俵	阪上 赤ダ	糸丹 七百五十目		
筑前	同日 同卅九セン	茶	百斤	綿	金巻両	四十二条	
水油	兎商社 同 卅三条廿五セン	晒鯣	百斤	木綿	三夏 雲州	四十二条	
						二十四条	
				純銅	百斤	廿両一ア	
				生糸			
				昆布	三百斤	八百条	
					四百斤	三条五十銭	
				寒天	角 千本	四条ヨリ 六条	

伏テ願フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ヘ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ伍シ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迄ニテ出板後ハ焼棄可申候 ○望ニヨツテ出板スル件々ハ諸品賣買ノ新店開キ△顧セモノ集會等引札 其他世間ニ披露事件総テ應其望出版一行廿三字二付定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 本町四丁目 書籍會社
撰集所 長堀井池濱東 青湖堂
取次 大阪 所々
京都 村上勘兵衛
東京 日本橋川瀬石丁角 村上屋店

明治五年 壬申 九月 芸芸日 大阪新聞 第卅六號 ○一

明治五年申壬 大阪新聞 第卅六號 ○一

西洋千八百七十二年 明治五年壬申 九月 芸芸日

本日八ツ 寒暖計 空三度

隔日發兌

大阪新聞 第卅六號

○ 従勢州報告

八月廿一日ヨリ度會縣下大和町事比羅神社ニテ 神宮ノ教會ヲ開キシ所其始ハ何等ノ事トモ解セス唯一時其体裁ヲ見物ノ心ニテ九千五六百ノ人數雑踏セリ然ルニ説教ヲ拝聴シテ大ニ旨趣(ムネ)貫徹(ツラヌキ)シ翌日ハ二千余ニ及ヒ其座席ニ困却(コマル)シ世話掛ナルモノ九百名日々、座敷ノ掛出シナルモノヲ造作スルニイトマナシ五日目頃ヨリ其術(スベ)モ尽キ殆(ホトン)ト六七千ノ人數二三千ハ空(ムナシ)ク立

明治五申年 大阪府届書 第六号

帰リ七日目ニ其事終テ九月一日ヨリ松阪鍛治町八
雲神社ニ於テ又 神宮ノ教官一教會ヲ開キシ所初日
ノ聽衆三千余人其翌日ハ如何アラム古老モ此地ニテ
如此キ群参ノ人アリシ事ヲ聞カスト云ヘリ是ヨリ引
續キ久居又志摩ノ鳥羽ニ開キ追々近傍ヨリ押移リ
次第ニ東海道ニ及ホサントスト聞ケリ蓋天祖御鎮座
ノ地ヲシテ如此ク教導ノ盛ニ行ハル、ハ全ク 神慮ノ然
ラシムルナルヘシ但大和町ノ教會ハ其後毎月五十ノ日
ヲ式日トス

西成郡第三區九番組埜田村漁者

竹村治三郎

其方儀過ル廿七日夜漁舟ニ而木津川筋乗リ通ル
節安治川一丁目按摩渡世林勇藏稼先ヨリ帰ル途
中誤テ川中エ陥リ其侭流レ行キ溺死ニモ可レ及折柄
処遉卒山本良忠指揮ニ従ヒ舩ヲ漕寄急速引揚ケ
一人ノ命ヲ助ケ候段神妙ノ事ニ候依レ之為褒美金
一圓遣之候事

壬申八月廿九日

大阪府

○松屋町近辺ノ裏店ニ住居シ戸主ハ日〻出職致シ女
房ハ盲目ニテ夏季ハ松屋町ノ空地ヱ床机ヲ出シ按摩

ヲ業トス同家ニ暫ク寄留ノ女アリ一日按摩ノ客一朱
幣ヲ銭替セン事ヲ求ム謦者之レヲ寄留女ヘ托スノ乃チ
宅ヱ駈帰リ見ルニ折節銅貨無レバ隣家ナル独居寡婦
ノ所ニ来リ替ンコトヲ求ム寡婦手函ヨリ銭ヲ出シ引替
遣ルニヨリ彼ノ女ハ早ク戸外ヱ立出寡婦ハ便所ヘ往
キタルヨシ其翌朝彼女急ニ在所ヘ赴クトテ立去シニ
無間寡婦手函ノ金子五両紛失ノ由ヲ近隣ヘ喚告ス
コニヨイテ近隣来集評議スルニ彼ノ女疑ハシケレ
ハ迅速飛脚ヲ以テ追掛シニ北江五里バカリノ所ニテ
茶店ニ憩ノニ追付キ引連帰ル段〻問試ミルニ毛頭覚ヘ

無シト答ヘ裸体トナリ衣類ヲ振ヒ見セケルニゾ疑フ
可キ所ナシ然ルニ五組頭才智アルモノニテ窃ニ彼女ヲ
別座ヘ招キ断獄ノ恐ロシキ事ナト話シ且前非ヲ悔テ改
ムレハ其罪ヲ憎マサルノ理ヲ弁解セシニ
彼女初ハ黙然タリ稍アツテ泣テ云フ実ハ手函ノ内ニ
金子アルヲ見請不圖悪心萠シ取掠メ立退候處追人来ル
故金子ヲ茶店ノ裏畑ヘ埋メタル由露白ニ及ヒタリ因
テ又迅脚ヲ飛シ茶店ヲ探ルニ果シテ土中ニ埋メ有
リシヲ持帰ルニ付是ヲ寡婦ヘ返シ與ヘタリ偖組
頭ヨリ戸主ハ勿論来集ノ者共ニ寄留人ハ別而入

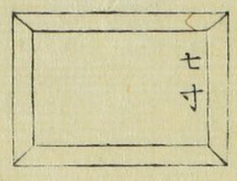
念ス可キ旨堅ク警戒シ盗女ニハ猶更厳シク誡諭シ一件ノ入費ハ戸主ヨリ弁金ニ取計ヒ内分ニテ事済タル由此組内ヨク御制度ヲ守リ諸事取計行届キタリト噂サアリ

廣告

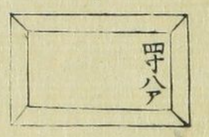
學童ノ便ニ供センカ為予船来石盤ノ代用ニ鉄盤木盤紙盤ノ三種并ニ白石筆ヲ製造セリ落成ノ上試験スルニ船来ニ劣ルコトナク却テ石質柔弱ノ渡来品ハ盤面石筆ノ四方ヲ頭アレトモ新製ノ鉄盤ハ其質堅甲ニシテ敢テ此憂ナシ此般官ノ許可ヲ得発売仕候間四方ノ生徒此品ヲ代用シテ予ガ発明成功ノ聖訓ナラサルヲ試ミ給ヘカシトホニ

鉄盤木盤何モ両面ニテ各大小二盤あり寸法ハ両品とも同ジ

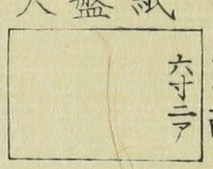
大



小

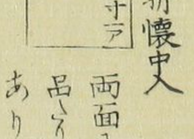


紙盤 大



厂面 四折懐中大

紙盤 小



両面ニて至て軽便の品ニて此外紙盤各種あり

定價

鉄盤大 金一分一朱
盤小同 金三朱

木盤大 金三朱
盤小同 金壱朱ト五銭

紙大厂面 二銭五厘
盤小懐中入同 五銭

右寸法ノ外應御好製造仕候

発明 阪府下住 並川庄兵衛

壬申八月

賣捌所 安土町通四丁目 書林會社

○投書

過日ト筮相法等一切無譬ノ説之ヲ禁止スルハ実(ジツ)ニ善挙ト可ㇾ謂ナリ然シ未タ其一ヲ知リ其二ヲ不知ノ議リヲ不免如何トナレハ即今用ル処ノ暦法其中褒スベキノ条件過半ナリ想フニ此事官必ス其挙アランナレドモ請ラクハ速ニ其挙アラン事ヲ希フノミ且ツ干支ノ如キモ亦タ無用ノ贅ナランカ

六月中輸入品

米七万六千三百六十石五斗八升一合
円十六万四千四百四十五俵
大豆一万五千二百四十俵
酒　一万二千五百四十挺

同輸出品

米百九十六石八斗
円九万五千六百五十六俵
大豆四万七千四十俵
酒　六千四百十五挺

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勧善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ撰テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ且無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ關ハル事件ハ一切上梓致サス候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スヘシ統テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

社中敬白

隔日發兌
大阪新聞 第卅七號

○當節上海ヨリ帰ル人ノ談ニ彼ノ地ハ千餘里流レ来ル濁水海中ニ落込ム處ニアリ河幅ノ廣大ナル八里餘ナリ河ニハ萬舶(ハク)(ヒヤク)ノ檣(ショク)聚(ジウ)陸ニハ萬棟(トウ)鱗比街中馬車大道四ツアリ支道両傍ニ臚列スル事恰モ櫛齒ノ如シ妓樓爰ニ愼満ス娼妓等衣服鮮麗頂ニ生花ヲ戴(イタ)キ芬芳(フンホウ)人ヲ襲(オソ)フ劇場(ケキジヤウ)亦極(ハイ)メテ見事ナリ外題(ケダイ)ハ當節三國志ヲ演ス女樂師ヲ先生ト呼フ舞女ハ自ラ歌ヒ自ラ舞フ音調清婉容度閒雅(カンガ)ナリ然ニ此ニ反スル陋習(ロウシウ)アリ人(イヤシキヒト)

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新說異聞アラハ本局及ヒ撰集所ノ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ偏ニ投書ハ必ス顯名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迄ニテ出板後ハ燒棄可申候 ○望ニヨツテ出板スル件ハ諸品賣買ノ新店開キ(ハジメ)ノ集會等引札 其他世間工披露事件總テ應其望出版一行仕三号ニ付定價五錢宛ニテ引請可申候

物價表

米堂嶋濱

摂津	米百	三表七セン	酒拾駄	銘	四十五両
肥後	同日	同八十セン	塩百俵	地廻リ	四十両
筑前	同日	同五十五セン	茶百斤	宇治	入頭 五十六枚 頭上 四十八枚 三十九枚
水油	菜商社 石	同日	二表半五セン	鰯	一表二十戔
鯣	百方	地廻	十六両二ア	雑魚	同 二十五戔
		登	十五両二表	羽鯣	九十五戔

関商社商品時價

黒砂糖	百鳴	四両二ア	本局	本町四丁目	書籍會社
綿	金壱両	阪上	未ダ	長堀北	撰集所
		京丹	七百五十目	池濱東	青湖堂
純錦	百斤	北両一ア	取次	大阪	吸々
生糸				西京	村上勘兵衛
水綿	百斤雲州	四十二表		東京	日本橋川瀬石丁角 村上治右衛門店
		二十四表			
昆布	百斤	八百表			
	百斤	三表五十戔			
寒天	角	四表ヨリ			
	千本	六表			

家ニ厠ナシ陶造ノ糞尿器ヲ備フ満レハ路側ニ傾瀉ス
各戸皆然リコレニヨッテ道路不潔臭気殊ニ甚シ支那
人糞尿ヲ見ル事嘔液垢ノ如シトイフ夫ノ支那ノ如
キハ風ニ文明ノ國ト称シ今一層開化ニ趣キシ其上海
ニ如何ナレハ斯ル不潔ヲ嫌ハザルヤ西施モ不潔ヲ
衆ル時ハ人皆鼻ヲ掩テ過ルト呼謂佳麗ノ娼婦清婉
ノ楽女モ或ハ鼻ヲ掩フノ嘆ナキ能ハズ

○獨逸商人「ボーケル」及ヒ和蘭商人「カラヱン」并當府下
難波村上ノ町横山健之助等申合土佐國森澤万之助所
持之山林買入之談判トレテ無免状ニテ同國へ罷越右
山林ヲモ巡覧致シ代價ハ帰阪之上可相渡約定ニテ一
同引取萬之助モ付随ヒ来阪シタルニ終ニ彼是故障申
立破談トナセリ且健之助等森澤江止泊之宿籠料不相
償旁ノ始末ヲ憤リ三人ヲ相手取リ万之助ナルモノ阪
庁ニ訴訟ニ及ビタルニ付取糺有之両洋人條約規則ヲ犯
シ不開港場へ遭ニ立越タル廉ヲ以其國領事官江掛合
ニ相成終ニ罰金百弗「ボーゲル」ヨリ差出サセ「カラヱン」
ハ其領事ニ而糺問中トス健之助モ糺問中局留ニ相成
居ルヨシ

○當節綿賣買殊ノ外ハヅミ買客モ不絶近国ヨリ登

リ居日〻ノ高下荒々シク雨天ニナレバ買人気立チ又快晴トナレハ大下落ニ及ブ「實綿時價　十二ノ目ニ付　アメ六両一ア　ハレ四両三ア

○

冨島町林嘉助ト云者六十ニ近キ老爺ナルガ往年新町北通一丁目何某方ヨリ小女貰ヒ請妻モロトモ養育致シ今年十七才ニ及ベリ此娘十三才ノ頃ヨリ手跡縫針ノ業ナト教ユルニ何故カ習熟遥ク已ニ昨臘ニ及ヒ喜助思フニ娘追〻盛長シ齢既ニ二八ヲモ踰タレトモ未ダ春情ヲ催シタル様子モナシ手業ノ習熟ニ至ラヌハ此事ナルヘシト夫ヨリ物ニ觸レ支ニ寄セ春情ヲ起サセント媒事ノ詞ナトスルニ更ニ娘應スル景色モ無ケレハ只管苦心シ折節ハ夫婦ノ寐間ニ呼入雲雨ノ景状ヲ示シ或ハ陰莖ヲ握ラセ媒事ノ粧ヒナド懇示スルトイヘドモ應セサル事木偶人ノ如クナレバ終ニ怒ニ堪ス當春ニ至リ彼娘ガ毎度実家ニ立帰ル罪ヲ鳴ラシ婀娜ナル手脚ヲ束縛シ可惜緑髪ヲサラリ落シ示後春米負水苦役至ラザル所ナシト云此趣所聽ヘ聞ヘ双方取紛ニ相成タル処娘前件、始末遂一申出ケレハ嘉助ハ七十ノ扶刑ニ處セラレ娘ハ実家ヘ引渡ニ相成タルヨシ

○

東大組第十三區北濵五丁目拾九番屋敷ノ商建部甚右衛門召捕下女むえ申廿七才丁稚徳松申十三才右両人八月廿五日午後二字頃淀屋橋北詰西へ入川端ニテ衣類洗濯致居レ処水中ニ金色ノモノ一ツ流レ来ルヲ右徳松即時ニ拾ヒ上ケ見ルニ豈計哉草文小判也驚持帰ル主ニ告ルニ主即刻組頭ヨリ戸長へ届ケ府廳へ訴ヘ出レトヅ

○千八百七十二年第九月十一日兵庫新聞抜譯

浮説ノ人ヨリ人ニ傳聞スルトキハ次第ニ過誤ヲ増スハ今更言フ迄モナキ事ナリ過キン金曜日一友来テ吾ニ告テ曰吾レ之ヲ聞ク喧嘩ヲ為シ其一手ヲ切リ去ラレシ者アリト其後吾レ克ク此説ニ就キ吟味ヲ為セバ全ク左ニアラス一人挿下駄ヲハキ薬ノ大瓶ヲ携ヘ道ヲ行キシ時其大瓶ヲ誤テ覆ヘシ自己其ノ上ニ倒ケレバ瓶ノ小片ニテ一方ノ手ノ動脉ヲ切リ是カ為メ其人大ニ疵口ヨリ出血セシトナリ

○投書

或人問テ曰ク髪ヲ薙ギシ人ヲ開ケタト称ヘ鬙ノアル人ヲ聞ケヌト謂フハ如何ナル訣ニ候ヤ答テ曰ク甘レハ候髪ノ長短ヲ論スルニ非ズ断然ト惜気ナク忽チニ貌ヲ

変シテ愧ル色ナキハ即勇気ノ一端ニシテ是膽力ノ顕ル、ナリ詎ク時勢ニ隨フユヘンヲ開ケタト謂夫ノ煉油ニ固マリ夏日ニ沸蒸シテ嗅気鼻ヲ打チ壮健ヲ害スルホトノ大騒ヲ惜ムモノハ已レ斬髪ノ志アッテモ人ノ笑ンヲ恐レ又ハセノ眼ヲ恥ル計リニテ恰モ愚女ノ如キ根性ナリ是等ノ人ハ何事モ奮発デキヌナリ故ニ開ケヌト謂モ至當ナラン乎

運上所輸出

○屑布 三万二千斤 ○葉烟草 二万千四百斤 ○墨附盆 卅六前 廿弗
○キンケイ鳥 二羽 鶴 四羽 鷲 四羽 白カン二羽 モルモト二疋 蛇 一疋 以上 五十弗
○塗箪笥 一箱 手筥物 三箱 同 輸入 五日 二十弗
○豆油 七百六十八樽 八万四千四百十斤 六千三百三十六弗

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勧善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ挙テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ見無根ノ流説等ニテ人ノ損害ヲ關ハル事件ハ一切上梓致サス候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スヘシ統テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

社中敬白

物價日表

米　堂嶋濱　摂津　廿四日三条四ツ
酒　拾駄　銘　四十九両　肥後　同日　同八十セン　地廻リ四十　両
塩　百俵　筑前　同日　同五十八セン
茶　百斤　矢商社　水油　不同日　廿二条廿五セン　鰯　雑穀ノ箱　同　二十五戔　羽鯡　九十五戔
晒鯨　百斤　地廻十六両二ア　登十五両二条
開商社商品時價
黒砂糖　鴨　百斤　四両二ア
綿　金壱両　阪上　永ダ　京丹　七百五十目
本綿　百斤　雲州　四十二条　三十四条
純銅　百斤　北両一ア
生糸
昆布　百斤目　三百斤　陌斤　剋京極　八百条　三条五十戔
寒天　角　千本　四条ヨリ　六条

伏テ冀フ四方同好ノ君子何車ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ニ投中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ偏ニ投書ハ必ス姓名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迫テ出板後ハ焼棄可申候　〇望ニヨツテ出板スル件々　△諸品賣買△新店開キ　△觀セモノ集會等引札　其他世間エ披露事件総テ應其望出版一行廿三字ニ付定價五銭宛ニテ引請可申候

本局　本町四丁目　書籍會社
撰集所　長堀井池濱東　青湖堂
取次　大阪　呵々　村上勘兵衛
東京　日本橋川瀬石丁角　村上出店
靖順下

明治五年壬申五月廿七日　大阪新聞第廿八號　〇一

大阪新聞　第廿八號

隔日發兌

明治五年壬申九月廿九日　西洋千八百七十二年

本日夕寒暖計五十度

〇投書

宇和島縣十一等出仕タリシ岡田長道不快ニ付暫時滞坂中當府内ノ父教盛ンニヲヨブト聞就中元穢多村渡邊ト云所ニモ小学校ヲ設ケ置ルヘトキヽ心欽ヘトシテ病痛残暑ヲ厭ハズ其所ニ趣キケル二五六才以上十四五才ノ童男女數十人巌ニ規則ヲ守リ專修セルヲ見テ府治ノ至レルヲ感ズ且數シテ云ク穢多非人ノ稱被廃自今身分職業トモ平民同様タルヘキトノ御布告

ハ去辛未八月廿八日ナリ既ニ十二ケ月ヲ経ト雖モ各地方士卒農ユ商ノウチニコレヲ忌嫌スルモノ多クシテアルヒハ争論ヲ生シ或ハ闘歐シ廳ノ厄害ニモナルモノアリヨレ何ヌソヤ挫一行ノ御布告モ謹テ拝承シ以テ堅ク相守ルハ勿論タルニ知見ノタラキヨリ上ヲ誹リ下ヲ侮リ終ニ自他ノ損失ヲ釀ス偏固頑愚ノ甚シキト云ヘシ蓋右忌嫌セラルヽモノヽ子弟ハ不日文学進歩シ忌嫌スルモノヲ哀笑スヘシコレニヨツテ其忌嫌ニ隙ヲ費スヨリ寧学術ニ志ス子弟アラバイヅレニモ早ク入校サヒテ心モ偏固頑愚ヲ傳フルナカレト云

〇従吉備州報知

備中賀陽郡惣社塩屋堀清一即支配人藤助ト云者性質直ニメ敬神ノ志厚ク已ヲ修メ人ヲ訓導スル而已ナラス商法ニ於テモ亦卓絶ノオアリ去未冬浪華ニ開店セン支ヲ清一郎ニ詰清一郎之ヲ難シ免サズ固ク詰テ曰毫モ主ヲ煩ハス可ラズ既ニメ許可ヲ得大阪備後町ニ開店ス其家ヲ出ル時懐中僅ニ紙幣二弐八分アリシノミ備前児島産物木綿小倉帯地ヲ引合ヒイタシ去ル十一月中旬ヨリ今申四月中迄ニ至テ凡五閲月間其羅ル所ノ金高四万八千両ニ及フト云其后イカヽ

アリヤ藤助其従者ニ謂テ曰多分ノ口銭ヲ貪ハ克勿レ
彼此有無ヲ通スルハ吾儕商人ノ職分也我カ業ヲ
勉ムルノミ利ハ先ンスル所ニアラストソ

〇九月九日北堀江四丁目ニテ若冠者両人袴ヲ着用シ
騎馬ニテ口附ノ者モ見エズ無法流ニテ駈行クニ馬ハ
軒下々ニ寄リ或ハ後口向キニ歩行已レノ欲スル方エ
跳リ往フニヅ往来人ハ各迯惑フニ後ナル騎者忽チ落
馬シ腰骨ヲ歩痛ヲ撃時ニ立揚ラズ其間ニ馬ハ側傍ナ
ル幅壱間計リノ一陋巷エ駈込タリ人、驚駭セシニ暫
ク在テ口附様ノ者一人駈来リ彼ノ借家裏エ馳行キ
漸ク馬ヲ牽キ出セリ怪哉人ハ無シト雖トモ彼落馬セシ
若者ハ暫ク腰ヲ押エテ平伏居タリ兼テ口附ノキハ平
人騎馬往来御制度ナルニ世ノ若輩共ニ借馬主共
如何ナレバ如是ク府令ニ背ケルヤ是レ老幼輩ノ者
大怪我ノ基ヒタリ官再應ノ厳令アリタキナリ

〇投書

令被各国エ伝信線路御開業相成リ数里ヲ隔テ
諸人ノ発明珎事奇談ヲ知ル事乍居自在ニシテ
人智ヲ御開導被為在萬民ノ幸福不過之ト曰然ル
ニ通信ノ作文ハ洋字不辨ノ者エハ片カナ欠字ヲ

以文面ヲ綴傳信局ヱ可願出旨御達有タリ然ルニ従
カナヲ以綴リ試ルニタトヱバ「醫者」○「イレヤ」○「石屋」
「イレヤ」同音ノ類聞ク有之是ヲニツニ別チ書方アルヲ
知ル者少シ其意ヲ不知シテ通信ヲ願者多ク音聞
ノ違イヲ誤追ニハ種々ノ齟齬ヲ生シ人事ニ害アルニ
イタルヘシ早ク其區別有ル處ノ意ヲ記載シ市郡各
村ヱ御布達アリタキヲ願フ

○投書

西大組第九區阿波座下通一丁目通号奥長トカヘル者
ノ老母先年ヨリ眼病ヲ煩イ一人ノ娘ヱ入聟ヲ迎ヱ其
身ハ別ニ隠宅ニ引取光陰ヲ送レ共何分眤目其上聟
娘両人ト其間柄睦マジカラス然ルニ一夜若夫婦ト何
角迫合殆高声ニモ可及之處組内近隣等ノ挨拶ニテ漸
靜リ其侭已カ伏処ヱ入リシニ翌朝時剋過レトモ起出
ズ如何ナル事ニ哉トそ夫婦不審シ卧戸ヲ見ルニ老婦発
狂ノ餘カ縊死成セリそ夫婦ハ仰天シ醫藥之手當様々成
共時刻移リシト相見ヱ蘇生致サズ詮方ナク官ヱ訴出
シトナリ

○當節難波新地ニテ印度ヨリ舶来ノ猿種類觀セモノ
トセシニ其中ニ支那産ナル由ニテ猿猴トイヘルハ頭

小サクシテ両臂殊ニ長シ色溷黒ニシテ眉毛歯ノミ白シ恰カモ狩野氏ノ古画ニ似テ頗ル雅物ナリ然ルニ一ノ日此黒猿イカバシケン羈ヲ抜ケテ飛出ルニツ入ミ大井ニ驚クウチ早クモ屋根ニ駈揚レリ折柄烏数十羽飛来リテ黒猿ヲ取巻キシニ黒猿是レニヤ恐レケン又小屋ノ内ヘ飛込シニヲ漸ミ捕押ヘケルトブ猿猴ト烏ハ兼テ呉越ノ中ノルニヤト人ミ云アエリ或人ノ狂歌ニ

れりを生てで〳〵支那猿も異ひ〳〵野〳〵すまゝと押へるも妙

日曜日 十月 三日 十日 十七日 廿四日
八日 十五日 廿二日 廿九日
十一月 一日

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勧善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ擧テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ且無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ關ハル事件ハ一切上梓致サス候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニテハ悉ク焼棄可申候若又中間斡旋ノ事アラバ公明ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スベシ統テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

社中敬白

表

物價日表

米	堂嶋濱	開商社商品時價			
摂津		銘 四十九帖 他廻リ四十両	黒砂糖	鴨 四両二ア	
肥後		酒拾駄		阪ヒ 未ダ	
筑前		塩 百俵	綿	京丹 七百五十目	
冗商社 水油一石		茶 百斤	木綿	雲 四十二糸	
		鰯ノ箱 同 二十五枚	純銅	州 二十四糸	
		鰯ノ箱 同 二十九枚	昆布	百斤 廿両一ア	
		生糸	寒天角	三名目 八百糸	
		一糸二十本		白打 刻昆搦 二糸五十枚	
		地廻 十六両二ア		四糸ヨリ 六糸	
		登 十五両二糸			

伏テ貴ブ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ノ社中ノ素志ヲ助ケ玉ハン事ヲ偏ニ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ盛衰ニ係ル件ニ諸品賣買ノ新店開キ乗可申候 ○堂ニヨツテ出板スル件ニ關セモノ集會等引札 其他世間工被賣事件 総テ應其望出版一行廿三字三行定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 本町四丁目 書籍會社
撰集所 長堀茂左衛門町 池濱東 青湖堂
取次 東京 日本橋通 村上勘兵衛
下 大阪 心斎橋筋 村上勘兵衛
上 出店 京都 瀬川石丁角 橋本

明治五年壬申九月廿九日 廿七日 寒暖計五十度

大阪新聞 第廿八號 附録

隔日發兌

投書

予本月九日ニ發セル郷信中一ノ新聞ヲ得タリ今左ニ揚テ其社中ニ投ス

愛知縣従前雜使ト唱ル賤職アリ是ハ太政更新前ヨリ廢藩迄ハ金城内并城外数多ノ官舎其他東西京管邸大小ノ俗吏局ニテ使役セル所謂小使（コヅカイ）ト号スル者ニシテ其員殆ト三千人ニ餘レリ然ルニ現今縣廳唯一場ト成リ廳中ノ小使ヒハ雜使総員ノ百分一ニテ充足セル故其

餘彼輩ハ皆非役ニテ平居セル爰ニ久シ然モ官其俸六石
ニ人扶持已下各ヲ削ラス従前定額ノ如ク給セリト雖モ
種アリ二人口ニ止ルヲ以テ今度令シテ當用ノ外他ハ
空ク造糞器ニ屬スルヲ以テ今度令シテ當用ノ外他ハ
悉皆雑使ノ名ト其俸給ヲ放解セリ爰ニ至ッテ彼徒物
議囂々遂ニ黨シテ九月五日黄昏ヨリ二千八百人程縣
廳エ蟻集シ異口同音苦情ヲ訴フ景況不容易ニ付権令
井関氏即時出廳セラル途中廳門外ニテ彼黨圍繞シ頻ニ
哀ヲ述フ尤盛ナリ権令叱シ又説諭百方スレドモ多人
数ノ沸騰勢ヒ制シ安カラズ遂ニ同氏ヲ馬ヨリ挽下ロ
スニ及フ事情頗ル危險ニ渉ルヲ以テ輙チ縣下ナル東
京鎮臺第三分營エ告シ尚其動靜ニ依リ出兵鎮撫アラ
ンヿヲ乞ヘリ付テ分營ニハ直ニ急集ノ號音ヲ以テ歩
兵四小隊営門外ニ整列シ再度ノ報ヲ待テリ然ドモ此兵
隊操出シニハ至ラズ縣廳ニテハ官員歎願人ニ對シ説
諭其方ヲ尽セシニ事元来哀訴ニ出ッルヲ以テ非常ノ
擧動モ無ク彼輩ヨリ申立ハ方今ノ御時勢ニ付庶人ト
相成候段御主意ノ程篤ト弁別奉畏候エトモ此上ハ銘
々見込ヲ以何歟産業相立申度候エ共御改正ニ付御憐
助金不賜候テハ活計ノ途相絶父母族類ノ養動モ仕兼
飢餓眼前ニ候間御仁恵ヲ以恩賜アラン事ヲ願フト云々

官吏曰更ニ議シテ車ヲ東京ニ報シ彼命ヲ得テ許否ヲ
申遣ス可シト答シニ衆人謹領シ沈静ニ退ケリト嗚呼
今日海内無用ノ人物ニ費耗スル呼ヲ救セントナラバ
宜ク貴ヨリ賤ニ及ホシテ可ナラン乎同体ノ酒壺飯袋
ニテモ貴者ニ費ユル処ハ多ク賤者ニ費ユル処ハ少シ
而テ共ニ文明界ノ賊ニシテ其罪ニ軽重アル瞭然タリ
愛知縣ノ一挙ハ其當否ヲ知ラサレトモ文明城ヲ建築
ニ不用ノ人材ハ一地方ノ區政ヨリ寧ロ闔國一時ニ掃
攘アリタシ此實ヤ尤重大事件ニシテ其方法ハ我輩ノ
得テ知ル処ニ非ス其実ヤク論ヲ述フ又曉秋長夜ノ寂

言ナラム乎

○去ル廿二日
天長節ニ付府下数萬ノ人家各檐ニ獻燈懸並ベ種々ノ
旗幟ヲ閃ス辻々ニハ大燈ヲ擊起シ 聖壽無疆 聖誕
奉祝ナドノ字ヲ大書シ富家豪戸ハ錦繍ヲ布列シ過客
ヲ接待ス瓊樓玉宇僊境ノ遠ラサルヲ覚フ歡呼屋ヲ動
シ笑声チマタニ溢ル昨年ノ今日トハ賑ヒノ景況大ニ
相増シ近年本日ノ如ク和樂セシ事稀ナリ恐多モ今年ハ
御巡輦ノ美挙アラセラレ衆諸大ニ皇化ニ薫陶聖澤ニ
沐浴シ取分ケ我浪華ハ新港築造ノ大業モ初リ商法繁

榮ノ兆眼前ニ露(アラハ)レ在ル事ナレバ人々競ヒハゾムモ亦ムベナリ其中最壮観ナルハ市中各區新構ノ小学校ヨリ教師男女ノ学童ヲ引連レ氏神ニ賽拝シ　聖壽ノ萬歳ヲ悦レ奉ル其多キハ三百余人少キモ七八十人ヲ下ラズ一校毎ニ群ヲナシ各貧富ニ應シ衣裳ヲ改メ男童女児列ヲ正シ歩行スル体厳整ナレド畏臆ノ氣ナク戯笑セザルモ自得ノ色アリ天氣暄暖女童ノ群行ヲ遠望スレバ微風紅袖ヲ飄シ晴曦(サヒ)翠鬢ニ映ス春花ノ嬌艶タル如ク秋葩(アキノハナ)ノ皎潔ナルニ似タリ嗚呼美ナリ

因ニ云此日三橋樓ニヲ井テ蘭會アリ名蘭数百ヲ座上ニ陳列観ルモノ市ヲナセリ就中寒蘭一盆蕾々タル數葉ナルニ千五百圓ノ價位ト噂セリ此蘭ハ花尤モ妙(タヘ)ナルヨシイカニ稀ナル品ニモセヨアマリ馬鹿ラシキ鋪事ナリ希クハ斯ル無用ヲ轉シテ築港建校ホノ用ニ供シタキモノナリ

〇同日堂島米會所ノ連中一齊ニ被髪シ洋服揃ニテ住吉ニ參詣シ　天長節ヲ悦シ奉リタルヨシ此人々過日剃頭ノ不可ナルヲ告諭アリシ旨意速ニ領解(ガテン)シ舊習ヲ一時ニ脱却セシハ時機ヲ見ルニ敏(カシコ)ナリト云フベシ

〇

長崎ヨリ来ル人ノ咄ニ先頃彼ノ地ニヲヒテ某ノ官員
所持ノ金三千圓余従僕ニ為持街上歩行ノ節何者共不
知後ロヨリ立寄我ニ渡セト云カケ其侭モギ取リ轉(マロ)ビ逃
ノ間何レエカ走リ去リタルヨシ大金持テ通路スルモ
ノ輕々敷奴僕ニ托シ雜沓(ヒトゴミ)場所ヲ顧慮ナク徑過スルハ
実ニ危キ事ナリ油断大敵ノ諺(コトワザ)モ宜(ムベ)ナルカナ

日曜日 土月 一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十二月 七日 十四日 廿一日 廿八日

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ總テ世ニ益アル事ニテ自然勸善懲悪ノ
旨趣ニ適フモノハ擧テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或
ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ且無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ
關ハル事件ハ一切上梓致サス候條
投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ
記セズ上梓ノ上ニハ悉ク燒棄可申候若文中齟齬ノ事アラバ公明
ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速出版スベシ統テ投書ニ目テ議論
相生スルトモ當社ニハ關係致サズ候

社中敬白

物價日表

米 堂嶋濟
攝津 肥後 筑前

開商社
酒 拾駄 鍵 四千九両 地廻り 四十 両
塩 百俵 入頭 五十六枚 四十八枚 二十九枚
茶 百斤 鰯ノ箱 同 二十五箱 鰯 雑ノ箱 羽鯡 九十五箱
晒鯨 百斤 地廻 十六両二分 壱 十五両 乗

黒砂糖 三嶋 百斤 四両二分
綿 金壱両 攝上 赤ダ 原毛 七百五十目
木綿 堂島 卅二番 二十四番
純銅 百斤 壱両一分
生糸
昆布 百石目 二百斤 白 刻煮揃 八百 赤 二番五十 壱
寒天 角 千本 四番ヨリ 六番

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局及ヒ撰集所ヘ寄セ社中一般志ヲ助ケ玉ハン事ヲ但シ投書ハ必ス顕名ニテ可被遣尤モ是社ノ心得迫テ出板後ハ燒棄可申候 ○望ニヨッテ出板スル件々ハ諸品賣買ノ新店開キ ○贈セモノ集會等引札 其他世間エ披露事件総テ御賛望出版一行并ニ予ガ定價五銭宛ニテ引請可申候

本局 本町四丁目 書籍會社
撰集所 長堀北詰池濱東 青湖堂
取次 江戸 村上勘兵衛 京都 村上出店 東京 日本橋川瀬石丁角 村上出店 晴顯下

明治五年 壬申 二月 廿二日 大阪新聞 第廿九號 六

隔日發兌

大阪新聞

第卅九號

明治五年壬申二月廿二日

本日ハ寒暖計五十二度

○布令

人之精神ハ全ク頭部ニ寓スルモノニシテ所謂霊液ノ滙集スル所ナレハ鄭重愛護セスンバアルヘカラズ是ヲ猛烈ノ日光寒風ニ觸レハ痿ミノ病源ヲ釀シ成ス事ハ諸方名医ノ説ク處ナリ故ニ髪ヲ措キ帽ヲ戴クノ理アリテ自然毛髪ノ生胡スルモ頭脳ヲ掩護スル造化天付ノ要具タル睫毛ノ眼睛ヲ護スルモ同理タルベシ本邦往古ハ此理アルニ依テヤ惣髪ノ風俗ナルハ歴史ニ顕然タル處後世次第ニ人ノ智識暗ク成行半髪ノ風俗ト変シ冠リモノヲモ用ヒス剃頭ヲシテ直ニ赫日寒風

ニサラス何ブ身ヲ愛惜セサル陋習ノ甚シキ浩歎スベキ事ナリ今ヤ事物ノ理明ラカニ日進開化ノ世ニ遭遇スルモノ豈不明ノ陋習ヲ墨守スヘケレヤ衷底宜ク此理ヲ了解シ向後半髪ヲ止メ身躰健康ノ覚悟可有之事

右之趣為心得管内無洩相達ルモノ也

壬申九月

大阪府

○前五號ニ記載スル支那寧波人倪貶生ナルモノ貨幣贋封ヲ以新町通四丁目小田平兵衛江典物ニ差入金札二百両欺取シ罪状ニヨリ十ケ年之間准流ニ處セラレ當九月十五日後刑場ニ於テ差送リニ相成リタル由

○西洋第十月一日我八月廿九日川崎造幣寮新機械据附出来ニ付貨幣鋳造再ヒ始マリシヨリ蒸気機関ノ力モ以前ト一倍増加スレハ貨幣ノ出来高モ定メテ數倍スベシトソ

○安堂寺橋通四丁目煙管渡世五傳為之助妻かく當申廿三戈過ル八日夜半止大和橋邉川端ニイ居何カ物思ヒスル体ヲ選卒ニ見付ラレ様子尋問之處養母ト睦シカラズ故身投ノ覚悟ナリト答ヘタルニヨリ即出張所へ連帰ニ相成リ委細ヲタツ子タルニ當五月頃連子致シ為之助方ニ嫁シタリ然ルニ養母トフノ中睦マシカラズ兎角家内不熟ノ折柄此日ノ昼夫ノ命ニヨリ幼

兒ヲ抱キシマヽ、賣掛金取集ニ他出無間帰宅致シ掛シニ養母高声ニテカノかよ事ヲ為之助ト申争ヒケ様ノ女房持居候ハヽ、始終不為ナド罵ルヲ戸外ニテ竊ニ立聞ナシ内江モ難入込跡ノ際ヲノ薄倖ヲ思ヒ悲ミ手寄ナキ身ノ上窓口水死スベシト思詰天満橋邉迄サマヨイ行キ死ヲ決シ兼候故終ニ上大和橋ニ至リ還卒ニ見咎ラレタル由申ニ付精〻説諭之上其町戸長江引渡ニ相成タルヨシ

評曰此婦人情実可愍トイヘトモ畢竟ハ母ニソカフル道ヲ尽サヾル所アルヨリ不熟ヲ醸スナルベシヽ

シテヤ贅児ヲ帯嫁スル婦人ハ取分テ婉柔ヲ以コレニツカウルニアラザレハ父母ノ情ヲ得難キモノナリ姑婦ノ間世ニハ此等ノ苦状マヽアルベシ必ラズ一時ノ短慮ニヨリ死ヲ決スル念ヲ孝心ニ移シカヘ父母ノ心ヲ取直スコソ賢婦トモ云ベシ姑タルモノモホ能〻注意シテ慈愛ヲ加ヘタキモノナリ

○東十二區内従来ノ軒下行燈ヲ廃シ辻〻橋詰等所〻ヱ「ガラス燈臺ヲ取建テタリ毎夜光輝ヲ點シ往来人ノ幸ヒ一方ナラズ外區々モ一同此企ナカラン事ヲ希望ス

○南十四區九郎右衛門丁藤井治平倅熊太郎ト云ヘル者兼テ大峯山上行者信仰ニテ難波橋筋八幡筋北安田弥右エ門倅常次郎ト云ヘル者ヲ荷擔ニ雇ヒ両人参詣ニ罷越下向九月七日大和國八木高田ノ間ノ川端エ来リシニ此谷川平日扱橋ニテ通行セシニ架ルコト七八寸計リ且急流ナテ谷川ノ水増リ橋上ニ乗ルコトヲ恐レ進ミ得ス熊太郎ルユヘ人夫ナル常次郎ハ是レニ恐レ進ミ得ス熊太郎エ暫時見合スベシト止ムレトモ聞入レズ明日ハ節季タリ半刻モ猶豫アルベカラズト申スウチ里人出来リ倶ニ諭シ令暫ク見合スベシ橋上ノ水一尺ニ至ラハ村

方ヨリ渡シ舟ヲ出スベシ唯今ハ渡ルベカラズトゝヘトモ熊太郎尚ホモ用ヒズ人夫里人ノ臆病ナルヲ嘲リ自己ニ荷物ヲ取擔ヒ我先進スヘシ續ケヨト云捨テ橋上半バニ至ルノセツ急流ニ足許浮キ忽轉倒シテ水中ニ没シ援ケ呉レヨト喚声ト共ニ渦巻中ニ沈流セリ人丈仰天スレトモ詮方ナク急ミ村方エ談シ水底ヲ探ルニ荷物ノミ揚リテ骸ハ流レ去リシ様子ナリ此由大阪宿元エ迅脚ヲ以テ申越立會種ミ詮策スレトモ知レサルヨシ

評者云此者強情ニテ里夫ノ教諭ヲ用ヒズ自滅セリ

トハ申ナカラモ當新聞紙第廿一号ニ載セシ和歌山縣下ていノ女ノ志貴児沙門参詣ノ下向路金ヲ失ヒ投身セントセシ条未評ノ如ク是又山上ノ行者ナニ故カニル信者ノ變(ヘン)兎ヲ外見セルヤ不審(イフカシ)也

〇新町橋新造出来相成タリ錦組板ヲ以架渡シ水中ニ一柱ヲ用ヒズ欄干廻リハ總テ槻ヲ以テ之ヲ造リ其堅要ナル事謂ヒカタナシ又橋頭魚岩トユヘル料理店アリ軒ヲ切落シ西洋風ニ塗立美ヲ倶ニス餅屋何某モ同ク軒ヲ無クシテ直立一斤ニ塗立テ各新橋ノ風光ト繁栄ヲトモニセントス開化ノ精心愉快ナリ

〇長崎ヨリノ急報

魯國皇子九月廿五日長崎着港廿六日伊達従三位面會有リタルニ十月四日頃マテ同所滞留四日揚錨ニテ多分六日頃兵庫着ノ積リナルヨシ

〇當地驅黴入院ノ遊妓八月ヨリ九月迄

高百四十六人九月中入院六十五人

總計二百十一人内全快出院五十五人

重病宿下ケ七人病死一人アリト云フ

物價表

米堂鳴濬　開商社商品時價

摂津	二日	三歩七セン	酒	拾駄	銘	四十五両	黒砂糖 二番
肥後	同日	同八十五セン	塩	百俵	地廻リ	四十 両	白
筑前	同日	同五十八セン	茶	百斤	飛田十三条七毛	八頭	綿 金壱両
水油一石	同	歩五十九セン	鰯	百升	二十五毛	二十九枚	小綿 雲州
鯖			鰯	同	二十五毛	九十五枚	純綿 白布
鰯			鰯	同	二十五毛	九十五枚	生糸
地廻	十六両二ア		寒天	角	千本	四百ヨリ	六条
壱	十五両二朱						

伏テ冀フ四方同好ノ君子何事ニヨラス新説異聞アラハ本局ヘ投書ハ必ス顧名ニテ可被遣若シ是社ノ心得迄ニテ出板後ハ焼棄可申候　○望ニヨツテ出板スル件ハ譯セモノ集會等引札　其他世間ニ披露事件総テ應需ニテ引請可申候

出板一行廿三字ニ付定價五銭

本局	本町四丁目	書籍會社	
撰集所	長堀北池濱東	青湖堂	
取次	大阪	所々	村上勘兵衛
	西京	橋川瀬石丁角	村上出店
	東京	日本橋通	

下

明治五年申年　大阪新聞第四十号

西洋千八百七十二年　明治五年壬申十月四日

本日晴　寒暖計六十度

大阪新聞　第四十號

隔日發兌

開港御入費之内ヘ上納金

一金五百圓

東大組第六區未吉橋通四丁目

莊保勝藏

○當五月十一日夜城州深喜郡奈島邨十河源三郎ト申者ヲ及殺害候藝州廣島竹屋町夷屋幸兵衛倅辰藏并同人弟ト申立候モノト両人ノモノ先頃京都府ニ於テ被召捕追々糺弾之有ル処當五月中旬右辰藏ナルモノ摂

州十三川渡場之庁最寄ニテ年齢卅才計ノ男油賣歩行罷在ルモノ引捕ヘ抜刀ノ上金銭可差出旨威セシ処声立逃掛クルニ付引留首筋ヨリ脊中ヘ掛ケ切込打倒シテ着用ノ銚子縮緬半剥取并油荷箱ノ内ニ有之銅銭十二貫計奪取逃去シ旨申立シ由ニテ京府ヨリ阪府ヘ掛合ニ相成候処賊難ニ逢シモノハ當府下北大組筭十區若松町杉田信一郎借家藤田泰藏ト申モノニテ即死致シタル由ナリ當地ハ一旦蹟ヲ隠スト雖モ天網遁レ難ク終ニ京府ノ捕ハレニ就ク可恐可慎事ナリ

〇南大組第九區中橋筋八幡筋北弐商渡世多羅尾平助申三拾六才九月十三日縊死セリ何故ナルヲ知ラズ街説ニハ借財苦心ノ余リ也トゾ嗚呼此者何故カク小量ニ正明申出ベシ誰カ人命ヲ求ムル者アランヤ不如其罪其身ヲ責ムルニアラズンバ文明ヲ樂シムノ今日自殺ヲナシテ彼我何ノ益カアラン愚ナル哉又可憫

〇府下谷町長尾藤三ト云者アリ年来灰吹ヲ業トセルヨシ近来出納寮ノ御用ヲ請負壱分銀數万斤ヲ灰吹スルヨシ然ルニ壬人藤三毎日諸職人ニ先千筒袖縮緬一枚ニテ汙水流シテ勉強不倦ヨシ自分ノ活計トハ云ナ

カラ府下ノ人ニハ珍ラシキ感スヘキ勉励家トノ噂アリ一般ノ人モコノ藤三ヲ手本ニイタシ銘々一層憤発ソノ職業ニ勉励セハ一家ノ富ハ申迄モナク終ニ全府下ノ繁栄ヲ致スニ至ランカ

布令

右第四大學區第壱番中学ト改称候事

壬申八月

文部省

右之通達有之候間管内無洩相達ルモノ也

壬申九月

大阪府

開成所

○英人「モリース」和蘭人「リイスート」并ニ同人召仕豊藏三人之者共新町四丁目井上寛二郎方ニテ馬三匹借乗川崎行ト申欺キ無免状ニテ上京ナシタル様子ニ付阪府ヨリ取押ヱノ為附属数人差遣ハサレタルニ彼等ハ入京之上所々遊覧致シ帰ル途中牧方ニヲイテ召捕ヘラレタリ偖夫ヨリ取糺アルニ新町ノ借馬代猶牧方ニテノ飲食代等一切不相拂第一無免状ニテ猥ニ入京致シタル趣ヲ以其國領事ニ掛合相成終ニ「モリース」ハ罰金十五両可差出旨被達タルヨシ「リイスート」ハ和蘭無籍ノ者ノヨシ此洋人糺問後俄ニ脱走致シタルニ付當時尋人ニ相

成長崎兵庫神奈川等ヘモ通達コレアリ召仕ノ豊蔵ハ
斜(ナナメ)問中所預(アヅ)ケニ相成リ居ルヨシ

○西大組第五區梅本町ニ住居牛肉賣(ヒサ)鬻渡世山口屋松
五郎儀去未八月晦日頃ヨリ當八月晦日頃迄生牛千三
百八拾四疋屠殺シタルニ付去月八日頃摂州西成郡第一
區難波村南組浄土宗竹林寺ニヲイテ屠牛菩提回向供
養ノ為金五両持参佛支相営タル由

今橋通二丁目元但馬屋辰藏実子
元吉當申十才
辰藏後妻
さき當申廿五才

右之者戌夜熟(ツラ)睡(ラ)致シ風ト目覚セシニ豈圖(アニハカ)ランヤ漸(ヤヽ)十
才ナル継子元吉ナル者継母ニ寄リ濫事ヲ行ヒ居ルニ
ソ怕(ヒック)リシテ起(オキ)直リ大井ニセヲ折檻(セッカン)致セシニ其後時々
眠間ヲ窺(ウカヾ)ヒ前條ノ仕業ヲナサントスルニヅ父母嚴敷(サヒシク)
抔擲(テウチャク)スレトモ更ニ不用(ヨウヒ)テ其戸長ヲ頼出(タノミ)シ故戸長元
吉ヲ呼テ大井ニ叱(シカ)リ教諭(キョウユ)ヲ加ヘ以後ヵ様ナル所業存
念有之ニオ井テハ府聽(チョウ)ヲ訝ヘ嚴(ゲン)重ニ処ス可シト申聞
シニ是ニテ恐怖(キョウフ)シ以来カ様ノ念更ニ致スマシト申詫
ヒ其後ハ一切右様ノ仕業ナシトヅ右元吉戸長ニテ問
試シニ應答(ヘンタウ)才辨(サイベン)余児ニ異ナリトゾカヽル大膽(タン)ナ

ル児童生長ノ後ハ善悪共ニ他ニ接スルモノトナルベキニ付早ク学校ニテ厳シク教導アリタキモノナリ

○ 従勢州報知

久居在高野村川尻甚吾西川祐平ト云者元来性質篤実ノ者ナルガ此度ノ説教ヲ聴聞シ大ニ敬神愛国ノ心ヲ感発シ申シケルハ不肖ノ身ナカラ説教場ノ會計其外総テノ事尽力勉励致シ度且数里外説教場エモ屢出周旋イタシ度旨敢官ニ申出タリ其容貌ヲ諦視スルニ実ニ中心ヨリ感発セシヨシナリ纔両三日ノ説教ニカクノ如クノ者アルハ不日神教ノ海内ニ振起スル知ルベキナリ豈恭喜ニ堪サルベケンヤ

廣告

投書ハ奇事新説ヲ始メ総テ世ニ益アル事ニテ自然勧善懲悪ノ旨趣ニ適フモノハ挙テ上梓スレドモ私ノ遺恨等ヲ以人ヲ謗リ或ハ不平心ニ托シ非ヲ理ニ書飾シ且無根ノ流説等ニテ人ノ損害ニ關ハル事件ハ一切上梓致サヽル候

投書ハ向後著名ニテ投入シ玉フベシ尤社中ノ心得迄ニテ紙上ニハ其名ヲ記セズ上梓ノ上ニハ悉ク焼棄可申候若文中齟齬ノ事ヲラバ公明ノ討論ヲ述ベ顕名ニテ報答アラバ早速当版スヘシ続テ投書ニ付テ議論相生スルトモ當社ニハ關係致サヽル候

社中敬白

物價日表

米　堂嶋濟　開商社

摂津　四日三分十五セン　酒拾駄　銘柄四十五両　地廻リ四十一両

肥後　同日同八十五セン　塩百俵　飛田十二条五セン　アコ二十条

筑前　同日同五十八セン　茶百斤　大頭洋六十枚　上頭五十六枚　四十五枚

水油一石　同日廿三条　鰯〆粕　鰯〆粕　同二十五枚　羽鯡九十枚

鰯百方　地廻十六両　登十五両二分

黒砂糖百斤　四両四十セン　綿金壱両　阪上七百七十目　京丹八百目

綿実州　四十二条　三十四条　木綿実州　三十条　純錦百千　九三両

生糸　昆布百七十本　八百条　三条五十枚　寒天角千本　四条ヨリ六条

代テ糞ノ四方同好ノ君子何事ヲカ之ニ加ヘン　本局及ヒ撰集所ニ於テ素志ヲ助ケ玉ハヽ幸テ仰ク　投書ハ必ス顧名ニテ可被遣尤ヒ是社ノ心得迫テ出板後ハ　焼棄可申候　○堂ニヨツテ出板スル件ハ諸品賣買ノ新店開キ　△翻セモノ集會等引札　其他世間ニ披露事件総テ悪其望ニテ引請可申候

大阪一行社ニ於テ定價正銭ニテ引請可申候

本局　本町高麗橋東詰　書籍會社　撰集所　長堀北濱東詰　青湖堂　吸々々　大阪　村上勘兵衛　京都　村上勘兵衛　次　東京　日本橋通一丁目　須川瀬右エ門角　村上治店　下